

健やか親子なは 2015

那覇市母子保健計画

(平成 27 年度～平成 36 年度)



平成 27 年 3 月

沖縄県 那覇市

すべての親と子が地域の中で ともに
いきいきと健やかに生活ができるために



私たちのまち那覇市は、平成 17 年には人口が 31 万人を超え、毎年 3,500 人前後の赤ちゃんが誕生しております。平成 25 年の那覇市の出生率（人口千対）は 11.0 と、全国平均の 8.2 よりも高く、次代を担う子ども達がこのように多く生まれ育っていることは、本市にとりまして、大変喜ばしいことと存じます。

妊娠・出産を支える母子保健は、その後の乳幼児期、学童・思春期を通して、親と子がともに成長し、未来を担う世代を健やかに育てることにより、生涯を通じた健康づくりにつながる大変重要な施策であると考えております。

しかしながら、近年の少子高齢社会の進展に伴い、核家族の増加、地域のつながりの希薄化等、親と子を取り巻く生活環境の著しい変化とともに、母子保健ニーズは幅広く多様化しております。

また、産後うつや育児不安、むし歯予防や乳幼児健診受診率の向上、思春期保健など多岐にわたる母子保健の課題もあります。

こうした状況を踏まえ、これまでの母子保健計画の評価を行い、妊娠・出産・子育てに関する現状分析と今後 10 年間の望ましい方向性等について検討し、平成 27 年度から平成 36 年度までの「健やか親子なは 2015」を策定いたしました。

これを機に、「すべての親と子が地域の中で、ともにいきいきと健やかに生活できる」那覇市をめざして、妊婦や子育て中の親子とその家族が、健康に関心を持つとともに、子育て家庭の親を孤立させないよう見守り支え合える地域づくりを一層進めてまいります。

本計画の推進につきましては、関係機関をはじめ、地域の活動団体等との連携を深め、より充実した母子保健、子育て支援に行政といたしましても全力で取り組んでまいります。市民の皆さまに期待したい取り組みもございますので、ご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

最後に、計画策定にあたり、ご尽力いただきました「那覇市母子保健推進協議会」、計画策定作業部会及び関係機関の皆さま、また、乳幼児健康診査会場において調査にご協力いただきました市民の皆さまに心から感謝申し上げます。

平成 27 年 3 月
那覇市長 城間 幹子

目 次

第 1 章	計画の策定にあたって	1
1.	計画策定の趣旨	1
2.	計画の位置づけ	2
3.	計画の期間と見直し	3
4.	計画策定の方法	4
第 2 章	那覇市の母子保健がめざす姿	7
1.	計画の基本理念（めざす姿）	7
2.	基本目標	7
3.	計画の枠組み	9
第 3 章	那覇市が進める母子保健の取り組み	11
基本目標 1	安心、安全な妊娠・出産・育児ができる	11
基本目標 2	乳幼児期から規則正しい生活習慣を身につけ、 親も子ども健やかに成長し、笑顔で生活できる	20
基本目標 3	地域に守られながら、子ども自らこころとからだの健康を 考え行動できる力がつく	35
基本目標 4	親が心にゆとりを持ち子育てできる	45
第 4 章	計画を着実に進めるために	53
参考資料		
1.	那覇市の母子等を取り巻く状況（統計データ）	55
2.	「健やか親子なは」の総合評価と残された課題	78
3.	策定作業部会からの現状と課題	92
4.	課題の集約	95
5.	乳幼児健診（健やか親子なは）アンケート調査結果	97
6.	「健康なは 21」に関するアンケート調査結果	105
7.	那覇市母子保健推進協議会規則など	118
8.	策定の経緯	122

第1章

計画の策定にあたって

第1章 計画の策定にあたって

1. 計画策定の趣旨

わが国では、少子高齢化や核家族化の進行、地域のつながりが希薄化していることなど、親子を取り巻く環境が大きく変化している中であって、安心して親子が暮らせる環境づくりが求められています。

特に、母子保健は生涯を通じた健康づくりの出発点であり、健やかにこどもを産み育てることができる環境を社会全体で整えていく必要があります。

そのため、国においては昭和40年に制定した母子保健法に基づき、母性並びに乳児及び幼児の健康の保持及び増進を図るため、保健指導、健康診査、医療その他の措置を講じています。さらに、21世紀初頭における母子保健の主要な取り組みを提示するビジョンとして「健やか親子21」（平成26年まで）が策定され、平成27年度より新たに「健やか親子21（第2次）」が始まります。新たな計画では、「すべての子どもが健やかに育つ社会」の実現に向け、「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」、「学童・思春期から成人期に向けた保健対策」、「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」の3つの基盤課題と、「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」、「妊娠期からの児童虐待防止対策」の2つの重点課題の対策を推進していくことが位置づけられています。

本市においては、平成9年の母子保健法の改正に伴い、市民に母子保健サービスを提供するため、平成11年に母子保健計画「ほほえみプランなは」の策定を行いました。

さらに、平成15年7月に次世代育成支援対策推進法が成立し、行動計画の策定が市町村に義務づけられました。この行動計画は、児童育成計画や母子保健計画の法定計画と位置づけられており、本市においても「那覇市次世代育成支援行動計画」と連動させるかたちで、平成16年度に10年計画となる母子保健計画「健やか親子なは」の策定を行いました。「健やか親子なは」は、当事者及び行政内の関係課、保健ボランティア、子育てサポート機関、医療機関など関係機関が連携しながら各々のできることを推進していくヘルスプロモーションの考えをもとに策定し、母子保健サービスを展開してきました。

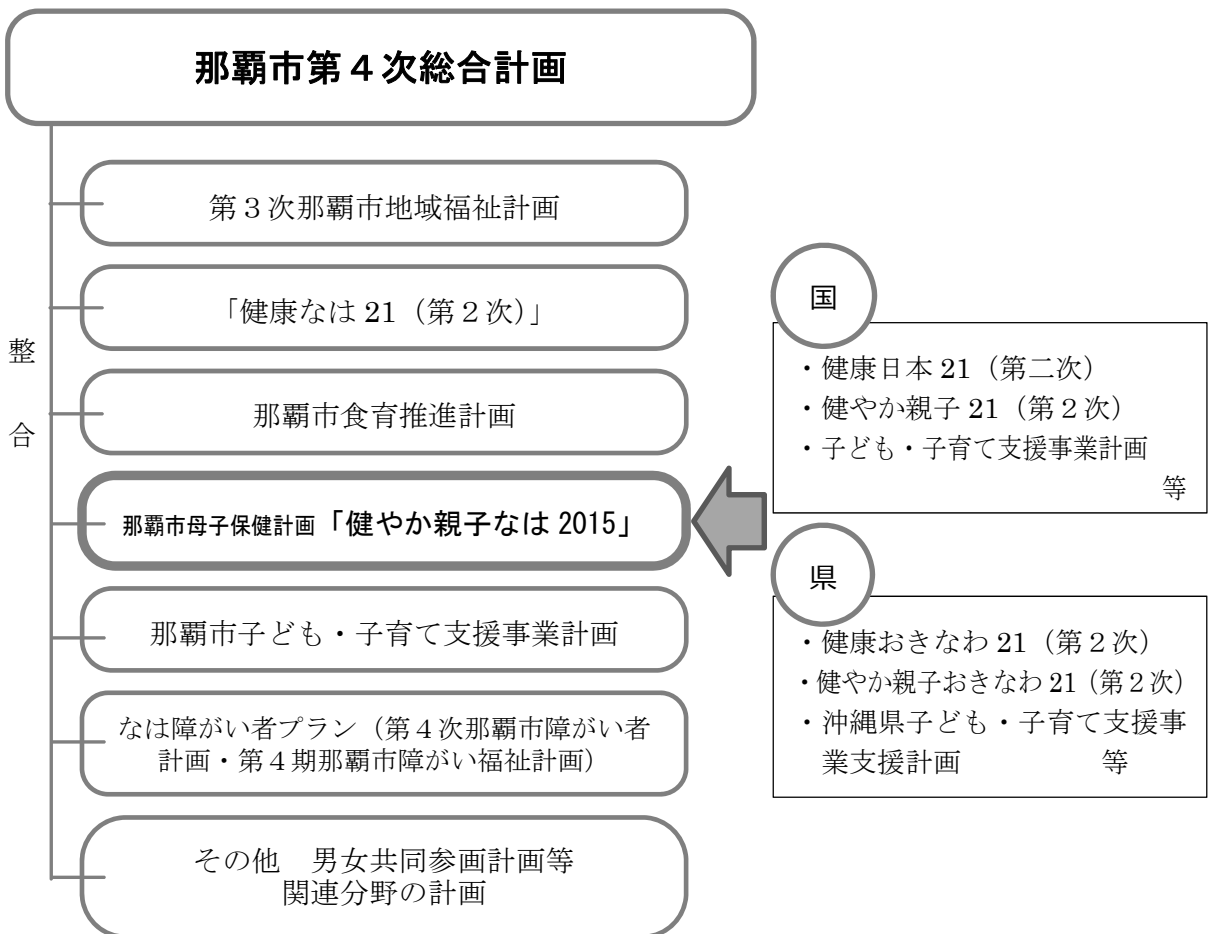
このたび、「健やか親子なは」の計画期間の満了にあたり、これまでの取り組みの評価・分析を行い、新たな母子保健計画として「健やか親子なは2015」を策定いたしました。今後においても国の「健やか親子21（第2次）」の基本的な考え方などをもとに、「健康なは21（第2次）」等の関連計画との整合性を図りながら、関係団体及び関係機関等との連携のもと取り組みます。

本市は平成25年度に中核市となったことから、新たな保健所業務を加え、様々なサービスを一元化し、地域の実情に即した母子保健事業の実施をめざします。

2. 計画の位置づけ

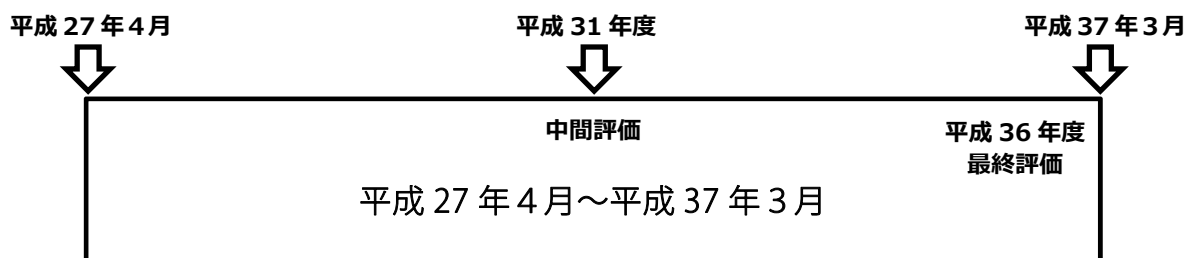
那覇市母子保健計画「健やか親子なは 2015」は、那覇市第4次総合計画を上位計画とし、那覇市のめざす母子保健の方向性や目標に向けて必要な取り組みを位置づけています。また、「健康なは21（第2次）」、「那覇市子ども・子育て支援事業計画」等、他の計画と整合性を図りながら推進します。

本市の現状及び課題の特徴を明らかにし、進捗状況や結果を比較・評価していくためにも、国の「健やか親子 21（第2次）」の基本的な考えや課題、指標を参考とし策定するものです。



3. 計画の期間と見直し

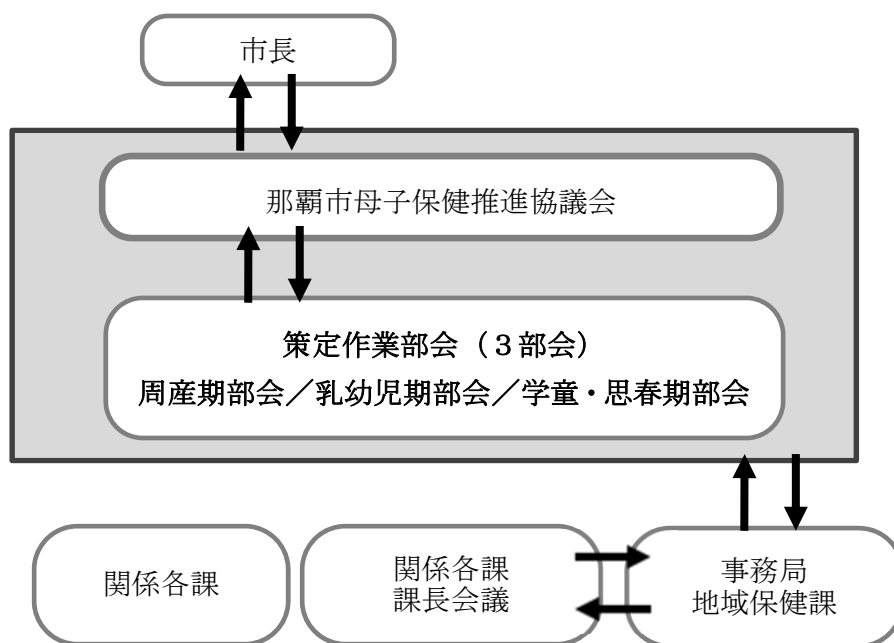
母子保健計画「健やか親子なは 2015」は、平成 27 年度から平成 36 年度までの 10 年計画とします。なお、5 年後の平成 31 年度には、その時の市の状況や社会情勢に応じた計画となるよう、中間年に評価及び見直しを行うものとします。



4. 計画策定の方法

(1) 計画策定の体制

計画の策定にあたっては、「那覇市母子保健推進協議会」において検討を行うとともに、母子保健に関わる活動を行う関係機関・団体等からの意見や課題、提案を求める「策定作業部会（3部会）」を設置して、議論を行いました。



那覇市母子保健推進協議会



「健やか親子なは」策定作業部会



(2) 策定作業部会等の開催

「健やか親子なは」計画策定作業部会

- 那覇市の母子保健に関する課題の確認
地域などで、母子を支える活動を通して見えてきた那覇市の母子保健の現状と課題について確認をし、優先的に取り組まなければならない課題などについて話し合いをしました。
- 問題解決のための取り組み検討
課題解決のために、それぞれの機関・団体などで何ができるのか、取り組みを出しあい、活動上連携しやすいよう、関係者（行政、市民、関係機関など）の役割分担を確認しました。

那覇市母子保健推進協議会

- 市長の諮問を受け、「健やか親子なは 2015」について協議し、市長へ答申、策定後は推進や連携について協議し、進捗管理を行います。

(3) アンケート調査と計画素案に対する意見公募の実施

- アンケート調査
妊娠、育児その他子育てについての意識や実態等を把握し、「健やか親子なは 2015」を策定するための基礎資料として活用する目的で実施しました。
- 計画素案に対する意見公募
本計画の策定にあたり、その内容について広く市民の意見を聴取するため、平成 27 年 2 月に、意見公募を行いました。



第2章

那覇市の母子保健がめざす姿

第2章 那覇市の母子保健がめざす姿

1. 計画の基本理念（めざす姿）

すべての親と子が地域の中でともにいきいきと健やかな生活ができる

那覇市においても国と同様に、少子化、共働き家庭の増加、地域の交流の希薄化等を背景に、こどもやその保護者を取り巻く環境が多様化しています。この那覇のまちで、すべての親と子が健やかな生活を送るためには、それぞれの状況や環境に応じた母子保健サービスの充実や妊娠・出産・子育て・親育ちを応援する地域（環境）づくりが必要です。

そこで、妊産婦・乳幼児・学童・思春期のこどもやその家族（保護者）が生涯を通して、健康な生活を送ることができるように、一人ひとりのセルフケア能力を高め、近隣や地域全体（社会）で助け合う力（地域力）が育つように取り組んでいきます。

そのため、母子保健や子育てに関わる行政及び関係機関や団体、地域の人々が、それぞれの取り組みや切れ目のない活動を円滑に行えるよう、共通の基本理念（めざす姿）を掲げます。

2. 基本目標

「すべての親と子が地域の中でともにいきいきと健やかな生活ができる」那覇市を実現するため、次の4つの基本目標を設定します。

この4つの基本目標は、「健やか親子21（第2次）」で示された課題や、「健やか親子なは」の総合評価、そのほか母子保健に関係する施策の評価、母子保健データやアンケート結果などを、ライフステージを柱として整理し設定したものです。

基本目標1：安心、安全な妊娠・出産・育児ができる

健やかな妊娠期・出産期を迎えるために、自らの心身の状態を十分に知り、妊娠前から健康や日常生活に気を配ることが大切です。

そのために、妊娠・出産に関する正しい知識の普及と情報提供を行い、妊婦健診や各種サービスが受けられ主体的な健康管理が行えるよう支援するとともに、不妊などに関する相談体制の充実を図ります。

また、産前・産後のケアが必要な方の早期発見と適切なサポートへつなぐことができるよう、関係機関や地域との連携強化に努めます。

基本目標 2 : 乳幼児期から規則正しい生活習慣を身につけ、親も子も健やかに成長し、笑顔で生活できる

乳幼児期は、心と体の発達の基礎を形成し、生活習慣が身につく大切な時期です。その時期に受ける乳幼児健康診査は、こどもの成長を把握し、障がいや疾病を早期に発見する重要な取り組みであることから、健診の受診勧奨に努めます。

こどもの生活習慣は、保護者の生活習慣に影響されるため、家族ぐるみで健やかな生活習慣を確立するために、保護者等の健康意識を高める取り組みを推進します。また、こどもの育ちなどに不安を抱える保護者とそのこどもへ寄り添い、適切な支援や相談が受けられるよう連携体制を充実します。発育段階や障がいなどに対し、正しく理解できるよう、周知活動に努めます。

感染症からこどもを守るため、予防接種の必要性を周知します。事故予防については、保護者に対する意識啓発のために、予防方法を学ぶ機会や情報発信を充実します。

基本目標 3 : 地域に守られながら、こども自らこころとからだの健康を考え行動できる力がつく

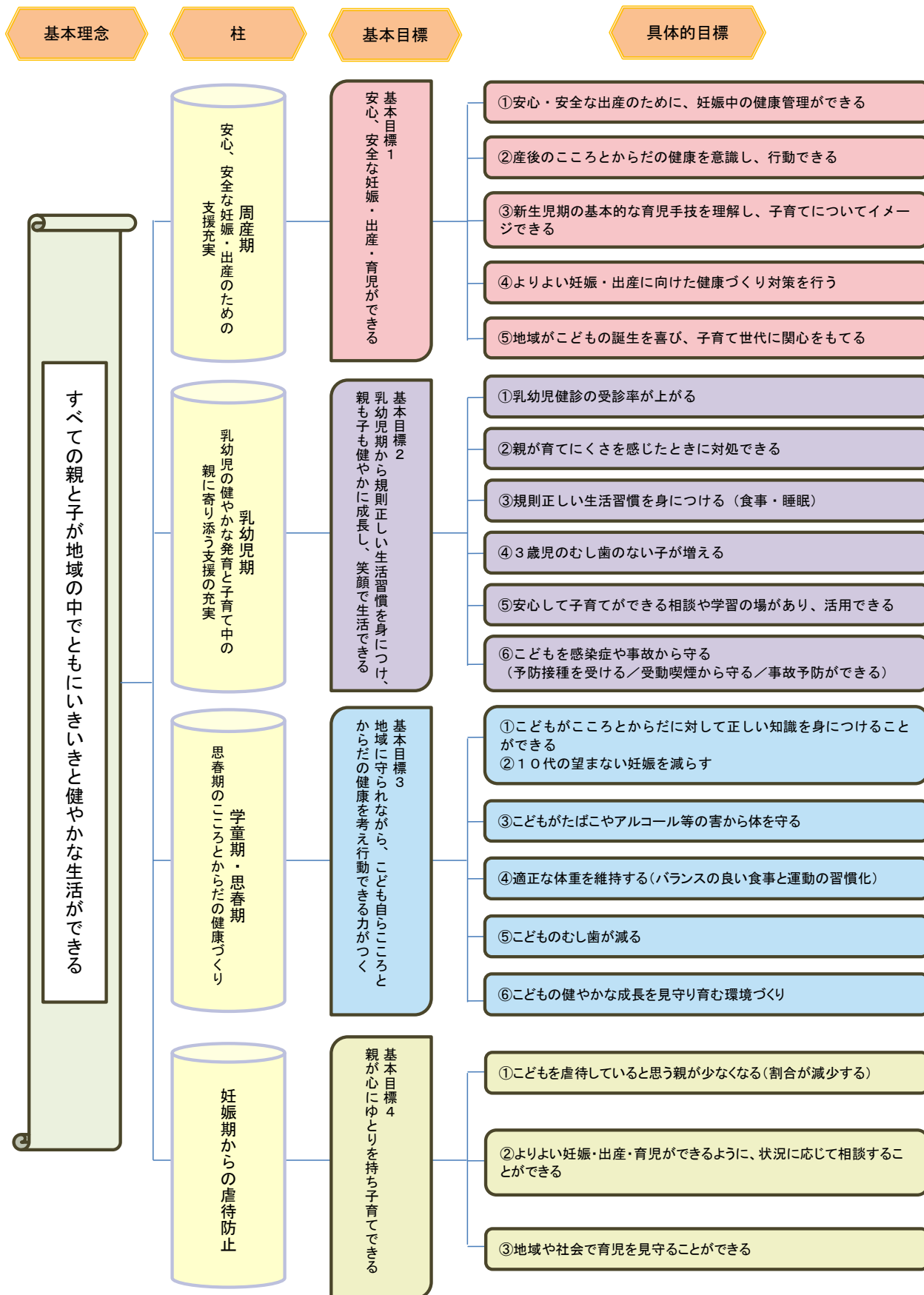
学童期・思春期は、こどもから大人のからだへと成長し、こころも大きく変化する時期です。将来、親となり次世代を育むために、命の大切さや、心身の健康づくりを早い時期から認識して、行動することが大切です。

こども一人ひとりが、心身の健康についての正しい知識を学び、自分と他者を大切に、適切な生活習慣を身につけることができるよう、発達段階に応じた健康教育や思春期教育等の実施に努めます。身体の変化や性の悩みなど、こどもが抱える健康問題に適切に対処できるよう、学校や保護者や地域等との連携を強化します。また、喫煙や飲酒の害などからこどもの健康を守るため、学校での教育やPTAの活動と連動した普及啓発を進めます。

基本目標 4 : 親が心にゆとりをもち子育てできる

乳幼児健診（健やか親子なは）アンケート調査において、こどもを虐待しているのではないかと感じている保護者がみられました。核家族が増加し、地域の関係にも希薄化がみられ、孤立し育児不安やストレスを抱えている保護者も少なくないといわれています。そのような中、母子保健事業は親子健康手帳の交付や、乳幼児健康診査、相談対応など、妊娠期や乳幼児期まで展開しており、不安を抱える保護者の早期発見ができる重要な役割を担っています。気になる親子に対しては、関係機関と連携しながら、状況の確認を行うとともに、適切な支援に繋がります。同時に、地域や関係機関と協力し、父親等の子育て参加の促進や育児力をサポートするなど、子育てしやすい環境づくりに取り組みます。

3. 計画の枠組み





第3章

那覇市が進める母子保健の取り組み

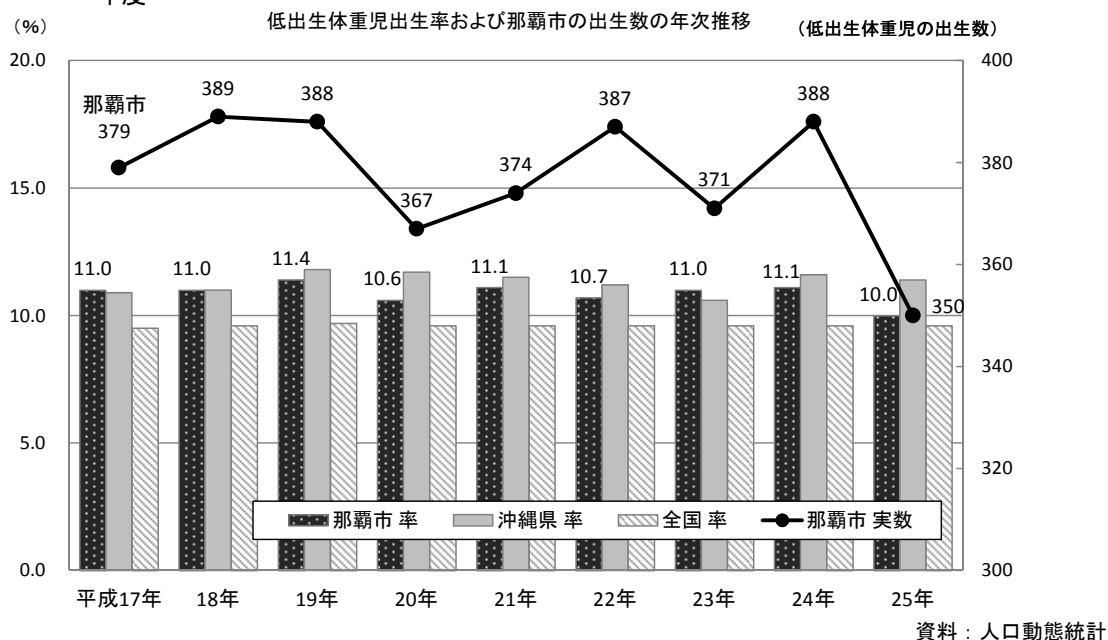
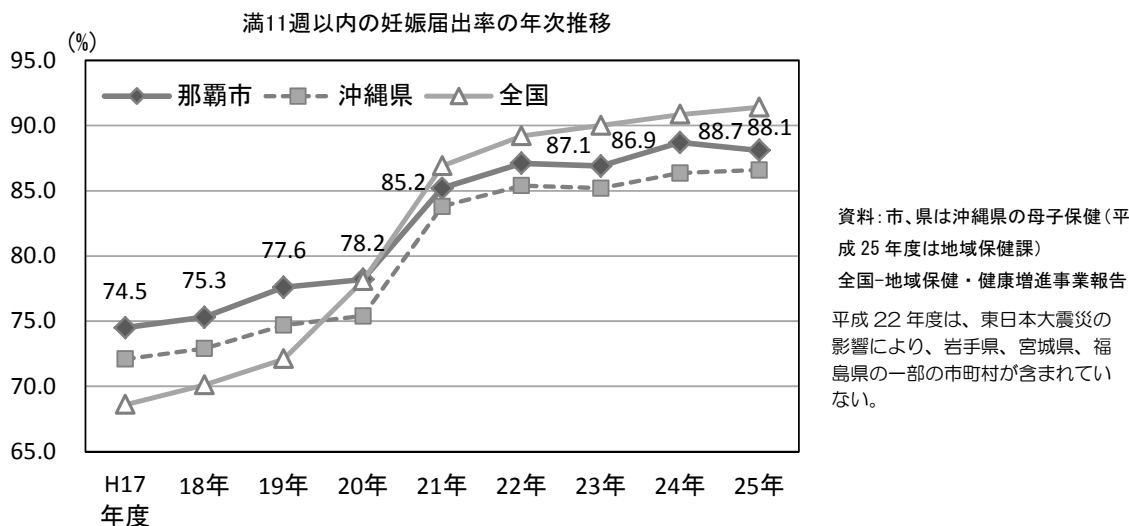
第3章 那覇市が進める母子保健の取り組み

基本目標1 安心、安全な妊娠・出産・育児ができる

具体的目標①安心・安全な出産のために、妊娠中の健康管理ができる

■現状と課題

妊娠届出について、妊娠11週以内の届け出は年々増えているものの、11週以降の届け出も1割ほどあることから、母体や胎児の健康管理のためにも早期の届け出の必要性について呼びかける必要があります。また、低出生体重児（2,500g未満）の割合が全国平均よりも高く、その要因とされる妊婦の喫煙もみられることから、適切な健康管理が行えるよう、妊婦健診の受診勧奨を行い、産科医療機関等と連携しながら保健指導や栄養指導を推進する必要があります。妊娠、出産に対する相談を行い、妊婦や保護者等の不安軽減に努める必要があります。



那覇市

妊娠中の 妊婦の喫煙率	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
	7.0%	6.8%	5.3%	4.6%	4.1%	4.6%

資料：乳幼児健康診査報告書（沖縄県小児保健協会）

■ 目標達成に向けた取り組み

（１）市民に期待する自らの取り組み

- ①妊娠に気付いたら、早め（妊娠 11 週以内）に妊娠を届け出、親子健康手帳をもらう
- ②親子健康手帳の内容をひと通り読み、活用する
- ③妊婦とおなかの赤ちゃんの健康管理のため、定期的に妊婦健診を受ける
- ④喫煙（受動喫煙含む）が母体、胎児に及ぼす影響を理解し、たばこを吸わない
- ⑤バランスのとれた食事を心がけ、適正体重を維持する
- ⑥妊婦の時期から歯科健診を受け胎児に悪影響を及ぼす歯周病を予防するとともに、生まれてくる子どものむし歯予防に努める

（２）市民を支える関係機関、関係団体等の取り組み

機関・団体名	取り組み内容
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ・親子健康手帳の早期取得の促進 ・妊婦の健康管理に対する意識づくりの推進（各種相談の実施や情報提供） ・妊婦健診有所見者への指導・支援体制の整備 ・妊産婦の禁煙対策の充実（産婦人科、禁煙外来のある医療機関） ・妊産婦栄養相談事業の活用 ・切迫早産・低出生体重児の出生予防対策の充実 ・母親学級等での口腔衛生の指導の充実
歯科医院	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦歯科健診時の口腔衛生指導
南部地区歯科 医師会	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦歯科健診に対する会員への指導教育
県栄養士会	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関等からの依頼による出前栄養講座等の開催 ・適正体重維持の周知 ・低出生体重児の出生予防のための妊婦の栄養状態の改善、普及啓発に向けた取り組み内容の検討 ・妊産婦、高校生、大学生に対する「健康づくり協力店」の周知
市食生活改善 推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での料理教室やイベント等を活用した食の関心を高めるための啓発活動の推進 ・食生活展等による望ましい食習慣、食の大切さを普及啓発

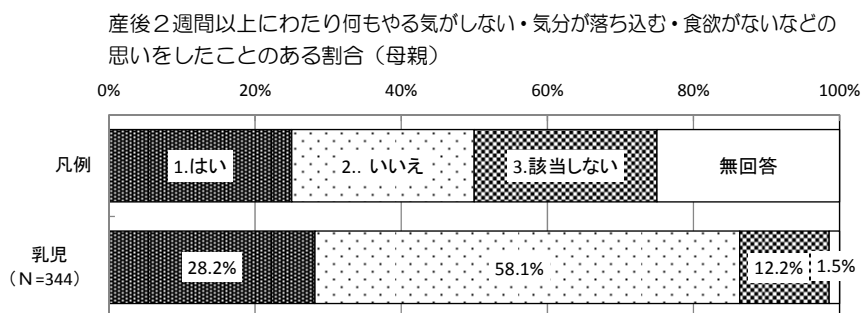
(3) 那覇市の取り組み

所管課名	取り組み内容
地域保健課	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦の禁煙対策の充実（在宅助産師の妊産婦・新生児訪問における禁煙指導、外部講師の活用、集団教室、視覚的教材の活用など） ・早期の妊娠届出、妊婦健診費用助成の周知徹底（妊娠検査薬販売のある薬局へのポスター掲示など） ・親子健康手帳交付時から支援を必要とする妊婦の把握体制の整備、支援の充実 ・産婦人科医療機関連絡会を活用した医療機関との連携強化 ・妊娠・出産に関する相談窓口の周知 ・親子健康手帳発行窓口での妊娠出産に関する配布資料・内容の充実 ・栄養に関する正しい知識の普及・啓発、事業の紹介（妊産婦栄養相談など健康増進課と連携） ・妊婦健診有所見者への支援体制の整備（医療機関との連携）
健康増進課	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期における歯科健診への受診勧奨の継続、妊婦の口腔保健への意識向上のための普及啓発 ・歯周病と低体重児出生の関連性についての普及啓発 ・禁煙外来や禁煙治療をしている医療機関に関する情報提供の充実 ・妊産婦栄養相談事業の周知 ・親子健康手帳発行窓口での食事指導や妊産婦に対しての栄養相談の実施

具体的目標②産後のこころとからだの健康を意識し、行動できる

■ 現状と課題

産後うつ病の早期発見と予防について、親子健康手帳交付時には、マタニティブルーや産後うつ病を周知し、医療機関からの支援依頼等を受け、個別の産婦支援の取り組みを行っています。しかしながら、「産むかどうか迷った」母親が4.1%（135名）、「困った」が17名（平成25年度 親子健康手帳交付アンケート）、「産後2週間以上にわたり何もやる気がしない、気分が落ち込む、食欲がない、眠れない等の思いをしたことがある」母親が28.2%（平成26年度 乳幼児健診（健やか親子なは）アンケート調査）となっていることから、産後のメンタルヘルスケアや相談体制の構築が求められます。また、適切な医療や支援へつなげるためにも、産婦人科、精神科等との連携が求められます。



資料：平成26年度 乳幼児健診（健やか親子なは）アンケート調査

■ 目標達成に向けた取り組み

(1) 市民に期待する自らの取り組み

- ①自身のからだの状態を知り、望ましい生活習慣を心がける
- ②家族は産後の体調の変化について正しい知識をもつ
- ③こころとからだの状態に応じて、医療機関を受診する
- ④産後間もない母親のこころとからだの不調に気づいたら声をかけ、サポートを行う

(2) 市民を支える関係機関、関係団体等の取り組み

機関・団体名	取り組み内容
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ・母親の育児力、愛着形成等の確認による育児支援の充実 ・産後うつ病の早期発見による適切な対応 ・産褥婦の体調管理体制の充実 ・褥婦及び家族の禁煙指導の充実
沖縄県健康長寿課 (沖縄県女性健康支援センター)	<ul style="list-style-type: none"> ・女性が思春期から妊娠、出産、更年期に至るまでに、そのライフステージの中で抱える心身の健康に関する一般的な相談対応

(3) 那覇市の取り組み

所管課名	取り組み内容
地域保健課	<ul style="list-style-type: none"> ・妊産婦・新生児訪問の充実（質問票の活用、初産婦への訪問、妊娠期からの利用など） ・地区保健師の訪問相談支援の充実、支援方法の検討（質問票の活用による早期発見など） ・マタニティブルーや産後うつといったメンタルの状態変化について正しい知識の普及啓発 ・精神科や心療内科に関する相談先の情報提供、普及啓発（相談しやすいような案内、説明の工夫） ・精神疾患の既往、産後うつ症状既往のある方への早期支援の充実 ・産後うつ病の早期発見、関係機関との連携充実



具体的目標③新生児期の基本的な育児手技を理解し、子育てについてイメージできる

■ 現状と課題

子育て支援センター等では、妊婦を対象に育児イメージを持ってもらえるようプレママとしての受け入れも進んでおり、各機関が連携を意識した取り組みを推進しています。育児について、妊産婦や乳幼児の保護者が育児に関する不安を解消できるよう、基本的な育児技術を学べる産後ケア、相談体制の充実が求められています。また、妊娠前、妊娠期から子育てを学べる場、教育機会を増やす必要があります。

■ 目標達成に向けた取り組み

(1) 市民に期待する自らの取り組み

- ① 出産前から育児のイメージがもてるよう、先輩ママや家族、子育て支援センターや病院での妊婦教室等地域資源を活用する
- ② 育児に関する具体的な知識を積極的に得る
- ③ 子育てについて一人で悩まずに誰かに相談する

(2) 市民を支える関係機関、関係団体等の取り組み

機関・団体名	取り組み内容
医療機関	・ 母親の育児力、愛着形成等の確認による育児支援の充実（母乳同室の活用等）

(3) 那覇市の取り組み

所管課名	取り組み内容
地域保健課	・ 妊産婦・新生児訪問の活用（対象の拡充） ・ 妊娠期から出産、子育てのイメージができるよう、心構えや具体的な対応を伝える教材、パンフレットの充実 ・ 妊婦教室や両親学級の活用、医療機関との連携強化
こどもみらい課	・ 妊婦の悩み相談や実際のこどもに関わる体験をする『妊婦さんいらっしやい』（プレママ）の周知 ・ 地域の子育て拠点となる子育て支援センターの周知のため、市役所本庁での出前支援の定着

具体的目標④よりよい妊娠・出産に向けた健康づくり対策を行う

■現状と課題

不妊相談・情報提供について、一般的な不妊等への相談に対応しながら、必要に応じて、沖縄県の不妊専門相談センターを紹介したり、窓口へのチラシの設置等による周知を行ってきました。平成 25 年度より那覇市での対応となった「不妊に悩む方への特定治療支援事業」の申請窓口においては、保健師による相談対応を行っています。引き続き、不妊に悩む方の相談窓口、助成事業の周知が求められています。

また、生涯を通じた女性の健康支援事業（健康教育）では、不妊や不育症に対応するために、女性の健康と妊娠の時期等に関連した講話を実施しており、ライフステージに応じた身体の変化についての知識の普及に努める必要があります。

参考：生涯を通じた女性の健康づくり教育件数（平成 25 年度）：5 件（対象：高校生、子育て世代）

特定不妊治療費 助成事案件数	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
	266	261	343	371	311

資料：地域保健課

■目標達成に向けた取り組み

（１）市民に期待する自らの取り組み

- ①ライフステージに応じたからだの変化を知り、妊娠に向けての知識を積極的に得る
- ②身近な人と、妊娠・出産・子育てについて話し合う機会をもつ
- ③妊娠に悩んだときに、抱え込まず、専門機関に相談する

（２）市民を支える関係機関、関係団体等の取り組み

機関・団体名	取り組み内容
歯科医院	・歯周病と妊娠、親の口腔内環境が子に及ぼす影響に関わる正しい知識の普及啓発
南部地区歯科医師会	・親の口腔内環境が子に及ぼす影響など正しい知識の普及啓発について会員への指導教育
沖縄県健康長寿課 （沖縄県女性健康支援センター ／沖縄県不妊専門相談センター）	・身体的、精神的な悩みを有する女性に対する相談指導 ・妊娠、避妊についての確な判断を行うことができるよう相談を望む方、その必要性のある方への相談対応 ・不妊や妊娠に関する正しい知識の普及啓発 ・不妊治療に関する情報提供 ・女性の健康に関する学習会の開催

(3) 那覇市の取り組み

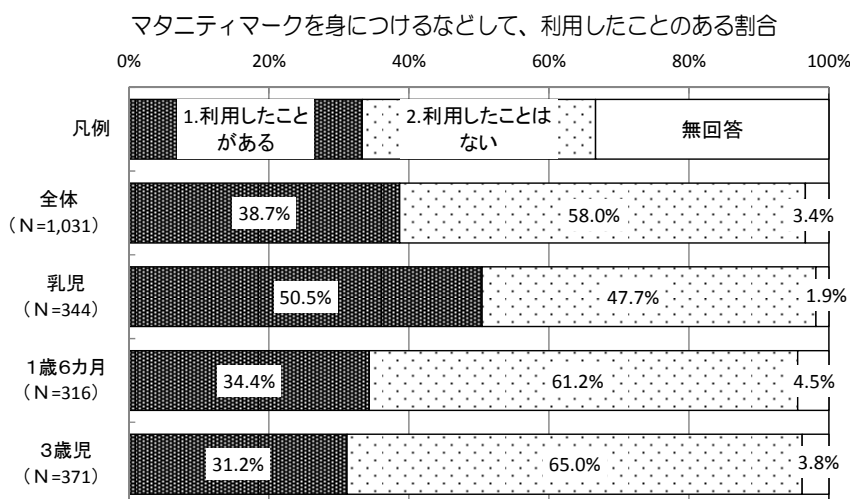
所管課名	取り組み内容
地域保健課	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠前の若い世代に対する喫煙ややせの影響、性感染症予防、避妊などについて、高校・大学などとの連携による普及啓発事業の充実 ・家族計画（年齢と身体の変化、妊娠しやすい時期、妊娠出産の費用など）の指導、望まない妊娠への対策、相談体制の充実 ・特定不妊治療の医療費助成についての周知 ・不妊・不育の知識について普及啓発
平和交流・男女参画課	<ul style="list-style-type: none"> ・男女雇用機会均等法における母性健康管理の措置などを周知することで、妊婦健診の受診や体調が不安定なときに、妊婦が安心して休める職場環境の整備充実

具体目標⑤地域がこどもの誕生を喜び、子育て世代に関心をもてる

■現状と課題

マタニティマークについて、全ての妊婦にマタニティマークのステッカーを配付し、利用の促進を図っていますが、平成 26 年度の乳幼児健診（健やか親子なは）アンケート調査結果をみると、妊娠中にマタニティマークを活用したことがある母親の割合は 38.7%と半数に満たない状況にあるため、引き続き、マタニティマークの周知と利用促進に努める必要があります。

核家族の増加や地域のつながりの希薄化等から、保護者が地域から育児方法を学ぶ機会が減少しています。地域の子育て力を向上するとともに、妊娠期からの居場所づくりや地域での子育てを支える母子保健ボランティアの育成、確保が求められています。また、働きながら妊娠、出産、育児が安心して出来る環境づくり（産業保健と地域保健との連携）が求められています。



資料：平成 26 年度 乳幼児健診（健やか親子なは）アンケート調査

■ 目標達成に向けた取り組み

(1) 市民に期待する自らの取り組み

- ① 普段から近所の人との付き合いを心がける
- ② マタニティマークを活用する
- ③ 妊婦やマタニティマークを見かけたら、思いやりのこころを持ち、妊婦に優しい環境づくりに努める
- ④ 妊婦の受動喫煙を防ぎ、喫煙マナーを守る



(2) 市民を支える関係機関、関係団体等の取り組み

機関・団体名	取り組み内容
市民生委員児童委員連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 代妊婦を把握したときは適切な支援につながるよう、相談対応の充実と関係機関との連携強化 ・ 妊娠、出産、育児に悩む方からの相談をはじめ、地域から孤立しないよう、関係機関等と連携・協力した活動の推進 ・ 一部地域における子育てサロンの実施
市母子保健推進員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 代妊婦を把握したときは適切な支援につながるよう、相談対応の充実と関係機関との連携強化 ・ 地域活動の中で、子育て中の母親の話し相手になり、妊娠・出産・育児に関する相談対応と、相談できる場所や那覇市の母子保健に関する情報の提供 ・ 子育て中の親に声をかけ、仲間づくりができる子育て支援センターや子育てサークルなどを紹介
市自治会長会連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会役員会を通じたマタニティマークの周知

(3) 那覇市の取り組み

所管課名	取り組み内容
地域保健課	<ul style="list-style-type: none"> ・ マタニティマーク、妊娠の届出、妊婦健康診査費用助成について、ホームページなどによる情報提供 ・ 職域への情報発信、連携体制の検討 ・ 母子保健推進員の育成、活動の充実
こどもみらい課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親子の交流の場として、地域の保育所（園）や子育て支援センターの利用促進
平和交流・男女参画課	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページやなは女性センターだよりなどの情報媒体を活用した、マタニティマークの周知

基本目標 1 の指標

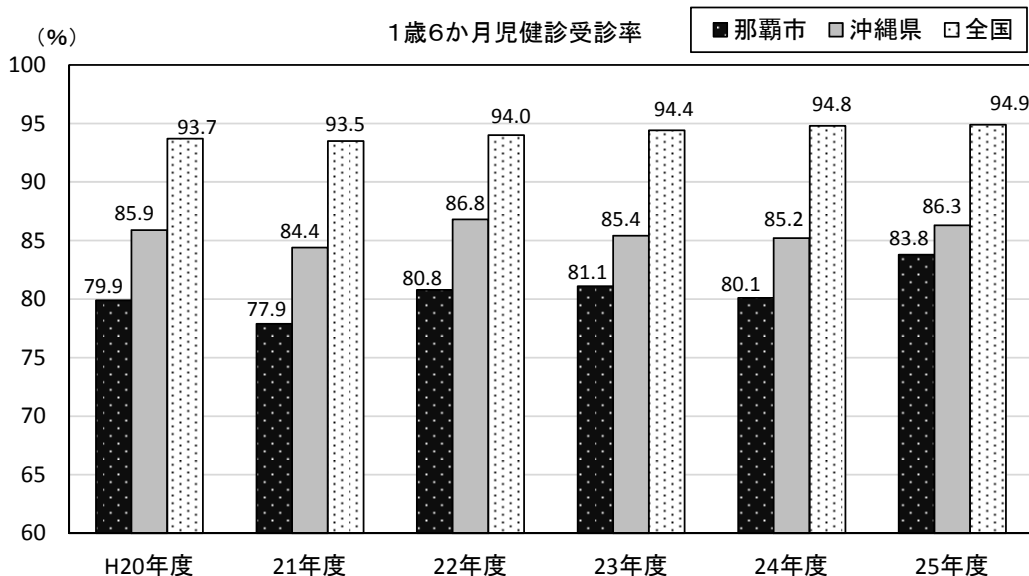
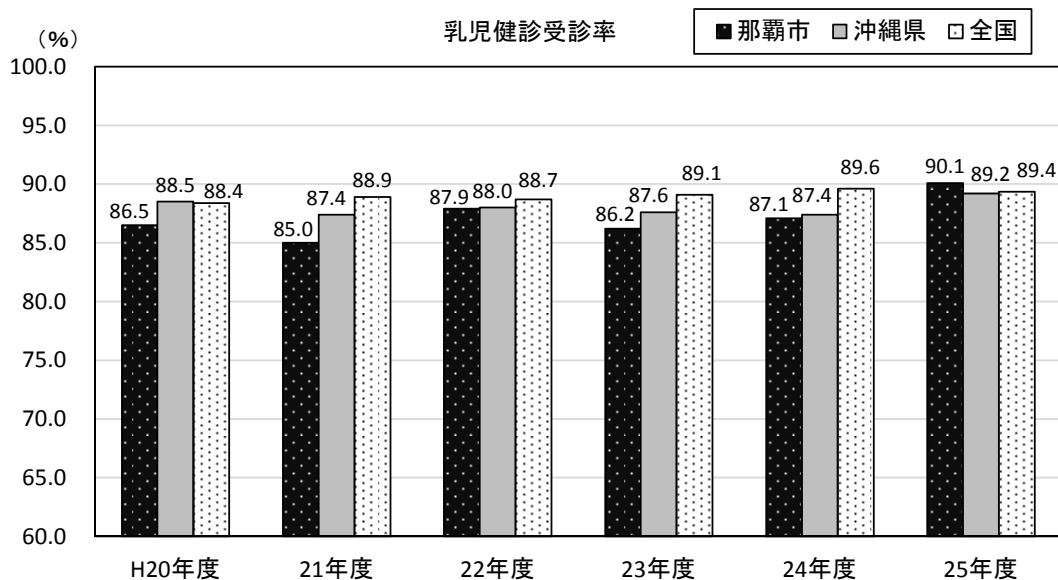
指標(★:重点指標)		策定時	中間年 (5年後)	最終年 目標	把握方法
【健康水準の指標】	妊娠・出産について満足しているものの割合	95.1% (平成 26 年度)	増加	増加	乳幼児健診(健やか親子なは)アンケート
	★全出生数中の低出生体重児の割合	10.0% (平成 25 年)	減少	減少	人口動態統計
【健康行動の指標】	★妊娠中の妊婦の喫煙率	4.6% (平成 25 年度)	0.0%	0.0%	乳幼児健康診査報告書 (沖縄県小児保健協会)
	マタニティマークを妊娠中に使用したことがある母親の割合	乳児:50.5% (平成 26 年度)	増加	増加	乳幼児健診(健やか親子なは)アンケート
【参考とする指標】	周産期死亡率(出産千対)	5.1 (平成 25 年)	—	—	人口動態統計
	新生児死亡率、乳児(1 歳未満)死亡率(出生千対)	新生児:0.6 乳児:1.1 (平成 25 年)	—	—	人口動態統計
	妊娠 11 週以下での妊娠の届出率	88.1% (平成 25 年度)	—	—	事業集計→地域保健報告書
	妊娠中の夫の喫煙率	乳児:41.3% (平成 25 年度)	—	—	乳幼児健康診査報告書 (沖縄県小児保健協会)
	妊娠中の妊婦の飲酒率	平成 27 年度から乳 児健診の問診追加項 目とし集計	—	—	乳幼児健康診査報告書 (沖縄県小児保健協会)
	質問票(EPDS等)を活用する産科医療機関の数	今後調査	—	—	産科向けアンケート

基本目標2 乳幼児期から規則正しい生活習慣を身につけ、 親も子も健やかに成長し、笑顔で生活できる

具体目標①乳幼児健診の受診率が上がる

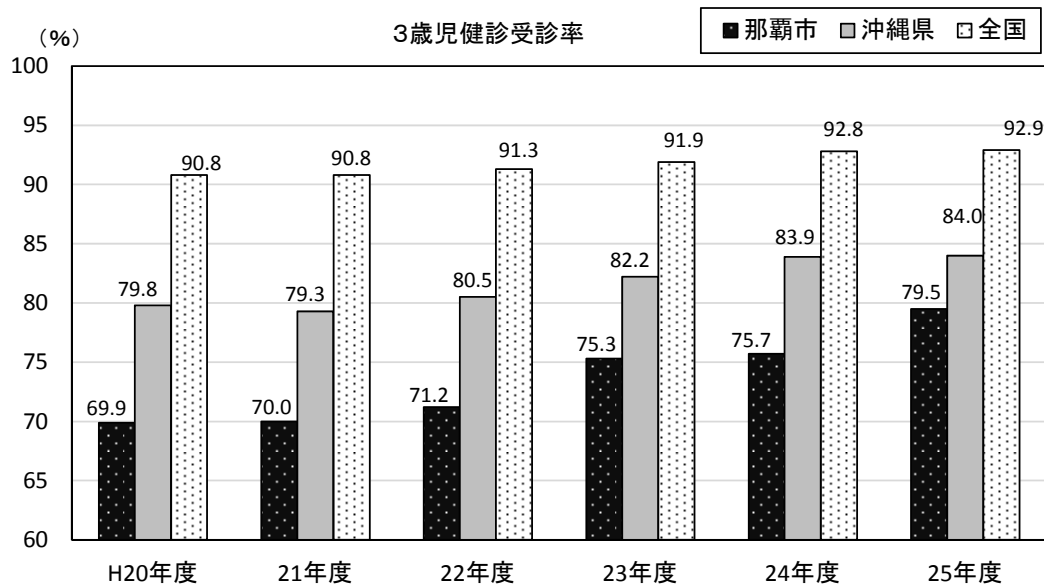
■現状と課題

乳幼児健康診査の受診状況は、各健診ともに受診率は増加しており、これまでのハガキ再通知や未受診者訪問、保育施設との連携、健診会場での待ち時間の解消などの取り組みが要因と考えられます。しかしながら、年齢を重ねる毎に受診率の低下がみられ、また全国や沖縄県の受診率よりも低いことから、今後も受診率が上がるよう、保護者や保育施設等への周知徹底や未受診者対策に取り組む必要があります。



資料：那覇市、県-乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)

全国-地域保健・健康増進事業報告(全国の乳児については、3～5か月と9～12か月の受診率の平均)
平成22年度は、東日本大震災の影響により、岩手県、宮城県、福島県の一部の市町村が含まれていない。
受診率=(一般健康診査受診実人員/健康診査対象人員)×100



資料：那覇市、県-乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)

全国-地域保健・健康増進事業報告 平成22年度は、東日本大震災の影響により、岩手県、宮城県、福島県の一部の市町村が含まれていない。

受診率 = (一般健康診査受診実人員 / 健康診査対象人員) × 100

■ 目標達成に向けた取り組み

(1) 市民に期待する自らの取り組み

- ①乳幼児健診を受け、こどもの発達・発育状況を把握する
- ②かかりつけ小児科医を持つ

(2) 市民を支える関係機関、関係団体等の取り組み

機関・団体名	取り組み内容
市母子保健推進員協議会	・乳幼児健診未受診者への訪問活動の実施

(3) 那覇市の取り組み

所管課名	取り組み内容
地域保健課	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携した健診の重要性に関する周知の充実 ・健診の待ち時間対策の検討 ・配慮が必要な児の健診受診について、関係各課との連携強化
こどもみらい課	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所(園)通園児に対して、乳幼児健診の日程等を案内する保健だよりの配布

具体的目標②親が育てにくさを感じたときに対処できる

■現状と課題

母子保健事業を取り組む中で、育児不安や育てにくさを感じている親とそのこどもを速やかに把握し、どのような育児不安があるのか、的確な評価と適切な保健指導、さらには福祉部門へ繋ぐなど、親子が必要とするサービスを提供していかなければなりません。育てにくさを感じる背景としていろいろな要因がありますが、一部には発達障がいなどが鯨飲となっている場合があります。しかし、こどもの障がい等に気付いていないこともあり、こどもの発育や発達過程などの情報提供に努めます。また、障がいなどの相談は増えていますが、社会的に理解されていないなど、障がいに対する市民の理解を深めるための取り組みが求められています。また、育てにくさを感じる親が気軽に相談したり、学んだり、交流できる場づくりなどが求められています。

障がい児や、慢性疾患のあるこどもについて、保育所（園）や幼稚園など関係各課や、関係機関が連携して切れ目のない支援が受けられる体制づくりが求められています。

■目標達成に向けた取り組み

（１）市民に期待する自らの取り組み

- ①子育てについて一人で悩まず誰かに相談する
- ②子育てやこどもの発育・発達について学ぶ（教室等に参加するなど）

（２）市民を支える関係機関、関係団体等の取り組み

機関・団体名	取り組み内容
県自閉症協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレントメンターによる電話相談及び来所相談 ・ゆんたく会（情報交換会）の実施 ・あじさい通信の発行（講演会などの情報発信） ・ホームページでの情報発信 ・会員に対して、ソーシャルスキルトレーニングの実施（4歳～小3対象） ・会員に対するペアレントトレーニングの実施
那覇市ファミリーサポートセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で「子育てのお手伝いをしたい方」と「援助をしてほしい方」が会員になり、子育て中の「困った」をサポートする活動を実施
NPO 法人ファミリーサポート愛さん会	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーサポートセンターと連携した子育て（家庭）支援（産前産後の家事支援等）
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の育てにくさに対する相談に対応し、必要に応じ、専門医等を紹介
市民生委員児童委員連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の親子に声をかけ合い、育児に関する相談対応 ・関係機関との連携のもと、こどもへの関わりで気になる保護者に対して、相談先を紹介 ・小学校、中学校との連携充実と学校行事への参加

機関・団体名	取り組み内容
市母子保健推進員協議会	・地域活動の中で、子育て中の母親の話し相手になり、妊娠・出産・育児に関する相談対応と、相談できる場所や那覇市の母子保健に関する情報の提供

(3) 那覇市の取り組み

所管課名	取り組み内容
地域保健課	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる母子保健事業を通じ、支援の必要な親子の早期発見と適切な支援の実施 ・健診などを活用したこどもの発達に関する情報提供 ・保健師・心理師等による発達に関する相談の実施 ・教育、福祉部門との連携した療育支援
こどもみらい課	<ul style="list-style-type: none"> ・園の夏祭りや催事の際に地域住民に参加を呼びかけ、祭りなど地域行事への参加を促進 ・保育所（園）で行っている『子育て応援Day』の子育て世代等への周知と、参加を促進 ・子育て支援センターを利用しながらのクラス交流や保育所（園）行事への参加、利用の呼びかけ ・療育センターでの発達相談、親子通園、専門職による相談・支援 ・療育センター通園児の保護者会のバックアップ
障がい福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい児及びその家族に対するサポート事業の実施 ・障がい児の障害福祉サービスの充実 ・児童発達支援事業の推進



具体的目標③規則正しい生活習慣を身につける（食事・睡眠）

■現状と課題

乳幼児の食に関しては、朝食の摂取や食事・おやつ時間を決めている家庭が増加しており、各健診や保健事業での食に関する知識の普及啓発、各保育施設や子育て支援センター等で行われている講話や研修会などの取り組みによるものと思われます。

睡眠についても改善が図られてきていますが、那覇市及び沖縄県は22時以降に就寝する3歳児の割合が4割強と全国的にも高くなっており、外食産業が多い沖縄県においては、夜遅くまで飲食店等で乳幼児を連れた姿も見られるなど、夜型社会の改善が求められています。特に就寝時間の改善には、保護者を含めた対策が必要であり、各健診等における普及啓発や、市PTAや学校等と連携した「早寝・早起・朝ごはん」運動などの普及が求められています。

3歳児の22時以降に就寝する児の割合 単位：%

	H16年度	H20年度	H24年度	H25年度
市	67.6	41.0	42.6	42.0
県	67.4	37.0	43.9	42.0

資料：乳幼児健康診査報告書（沖縄県小児保健協会）

■目標達成に向けた取り組み

（1）市民に期待する自らの取り組み

- ①親子で早寝・早起きの習慣をつける
- ②21時台までに寝る
- ③食事やおやつ時間を決める
- ④朝食を欠食しない

（2）市民を支える関係機関、関係団体等の取り組み

機関・団体名	取り組み内容
歯科医院	・食生活リズムとむし歯に関わる正しい知識の普及啓発
南部地区歯科医師会	・デンタルフェアの実施（歯科医師会）
認可保育園など	・保護者へこどもの健康に関する情報提供
市母子保健推進員協議会	・健診会場で食の大切さの啓発（お弁当づくり）

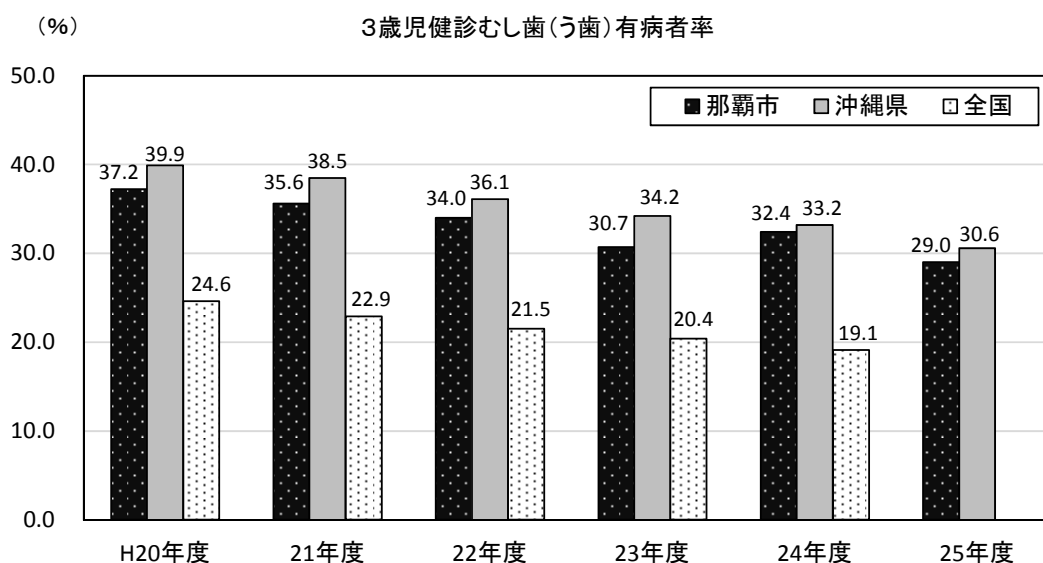
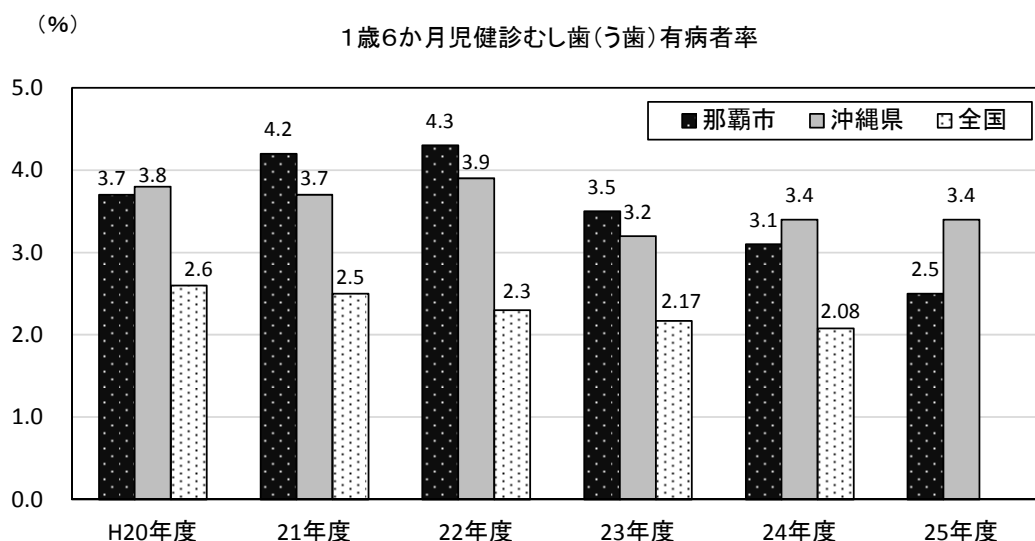
（3）那覇市の取り組み

所管課名	取り組み内容
地域保健課	・健診などで生活リズムや離乳食・幼児食の大切さを周知
健康増進課	・地域保健課と連携し、離乳食実習や妊産婦栄養相談などを通して正しい食生活の普及啓発
こども政策課	・アレルギーに対しては、可能な限りの除去食にて対応 ・こどもの生活リズムに関する保護者への情報発信、育児講座を通しての啓発活動

具体的目標④ 3歳児のむし歯のない子が増える

■現状と課題

1歳6か月児、3歳児のむし歯有病者率については、ともに減少傾向にあり改善が図られています。1歳6か月児健診、3歳児健診でのフッ素塗布の導入、乳児後期健診で歯科衛生士を配置するなど、早い時期から保護者の意識づくりに取り組んできたことも要因としてあげられます。また、健診会場では、栄養士による栄養相談や、歯科医院への紹介状発行なども行っています。関係機関においては、歯科医師会主催によるデンタルフェアの実施（市民への普及啓発）などの取り組みが行われています。しかしながら、毎日仕上げみがきをしている割合をみると、1歳6か月児：66.0%、3歳児：77.6%にとどまっており、3歳児のむし歯有病者率は全国平均と比較すると依然高い状況にあります。早い時期から歯科のかかりつけ医を推奨するためにも継続した歯科保健の取り組み強化が求められています。



資料：那覇市、沖縄県-乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
 全国-厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課調査

■ 目標達成に向けた取り組み

(1) 市民に期待する自らの取り組み

- ①かかりつけ歯科医を持ち、定期的な歯科健診を親子で受ける
- ②家族で食後・寝る前の歯みがきと仕上げみがきを習慣にする
- ③おやつの時間や内容に気をつける

(2) 市民を支える関係機関、関係団体等の取り組み

機関・団体名	取り組み内容
歯科医院 南部地区歯科医 師会 県歯科衛生士会	<ul style="list-style-type: none"> ・デンタルフェアの実施 ・歯科に関するガイド（パンフレット）を作成 ・フッ素に関する情報の発信 ・かかりつけ歯科医の活用と定期的な歯科健診による予防活動の啓発

(3) 那覇市の取り組み

所管課名	取り組み内容
地域保健課	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医を持つことの重要性についての周知、情報発信 ・乳幼児健診や健康教育等により、むし歯対策の普及啓発
健康増進課	<ul style="list-style-type: none"> ・地域保健課と連携し、乳幼児健診にて間食や食事のとり方とむし歯予防についての普及啓発
こどもみらい課	<ul style="list-style-type: none"> ・公立・認可保育園における歯科検診の実施（年2回） ・保護者向けの歯科医による講話の実施



具体的目標⑤安心して子育てができる相談や学習の場があり、活用できる

■現状と課題

近年、子育てに関する相談支援の窓口が増えつつあります。また子育て情報を紹介するインターネットのサイトもたくさんあり、市でもパンフレットやチラシなどを作成しています。様々な情報が得られるようになりましたが、情報を上手く活用できなかつたり、読み手にはわかりづらい内容となっているとの声もあがっています。

また、育児に対し疲労感を持っていたり、子育てのノウハウを知らない（育てきれない）保護者や、発達過程でみられるこどもの行動などが分からない保護者もみられます。そのような中、こどもの健やかな成長が促せるよう、関係機関と連携を図り、初めて子育てを経験する親への支援や、学習の場づくりや交流拠点の利用を促進する必要があります。また、父親の積極的な子育てへの参加促進や、家庭保育の親子の孤立防止に取り組む必要があります。

■目標達成に向けた取り組み

（１）市民に期待する自らの取り組み

- ①子育てについて一人で悩まず誰かに相談する
- ②子育て支援センターや子育てサークル等、親同士が交流できる場へ気軽に出かける
- ③出産前から、保育所（園）や幼稚園や子育て支援センターで保育体験をする

（２）市民を支える関係機関、関係団体等の取り組み

機関・団体名	取り組み内容
認可保育園など	<ul style="list-style-type: none">・保育所（園）における、保護者同士の交流機会の創出（雰囲気づくり）・送迎時や個人面談などでの子育てに関する相談対応や支援
市民生委員児童委員連合会	<ul style="list-style-type: none">・地域の親子に声をかけ合い、育児に関する相談対応の実施・関係機関との連携のもと、こどもへの関わりで気になる保護者に対して、相談先を紹介・一部地域における子育てサロンの実施
市母子保健推進員協議会	<ul style="list-style-type: none">・地域活動の中で、子育て中の母親の話し相手になり、妊娠・出産・育児に関する相談対応と、相談できる場所や那覇市の母子保健に関する情報の提供・子育て中の親に声をかけ、仲間づくりができる子育て支援センターや子育てサークルについての紹介

(3) 那覇市の取り組み

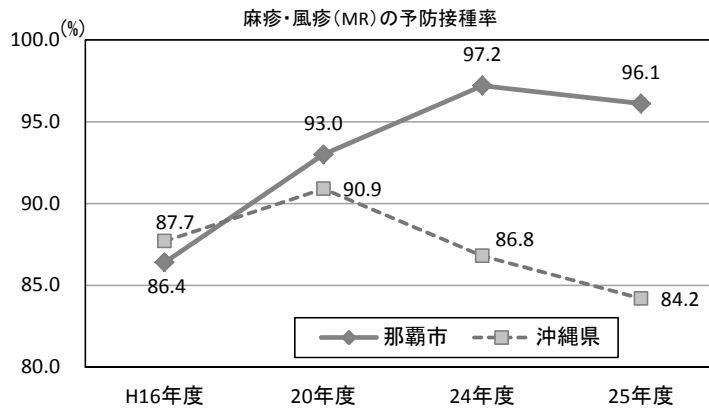
所管課名	取り組み内容
<p>こどもみらい課</p>	<p><育児相談やこどもの発達に関する相談対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ①保育所（園）利用者への担任・所長による相談対応（相談の内容に応じて保健センターに連絡し、担当地区の保健師へ繋ぐ） ②保育所（園）の『子育て応援Day』を利用したクラス担任保育士との関わり・保育所所長をはじめとする他職員との育児相談 ③子育て支援センターの利用による育児相談（同年齢や異年齢児との関わり、親同士の間を通じた） ④児童館の乳幼児学級の利用促進 ⑤発達に関する相談の実施 ⑥障がい児保育にて巡回指導（相談）を実施し、保育現場、保護者の相談に対応 ⑦地域子育て支援センターの利用促進、育児に関する各種講座や相談等の実施 ⑧「児童施設訪問支援事業」による保育現場のフォロー ⑨療育センターでの親子教室の実施と相談対応の充実 <p><父親も参加しやすい内容を取り入れた保育行事の実施に向けて></p> <ul style="list-style-type: none"> ①保護者会役員への父親の参加促進（父親の会など） ②運動会での手伝いや競技に参加しやすいようなプログラムの工夫 ③父親が参加したくなる育児講座の計画 ④子育て支援センターによる『パパママ一緒に遊ぼう Day』（土曜日）の取り組み推進 ⑤普段の通園への参加促進。また、家族保育参加や運動会など父親等も参加しやすい行事の実施
<p>地域保健課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師・助産師などによる育児に関する相談の実施（訪問・来所・電話相談） ・乳幼児健診等における相談先の情報提供

具体的目標⑥子どもを感染症や事故から守る（予防接種を受ける/受動喫煙から守る/事故予防ができる）

■現状と課題

1歳のうちに接種する麻疹・風疹（MR）1期の予防接種率は96.1%と増加しており、予防接種に関するこれまでの普及・啓発活動の成果であると考えられます。

しかし、就学前に接種する麻疹・風疹（MR）2期や結核（BCG）は80%台、ヒブ・小児用肺炎球菌は70%台となっているため、引き続き、麻疹・風疹・水痘などの予防接種の普及・啓発に向けた取り組みを行う必要があります。（p33 参照）



資料：那覇市（1歳～2歳未満児）、那覇市市政概要／沖縄県（1歳6か月児）、乳幼児健康診査報告書（沖縄県小児保健協会）

子育て中の父親・母親の喫煙については減少傾向にありますが、受動喫煙は、SIDS（乳幼児突然死症候群）、低体重児、呼吸器疾患、中耳炎、むし歯等子どもの健康に悪影響を与え、分煙を行ってもその後の呼気中や髪、衣服などに有害物質が付着しているという報告もあることから、完全な禁煙を勧めていく必要があります。

母親の喫煙率

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県
乳児健診	7.0	7.1	5.5	6.6	6.1	7.1	5.5	6.6	5.3	6.0	6.0	6.5
1歳6か月児健診	9.2	10.4	7.6	8.2	9.2	8.9	7.6	8.2	7.3	7.9	7.0	7.8
3歳児健診	9.0	9.7	8.3	9.4	9.0	9.7	8.3	9.4	9.4	9.6	7.8	8.9

父親の喫煙率

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県
乳児健診	48.8	51.4	41.5	43.0	41.7	43.6	41.5	43.0	40.7	42.4	41.4	43.4
1歳6か月児健診	40.4	47.7	39.8	41.9	40.4	43.7	39.8	41.9	39.1	42.3	39.8	42.0
3歳児健診	40.0	42.8	38.3	42.2	40.0	42.8	38.3	42.2	38.5	42.5	37.4	40.8

資料：乳幼児健康診査報告書（沖縄県小児保健協会）

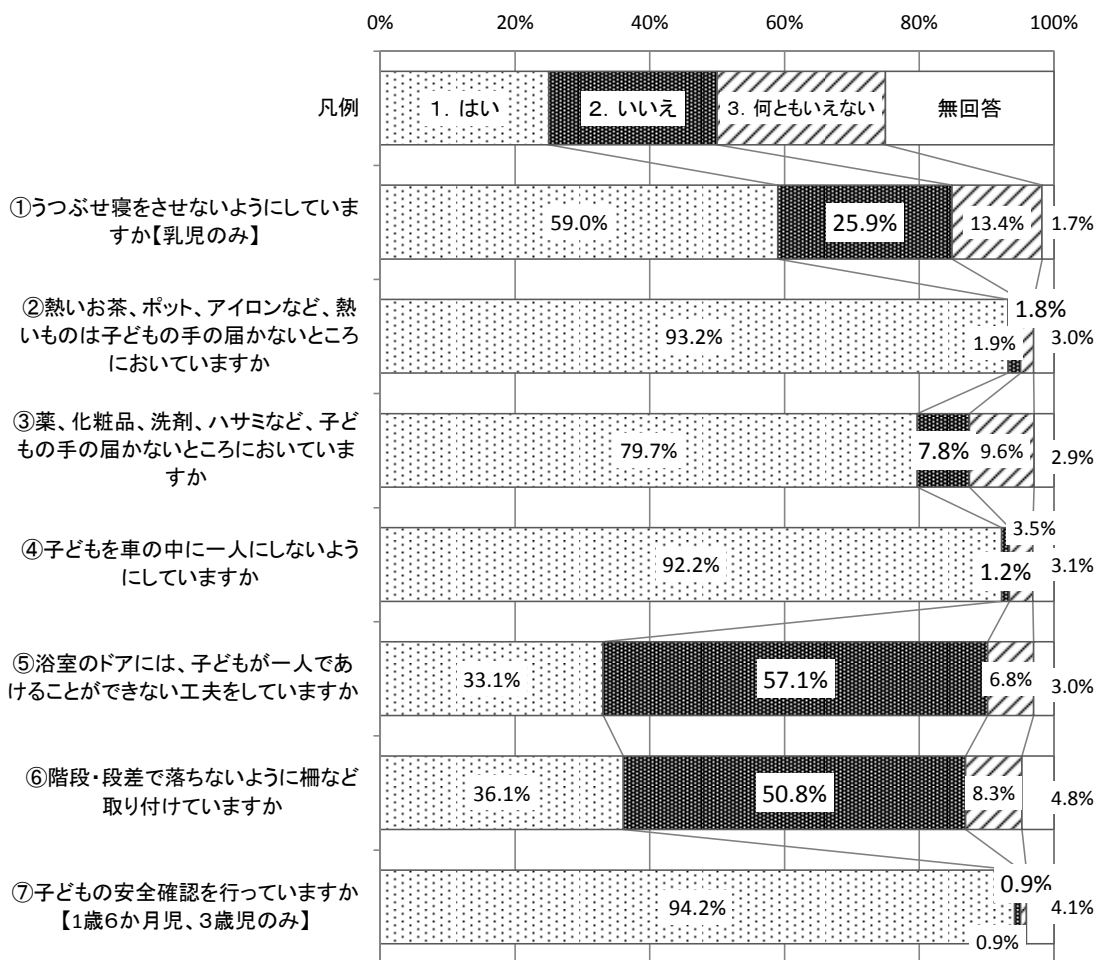
事故予防については、チャイルドシートの正しい使用の徹底を図る必要があります。また、平成26年度に実施した乳幼児健診（健やか親子なは）アンケート調査で、うつぶせ寝をさせない、浴室のドア開閉の工夫、階段・段差への柵などの設置については、事故予防対策が十分に行われていないことから、保護者の意識を高めるため、引き続き健診会場等での効果的な広報啓発活動の推進が求められています。

車に乗る時はチャイルドシートを使用している」と答えた人の割合(年度)

	平成16年	平成20年	平成24年	平成25年
乳幼児(市)	93.1	95.3	96.0	96.6
1歳半(市)	90.9	93.6	96.2	95.7
3歳児(市)	67.1	78.4	85.8	85.2
乳幼児(県)	94.9	96.7	97.5	97.5
1歳半(県)	89.6	95.1	95.7	95.6
3歳児(県)	63.1	76.9	85.8	82.2

資料：乳幼児健康診査報告書（沖縄県小児保健協会）

<事故予防について>



資料：平成26年度 乳幼児健診（健やか親子なは）アンケート調査

■ 目標達成に向けた取り組み

(1) 市民に期待する自らの取り組み

- ①日頃から家族で事故を防ぐために注意をしよう
- ②浴室のドアをこどもが一人で開けることができない工夫をする
- ③階段・段差で落ちないように柵など取り付ける
- ④うつぶせ寝をしないようにする
- ⑤薬、化粧品、洗剤、ハサミなど、こどもの手の届かないところに置く
- ⑥熱いお茶、ポット、アイロンなど、熱いものはこどもの手の届かないところに置く
- ⑦こどもを車の中に一人にしない
- ⑧こどもが遊んでいる時など、きちんと安全を確認する
- ⑨親が予防接種の大切さを理解し、対象年齢に達したら早めに接種する
- ⑩受動喫煙がこどもに与える影響を理解し、こどもの前ではたばこを吸わない

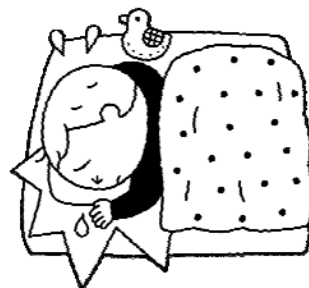
(2) 市民を支える関係機関、関係団体等の取り組み

機関・団体名	取り組み内容
認可保育園など	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への予防接種や事故予防などに関する情報提供 ・消防局と連携し、職員や保護者に対する事故予防に関する講座の実施促進
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ・予防接種状況の確認と接種勧奨 ・望ましい接種時期の指導の充実
那覇市母子保健推進員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の中で乳幼児の事故予防の啓発 ・健診未受診者訪問活動の中で予防接種についての啓発

(3) 那覇市の取り組み

所管課名	取り組み内容
地域保健課	<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体と連携した予防接種に関する情報提供、相談、接種勧奨 ・たばこの害について、親子健康手帳交付時や健診会場などでの周知、また保育所（園）や幼稚園など関係機関と連携した周知活動の推進 ・健診会場での事故予防に関する情報発信や、関係団体（消防、保育所（園）・幼稚園、学校等）と連携した事故予防に対する意識啓発
健康増進課	<p>< 予防接種向上の取り組み ></p> <ol style="list-style-type: none"> ①医療機関や公的機関の窓口にチラシを設置する等の広報活動 ②小学校就学前の MR2 期の接種率が目標の 95% に達成するよう、対象者への個別通知の他に学校教育課と連携して、就学时健診時や入学説明会において勧奨チラシを配布
こどもみらい課	<p>< 予防接種・受動喫煙防止・事故予防に関する親への周知・学習の機会 ></p> <ol style="list-style-type: none"> ①保育所（園）や子育て支援センターによる定期的に行う育児講座での周知 ②保育所（園）の各クラス担任や他職員の関わりの中での呼びかけ ③交通安全指導（保育所（園）行事）への保護者の参加呼びかけ

所管課名	取り組み内容
	④消防局や日本赤十字社と連携し、事故防止安全講座や救急法、事故時の対処法を開催 ⑤保健だよりでの周知や事故防止などについてのポスター掲示
消防局救急課	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止に関する必要な知識など救急講習会の実施 ・事故予防の取り組み啓発



基本目標2の指標

指標(★:重点指標)		策定時	中間年 (5年後)	最終年 目標	把握方法
【健康水準の指標】	★むし歯のない3歳児の割合	69.4% (平成25年度)	75.7%	82.0%	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
	ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	乳児 : 77.3% 1歳6か月児 : 75.3% 3歳児 : 73.6% (平成26年度)	増加	増加	乳幼児健診(健やか親子なは)アンケートまたは乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
【健康行動の指標】	★乳幼児健康診査の受診率	乳児 : 90.1% 1歳6か月児 : 83.8% 3歳児 : 79.5% (平成25年度)	乳児 : 92.5% 1歳6か月 : 87.0% 3歳児 : 85.0%	乳児 : 95.0% 1歳6か月 : 90.0% 3歳児 : 90.0%	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
	「車に乗る時はチャイルドシートを使用している」と答えた人の割合	乳児 : 96.6% 1歳6か月児 : 95.7% 3歳児 : 85.2% (平成25年度)	100%	100%	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
	3歳児健診で21時台までに寝る子の割合	58.1% (平成25年度)	80.0%	90.0%	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
	3歳時健診で「食事やおやつ時間は決まっている」と答えた人の割合	84.8% (平成25年度)	増加	増加	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
	★四種混合(3カ月～7歳6カ月未満) ★麻疹・風疹(MR)1期(1歳～2歳未満) ★BCG(3カ月から6カ月未満)の予防接種の割合 ★ヒブ(2カ月～5歳未満)接種をしているものの割合 ★小児用肺炎球菌(2カ月～5歳未満)接種をしているものの割合	四種混合 : 75.8% 麻疹・風疹(MR1期) : 96.1% BCG : 83.1% ヒブ : 70.9% 小児用肺炎球菌 : 75.8% (H25年度)	増加	95.0%	那覇市市政概要
	★3歳児健診で日本脳炎2回接種を終了しているものの割合 ★1歳6か月児健診でB型肝炎3回接種しているものの割合 ★1歳6か月児健診でロタ(1価)2回接種ロタ(5価)3回接種を終了しているものの割合 ★1歳6か月児健診で水痘を1回接種終了しているものの割合 ★1歳6か月児健診で流行性耳下腺炎を1回接種終了しているものの割合	3歳児日本脳炎2回接種 : 45.1% 1歳6か月児B型肝炎3回接種 : 10.0% 1歳6か月児ロタ(1価)2回接種、ロタ(5価)3回接種を終了 : 7.9%、0.6% 1歳6か月児水痘を1回接種終了 : 28.5% 1歳6か月児流行性耳下腺炎終了 : 31.6% (H25年度)	増加	95.0%	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)

指標(★:重点指標)	策定時	中間年 (5年後)	最終年 目標	把握方法	
【参考とする指標】	育児中の父母の喫煙率	父親 乳児:40.5% 1歳6か月児:39.8% 3歳児:37.4% 母親 乳児:6.6% 1歳6か月児:7.0% 3歳児:7.8% (平成25年度)	—	—	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
	育てにくさを感じたときに 対処できる親の割合	平成27年度から乳 児健診の問診追加 項目とし集計	—	—	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
	子どもの社会性の発達 過程を知っている親の割 合	平成27年度から乳 児健診の問診追加 項目とし集計	—	—	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
	乳児の貧血 血色11.0g/dl未満	10.0未満:3.2% 10.0~10.9:22.1% 計25.3% (平成25年度)	—	—	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
	この地域で子育てしたい と思う親の割合	全体:75.1% 乳児:76.2% 1歳6か月児:72.5% 3歳児:76.3% (平成26年度)	—	—	乳幼児健診(健やか親子なは)アンケート

基本目標3 地域に守られながら、子ども自らこころとからだの健康を考え行動できる力がつく

具体的目標①こどもがこころとからだに対して正しい知識を身につけることができる

具体的目標②10代の望まない妊娠を減らす

■現状と課題

こどもたちが性に関することを学校現場などで学ぶ機会は増えてきています。一方で、平成26年度調査（「健康なは21」）より、「避妊方法を知っている」と答えた中高校生の割合は56%と前回調査と比べ、大きな改善はみられませんでした。また、性非行の低年齢化が進んでいるとの声もあがっています。

さらに10代の人工妊娠中絶実施率は全国値よりも高く、10代の妊娠が多い現状をみると、引き続き、自分や他者を思いやる気持ちや、性や避妊に関してこどもたちが正しく理解ができるよう、関係課や関係機関と連携し、性に関する授業（性教育）の体系づくりなどに取り組む必要があります。また、10代の望まない妊娠への相談対応について産婦人科や関係機関との連携のもと、体制の強化が求められています。

■目標達成に向けた取り組み

（1）市民に期待する自らの取り組み

- ①家庭での性教育は乳幼児期からスタートし、思春期まで性についてオープンな会話を積み重ねる（恥ずかしい・隠すなどのマイナスイメージを与えないようにする）
- ②思春期のこどもが相談できる友人、信頼できる大人をたくさんつくれるように、親は見守り、導く

（2）市民を支える関係機関、関係団体等の取り組み

機関・団体名	取り組み内容
那覇地区養護教諭研究会	・性教育の推進 ・他機関との連携による情報の収集や提供
思春期保健相談士（助産師）	・10代の妊娠が増加傾向にあることから、中学生への妊娠、避妊（必要時）について学ぶ機会の創出（外部講師の活用） ・こども（中高生）の相談場所を設置 ・10代がライフプラン（妊娠、避妊、出産適正年齢など）について考える場づくり

機関・団体名	取り組み内容
市母子保健推進員協議会	・思春期教育を行い、妊娠・育児体験を通して生命の大切さをこどもたちに伝える
医療機関	・望まない妊娠対策の充実（依頼に応じた中学校等地域での性教育の講義の開催等）
沖縄県健康長寿課 （沖縄県女性健康支援センター）	・思春期にあって健康相談を希望する方への相談対応 ・妊娠、避妊についての的確な判断を行うことができるよう相談を希望する方や、その必要がある方への相談対応 ・性感染症を含め女性の心身の健康に関する一般的な相談対応

（3）那覇市の取り組み

所管課名	取り組み内容
地域保健課	・関係機関と連携し、思春期に関する相談の充実（学校、医療機関、関係課等） ・思春期の心と体に関する相談先や提供できる情報の整理及び周知（相談先リーフレットの作成等） ・学校と連携した思春期教室の充実
健康増進課	・性感染症に関する相談・出前講話の実施
教育相談課	・電話相談や来所相談の実施 ・適応指導教室・自立支援教室の実施
人事課	・家庭における家族の団らんの時間や、親が家にいる時間を増やすため、ノ一残業デーを推進
学校教育課	・小学校より「心と体の健康」についての教育の実施 ・地域保健課、各関係機関との連携による性教育の充実



具体的目標③子どもがたばこやアルコール等の害から体を守る

■現状と課題

中高校生の喫煙や飲酒については、前回調査と比べ、減少がみられました。各課や関係機関による喫煙や受動喫煙、アルコールの害について講演会を開催するなど学習の機会は増えています。加えて店舗販売でも対面による販売が徹底されるなど、未成年者が容易に購入することができなくなっています。また保護者、地域、青少協等で夜間パトロールを実施するなど、環境整備を強化した成果もあり、中高生の喫煙・飲酒経験率が減少したものと考えられます。今後も関係機関との連携によるたばこやアルコールの害について学ぶ場づくりを支援するとともに、地域での声かけなどが求められています。たばこの依存で治療が必要になっている未成年者に対する相談支援体制の強化が求められるとともに、保護者や周りの大人に対するたばこやアルコールの害について、啓発普及を行う必要があります。また、薬物の害についても同様、啓発普及を行い乱用防止に努めるための働きかけが必要です。

平成 26 年度「健康な 21」調査より

・喫煙経験 (1か月以内の喫煙)	中学 1 年：男子 0.0%、女子 0.4%／高校 3 年：男子 2.8%、女子 2.5%
・飲酒経験 (1か月以内の飲酒)	中学 3 年：男子 1.7%、女子 4.3%／高校 3 年：男子 11.2%、女子 3.8%

■目標達成に向けた取り組み

(1) 市民に期待する自らの取り組み

- ①喫煙・飲酒・薬物の害について、家庭でよく話し合う
- ②大人は、子どもにたばこやお酒の買い物をさせない
- ③親自身から禁煙に努める
- ④受動喫煙が子どもに与える影響を理解し、子どもの前でたばこを吸わない
- ⑤子どもにたばこやお酒を勧めない
- ⑥喫煙・飲酒をしている未成年者がいたら注意する

(2) 市民を支える関係機関、関係団体等の取り組み

機関・団体名	取り組み内容
市 PTA 連合会 市民生委員児童委員連合会	・夜間パトロール等の推進 ・喫煙、飲酒、薬物を未成年者に勧めない、認めない地域づくりの推進 ・小学校、中学校との連携充実と学校行事への参加 ・地域で児童・生徒を見守る団体間の連携充実

機関・団体名	取り組み内容
歯科医院	・学校保健の場での情報提供とたばこの害について啓発
南部地区歯科医師会	・デンタルフェアの実施

(3) 那覇市の取り組み

所管課名	取り組み内容
地域保健課	・たばこやアルコールの害などについて啓発活動の充実、保健ボランティアの活用 ・たばこやアルコール等の体に与える悪影響について、思春期教室の内容に導入
健康増進課	・県作成の「禁煙外来医療機関における妊婦及び未成年者への対応について」のリストを活用し個別相談時に情報を提供 ・「禁煙外来・禁煙治療を実施している医療機関、禁煙治療について」のチラシを作成し、各種保健事業で活用 ・高校生・専門学校生の受動喫煙の害、喫煙防止教育について、たばこ講演会等を実施
学校教育課	・たばこ、アルコール、薬物乱用防止に関する教育の充実

具体的目標④適正な体重を維持する（バランスの良い食事と運動の習慣化）

■現状と課題

全国と比べて、沖縄県の肥満児の出現率が高くなっています。痩身傾向児の出現率は全国よりも低くなっていますが、近年、徐々に増えてきています。また、児童生徒の学年が上がるにつれて朝食欠食率が高くなっています。こどもの体づくりのために、バランスの良い食事内容となっているかなど、学校などで食育を推進しながら、食事の質について学ぶ機会を充実していく必要があります。同時に保護者へも食育に関する情報提供を行う必要があります。

・肥満傾向児の出現率 (H25年度 学校保健統計調査報告書)	小学校6年生 11歳 男子 沖縄 13.26%、全国 10.02% 女子 沖縄 8.91%、全国 8.69%	中学生3年生 14歳 男子 沖縄 10.50%、全国 8.27% 女子 沖縄 8.37%、全国 7.42%
・痩身傾向児の出現率 (H25年度 学校保健統計調査報告書)	小学校6年生 11歳 男子 沖縄 2.14%、全国 2.90% 女子 沖縄 2.43%、全国 2.74%	中学生3年生 14歳 男子 沖縄 1.03%、全国 1.57% 女子 沖縄 1.45%、全国 2.68%
・朝食を毎日食べているこどもの割合 (生活基本調査 H25年度 市教育委員会学校教育課)	小学校後期調査 86.8% (1年～6年生平均)	中学校前期調査 79.5% (1年～3年生平均)

■ 目標達成に向けた取り組み

(1) 市民に期待する自らの取り組み

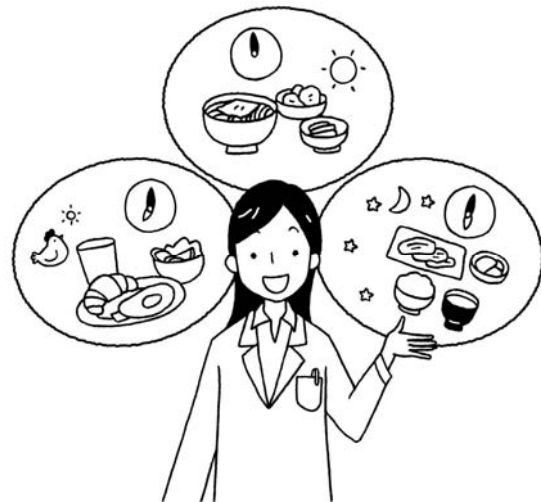
- ①できるだけ家族そろって食事をする時間を増やす
- ②栄養バランスを意識して食事を作る
- ③お菓子や清涼飲料水をとりすぎない

(2) 市民を支える関係機関、関係団体等の取り組み

機関・団体名	取り組み内容
学校栄養士会	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休暇等における食育実践講座の実施 ・商業施設における「食とこどもの健康展」の実施により食に関する情報発信 ・市教育委員会が那覇市医師会に委託している生活習慣病検診における栄養指導
市食生活改善推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の旬の食べ物、行事食について普及する機会の拡充（親子料理教室の活用、小・中学生対象）

(3) 那覇市の取り組み

所管課名	取り組み内容
地域保健課	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期からの食育への取り組みを充実
健康増進課	<ul style="list-style-type: none"> ・家族そろっての食事（共食）の推進について、保健事業を通して共食や孤食の際の栄養バランスへの配慮について普及・啓発 ・高校生・大学生等への食育教育等の実施（学校や食生活改善推進協議会との連携） ・食品の栄養成分表示の見方について、お菓子や清涼飲料水のカロリーや糖分など、とりすぎに注意が必要な身近な食品から学ぶなど、関心が高まる内容の工夫



具体的目標⑤こどものむし歯が減る

■現状と課題

那覇市の小学生のむし歯(う歯)率をみると、全国と比べて男女とも高くなっていることから、こどもの歯の健康について、保護者への働きかけが求められます。学校によって、歯みがき指導等の時間が取れないところもあり、教育委員会と連携した取り組みが求められるとともに、かかりつけ歯科医の普及啓発を進める必要があります。

むし歯(う歯)率 小学校	小学生(6歳~11歳)平均 男子 那覇市 68.94%、全国 55.89%/女子 那覇市 65.17%、全国 52.30%
-----------------	--

資料：H25年度 学校保健統計調査報告書

■目標達成に向けた取り組み

(1) 市民に期待する自らの取り組み

- ①かかりつけ歯科医を持つ
- ②乳幼児期から歯みがき、仕上げみがきの習慣をつける(仕上げみがきは小学校4年生まで)
- ③健診でむし歯を指摘されたらしっかり治療する

(2) 市民を支える関係機関、関係団体等の取り組み

機関・団体名	取り組み内容
市PTA連合会	・学校やPTA活動におけるこどもの歯の健康について保護者の学ぶ機会の充実
歯科医院	・学校保健の場での情報提供とむし歯予防の啓発 ・食生活リズムとむし歯に関わる正しい知識の普及啓発
南部地区歯科医師会	・こどもの歯の健康について入学説明会での講話の実施 ・学校でのフッ化物洗口の推奨 ・学校で昼食後の歯磨きに取り組むことの働きかけ ・デンタルフェアの実施

(3) 那覇市の取り組み

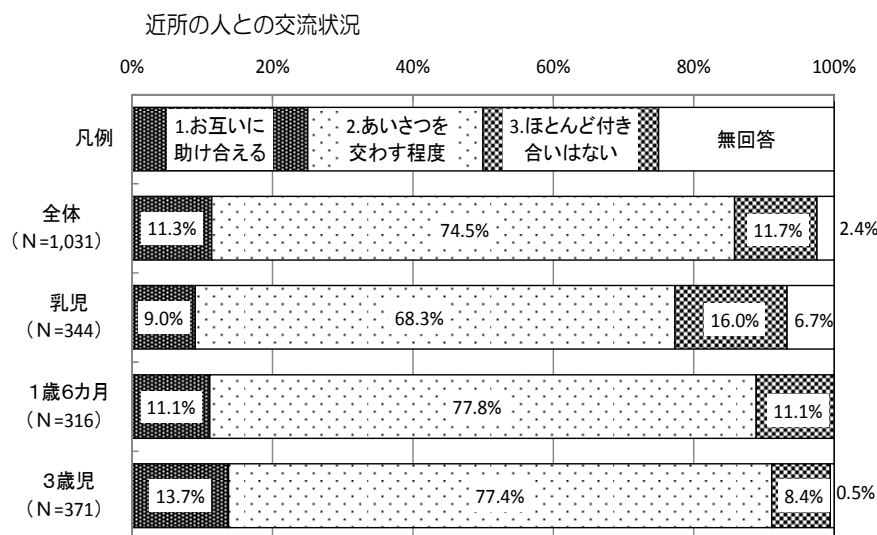
所管課名	取り組み内容
地域保健課	・かかりつけ歯科医を持つことについての普及啓発
学校教育課	・歯科健診の実施 ・歯科校医と連携した入学説明会の実施

具体的目標⑥こどもの健やかな成長を見守り育む環境づくり

■現状と課題

那覇市においては、地域のつながりの希薄化、自治会などの加入率の低下などにより、地域の子育て力も低下しています。

また、部活動・塾通い、携帯電話の普及、深夜営業店舗の増加、ソーシャルネットワークサービス（SNS）・ゲーム等の多種多様なメディアの出現、核家族化や共働き家庭の増加等、こどもを取り巻く環境の変化に伴い、こどもの不適切な生活が習慣化しています。そのような状況の中、こどもの健やかな成長を見守り、規則正しい生活習慣が確立するよう、地域や家庭、学校などが一体となった取り組みを行う必要があります。



資料：平成 26 年度 乳幼児健診（健やか親子なは）アンケート調査

■目標達成に向けた取り組み

（１）市民に期待する自らの取り組み

- ①親が心にゆとりを持ち、常にこどもに関心をもつようにして、こどもの行動の変化に早く気付くようにする
- ②思春期になったとき、周りの大人がこどもたちを見守り、声をかけてくれるよう、日頃から近隣・親戚との付き合いを大事にする
- ③学校や地域が開催する講演会・集会に積極的に参加する
- ④親は夜間、こどもだけにしないようにし、家族団らんの時間を増やす
- ⑤携帯電話の使い方（使用時間や携帯電話におけるトラブル等）について、親子でよく話し合う

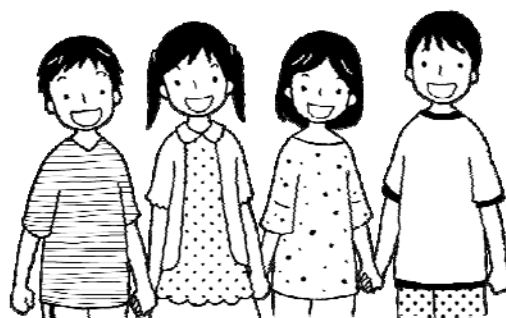
(2) 市民を支える関係機関、関係団体等の取り組み

機関・団体名	取り組み内容
市PTA連合会 市民生委員児童委員連合会 思春期保健相談士(助産師)	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶・声かけ運動や夜間パトロール等の推進 ・喫煙・飲酒・薬物を未成年に勧めない、認めない地域づくりの推進、周知 ・「早寝・早起き・朝ごはん」、「子ども同伴での居酒屋などの利用は『夜9時までには帰りましょう運動』」や「家~なれ~」運動の普及活動 ・保護者が夜間に家を留守にしない取り組みの実施 ・自治会活動や地域活動の充実 ・民生委員・児童委員の地域活動の充実、家庭や地域での対話を充実させる活動の推進 ・早寝早起きの習慣が身につくよう、スマートフォンなどの使用時間の考え方等を提示(小中学生)
学校栄養士会	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における「早寝・早起き・朝ごはん」を推進するための啓発活動の実施
市母子保健推進員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館・児童館等、地域との連携による、地域活動の充実
市健康づくり推進員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり活動を通して地域の繋がりを推進
市食生活改善推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で正しい食生活の普及活動を推進
市自治会長会連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・通学時における横断歩道での指導、夜間パトロールを実施(毎月第3金曜日は夜間パトロール実施中) ・「早寝・早起き・朝ごはん」や「子ども同伴での居酒屋などの利用は『夜9時までには帰りましょう運動』」の普及活動 ・喫煙・飲酒・薬物を未成年に勧めない、認めない地域づくりの推進、周知 ・保護者が夜間に家を留守にしない取り組みの推進、周知を図り、自治会員への理解を促進 ・自治会活動や地域活動の充実
県自閉症協会	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症などに関する相談(来所・電話)事業の実施 ・ホームページでの情報発信 ・保護者同士が交流し情報交換などができる場(ゆんたく会)の提供 ・会誌(あじさい通信)を発行するなど、自閉症の正しい認識の普及活動の推進 ・会員に対する、ソーシャルスキルトレーニングの実施(4歳~小3対象)

(3) 那覇市の取り組み

所管課名	取り組み内容
地域保健課	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のこどもたちや親等に声かけし、相談相手になる活動を行う保健ボランティア(母子保健推進員・健康づくり推進員)の育成、養成
健康増進課	<ul style="list-style-type: none"> ・高校や専門学校へ若い世代からはじめる生活習慣病予防対策事業を周知し、希望に沿った内容で講座を実施(但し、実施にあたっては関係機関との情報交換、連携が必要) ・健康づくり関係の講師情報の整理及び情報提供 ・20~30代健診を通しての子育て世代の健康課題についての周知啓発

所管課名	取り組み内容
まちづくり協働推進課	<ul style="list-style-type: none"> 喫煙・飲酒・薬物を未成年に勧めない、認めない地域づくりのために、挨拶、声かけ運動等の推進
青少年育成課 教育相談課	<ul style="list-style-type: none"> Go 家運動の推進
教育相談課	<ul style="list-style-type: none"> 適応指導教室あけもどろ学級：心理的・情緒的不安が原因で登校できない児童生徒への居場所づくり、小集団での体験活動や学習支援等の推進・充実 自立支援教室きら星学級：遊び・非行・問題行動等の児童生徒への個別対応による居場所づくり、体験活動、学習支援等の推進・充実
こども政策課	<ul style="list-style-type: none"> こどもの居場所づくり、啓発活動の推進
青少年育成課	<ul style="list-style-type: none"> 放課後子ども教室を充実させ、こどもたちの放課後の居場所づくりを推進 青年団体連絡会（青年会）の活動において、定例会の開催、なは青年祭の開催、レクリエーションの実施
市民スポーツ課	<ul style="list-style-type: none"> 那覇市体育協会、スポーツ推進委員が連携し、各種スポーツ大会や地域スポーツ教室、体力テスト会などを開催することにより、青少年への運動のきっかけづくりを推進 青少年の体力・運動能力の向上、トップレベルのスポーツを体感できる機会の拡充を図るため、学校教育部門や関係部局と連携し、外部からの指導者を「スポーツ専門指導員」として派遣 スポーツ・レクリエーションを通じて青少年健全育成を推進している「スポーツ少年団」の事業を支援



基本目標3の指標

	指標(★:重点指標)	策定時	中間年 (5年後)	最終年 目標	把握方法
【健康水準 の指標】	★10代の人工妊娠中絶率 女子15～19歳の人口千対	全国 6.6 沖縄 7.6 那覇 9.8 (平成25年度)	減少	減少	衛生行政報告例
	★10代の喫煙率(1か月以内の喫煙)	中1男:0.0% 中1女:0.4% 高3男:2.8% 高3女:2.5% (平成26年度)	0.0%	0.0%	「健康なは21」アンケート
【健康行動の指標】	10代の飲酒率(1か月以内の喫煙)	中3男:1.7% 中3女:4.3% 高3男:11.2% 高3女:3.8% (平成26年度)	0.0%	0.0%	「健康なは21」アンケート
	避妊方法・性感染症について 学習したことがある	避妊方法 中3男:52.2% 中3女:52.5% 性感染症 中3男:82.2% 中3女:81.3% (平成26年度)	増加	増加	「健康なは21」アンケート
	12歳児一人平均う歯(むし歯)経験数	1.84本 (平成25年度)	1.0未満	1.0未満	学校保健統計調査報告書
【参考とする指標】	思春期に関する(親と子)教育回数	15回 (平成25年度)	—	—	・母子保健相談訪問指導事業 ・生涯を通じた女性の健康支援事業 ・母子保健推進員活動
	近所の人との交流 「お互いに助け合える関係」 があると回答した割合	全体:11.3% 乳児:9.0% 1歳6か月児:11.1% 3歳児:13.7% (平成26年度)	—	—	乳幼児健診(健やか親子なは)アンケート

基本目標4 親が心にゆとりを持ち子育てできる

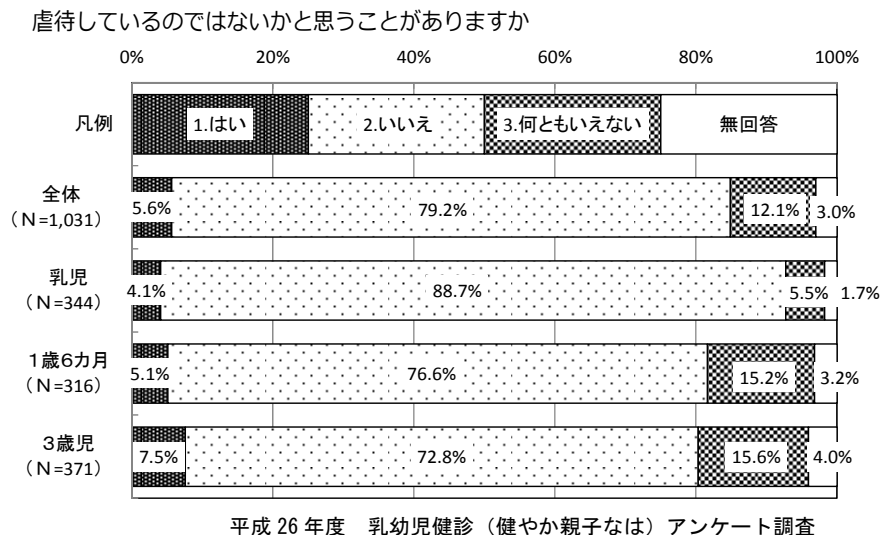
具体的目標①こどもを虐待していると思う親が少なくなる（割合が減少する）

■現状と課題

平成26年度 乳幼児健診（健やか親子なは）アンケート調査では「虐待をしているのではないかなと思う」と答えた方が5.6%みられました。また、虐待をしているか「何ともいえない」とする回答もみられ、「虐待とは何か」正しい知識が十分ではない様子もうかがえます。

那覇市における児童虐待に関する相談件数（市子育て支援室資料）も増加しており、乳幼児健診では「子育てが辛い」と感じている方も見られます。

また、「子育てのサポートをしてくれる方がいない」が9.2%（乳幼児健診前期：平成25年度）となっており、育児不安等をもつ親を孤立させないような地域の見守り体制や虐待の防止、早期発見、関係課と連携した支援体制等の検討が必要です。



■目標達成に向けた取り組み

（1）市民に期待する自らの取り組み

- ①子育てに関する情報を得て、こどもの発達について学ぶ
- ②妊娠前や妊娠中に、子育てのイメージが持てるように学ぶ
- ③妊娠・出産・育児に関することで相談できる相談機関の情報収集を行い、困ったことがあったら相談する
- ④夫や家族は、子育てについて日ごろからよく話しあい、積極的に育児に協力する

(2) 市民を支える関係機関、関係団体等の取り組み

機関・団体名	取り組み内容
医療機関	・産婦の育児力、愛着形成等の確認による育児支援の充実
歯科医院	・学校保健の場での情報提供（教員等に対して、こどものむし歯が放置されている場合、ネグレクトの可能性があるため注意を促す内容）

(3) 那覇市の取り組み

所管課名	取り組み内容
地域保健課	<p><子育てに関する知識・技術の普及></p> <ul style="list-style-type: none"> ①妊娠・出産・育児に対する知識啓発と指導・助言の充実 ②こどもとの適切な関わり方、遊び方等に関する指導・教育の機会の充実 <p><不適切な関わりについての周知></p> <ul style="list-style-type: none"> ①虐待の基本的な知識の普及（しつけとの違い、揺さぶられ症候群等） ②育児不安や困難さの相談、虐待の相談が気軽にできるように相談機関の周知の工夫 <p><育児相談とその支援の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ①保健事業で把握した育児不安などに対する支援の充実 ②家族や夫への育児協力についての周知の工夫 ③育児相談、虐待関連相談の相談対応数の把握
こどもみらい課	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所（園）で受け入れている『子育て応援Day』の活用 ・中高生の保育体験の実施 ・地域子育て支援センターやつどいの広場、公民館（育児講座等）・児童館等の乳幼児学級の利用促進 ・地域に出向いて行なっている子育て支援センターの出前支援の充実
子育て応援課（子育て支援室）	<ul style="list-style-type: none"> ・こんにちは赤ちゃん事業で厚生労働省発行「赤ちゃんが泣き止まない」のパンフレット等を活用した周知



具体的目標②よりよい妊娠・出産・育児ができるように、状況に応じて相談することができる

■ 現状と課題

妊娠届出が特に20週以降の妊婦の中で「産むか迷った」等、妊娠を継続するか悩む妊婦等が相談しやすい環境づくりが必要です。出産後の育児についても、関係機関や児童虐待部門と連携して（特定妊婦として）支援する、切れ目のない支援体制の強化が求められます。

また、女性が自身のライフステージにあわせて、妊娠や出産について相談できる場、知識を得る機会などの情報提供に努める必要があります。

さらに、産後うつ病、育児ストレス等の問題によって、子育てに対し不安や孤立感等を抱える保護者や、様々な原因で養育が困難になっている家庭を早期に発見し、適切な支援につなぐことができるよう、関係機関との連携を強化する必要があります。

■ 目標達成に向けた取り組み

（1）市民に期待する自らの取り組み

- ①育児のための環境整備を早めに行い、困ったことがある場合は、関係機関に相談し、諸制度の活用を行う
- ②産婦やその家族は、産後の体調について理解し、体調の変化に留意する
- ③乳幼児健診を受け、健診会場で必要な相談をする
- ④かかりつけ医を持ち、予防接種を受ける際には、体調や育児の相談をする

（2）市民を支える関係機関、関係団体等の取り組み

機関・団体名	取り組み内容
医療機関	・望まない妊娠対策の充実（夫も交えた個別指導の開催、依頼に応じ中学等地域における性教育の講義の開催等）
沖縄県健康長寿課 （沖縄県女性健康支援センター）	・妊娠、避妊についての的確な判断を行うことができるよう相談を希望する方や、その必要がある方への相談対応 ・不妊や妊娠に関する正しい知識の普及啓発 ・女性の健康に関する学習会の開催 ・身体的精神的な悩みを有する女性に対する相談対応
歯科医院	・妊婦の歯科健診時におけるさまざまな相談への対応、指導
南部地区歯科医師会	・妊婦の歯科健診に対する会員への指導教育 ・デンタルフェアの実施

(3) 那覇市の取り組み

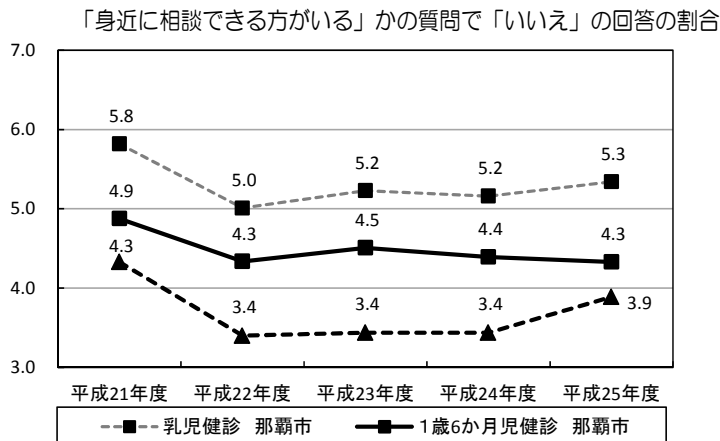
所管課名	取り組み内容
地域保健課	<p><母子保健事業・活動における妊娠期からの虐待リスクの早期の把握></p> <ul style="list-style-type: none"> ①親子健康手帳交付時の面接相談、妊婦健診等妊娠期の母子保健事業の中で、特定妊婦の早期把握を行うための面接・相談を充実 ②特定妊婦の把握や虐待予防のために、医療機関や育児支援機関との連携の充実 ③子育て支援の充実、養育環境の整備に向けてサービスの充実を図るために、関係機関・関係課との情報共有と連携の充実（経済不安、ひとり親家庭へのサービス、障がい者が育児をする等に対して） <p><親の養育状況に合わせた支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ①親子健康手帳交付時や妊婦健診の結果等による、妊娠期からの特定妊婦の把握と早期支援体制の整備 ②産後のメンタルヘルスにおける要支援者の早期把握と支援の充実 ③予期せぬ妊娠、望まない妊娠、産むか迷う方への相談対応の充実 ④医療機関（産婦人科等）との連携による妊娠期からの支援 ⑤乳幼児健診の未受診者に対する支援の充実 ⑥予防接種未接種者に対する連携強化による支援の充実 <p><こどもの特徴に合わせた育児対応についての支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ①育児不安や育児困難さ、育てづらさを感じる親に対する支援の充実
こどもみらい課	<ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援センターでの『妊婦さんいらっしゃい』（プレママ）の周知 ・子育て支援センターの周知のため、市役所本庁での出前支援の定着
子育て応援課 (子育て支援室)	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期からでも利用できる、育児支援家庭訪問事業の普及啓発
健康増進課	<ul style="list-style-type: none"> ・予防接種の未接種児に関して、関係課との情報共有
平和交流・男女 参画課	<ul style="list-style-type: none"> ・電話による子育てや虐待についての相談対応の実施

具体目標③地域や社会で育児を見守ることができる

■現状と課題

核家族の増加や、地域のつながりの希薄化などにより、子育てなどに関して、近隣からの助言や支援を受けることが困難となっています。

これまでの調査などから、「相談できる人がいない」、「子育てをサポートしてくれる人がいない」保護者が見られることから、母子保健推進員や民生委員・児童委員などの地域活動と連携を取りながら、支援が必要な家庭の把握や、見守り体制の強化を行う必要があります。



「近所の人との付き合い」がほとんどない：全体 11.0%、乳児 16.0%、1歳6カ月 11.1%、3歳児 8.4%
 資料：平成26年度 乳幼児健診（健やか親子なは）アンケート調査
 子育てのサポートをしてくれる方がいない：乳児健診 9.2%（H25年度） 資料：乳幼児健康診査報告書

■目標達成に向けた取り組み

（1）市民に期待する自らの取り組み

- ①日ごろから、地域住民や近所の方とは、あいさつを交わす等、付き合いを心がける
- ②地域の保健ボランティアさんと、顔なじみになる
- ③育児の協力者がいない場合は、諸制度を活用する等工夫する
- ④地域の子育て支援センターや児童館等を利用し、育児等の情報交換と交流を行う

（2）市民を支える関係機関、関係団体等の取り組み

機関・団体名	取り組み内容
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ・母親の状況に応じた育児支援環境の整備 ・必要に応じたカンファレンスや要保護児童対策会議の開催依頼 ・母乳外来等を活用した母親同士の仲間づくりの支援

機関・団体名	取り組み内容
那覇市社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフライン事業者や業務で地域を回る企業・団体に構成されている「那覇市見守りチャームピラ隊」と連携して、地域の自治会単位で地域の高齢者や障がいのある方などの見守り活動を行っている「那覇市地域見守り隊」については、今後、児童虐待防止に向けた取り組みを検討
市自治会長会連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々への日常的な声かけ ・自治会事務所等での相談しやすい雰囲気づくり
市民生委員児童委員連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の親子に声をかけ合い、育児に関する相談対応の実施 ・関係機関との連携のもと、こどもへの関わりで気になる保護者に対して、相談先を紹介
市母子保健推進員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の中で、子育て中の母親の話し相手になり、妊娠・出産・育児に関する相談対応と、相談できる場所や那覇市の母子保健に関する情報の提供 ・子育て中の親に声をかけ、仲間づくりができる子育て支援センターや子育てサークルについての紹介

(3) 那覇市の取り組み

所管課名	取り組み内容
地域保健課	<ul style="list-style-type: none"> ・地域保健ボランティア（母子保健推進員、健康づくり推進員等）の養成・育成を充実させ、虐待予防としてできる活動の推進 ・関係課・関係機関との連携の充実 ・虐待主管課との情報交換・連携会議の開催
こどもみらい課	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育所（園）や子育て支援センターの利用促進
子育て応援課（子育て支援室）	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診未受診者等で気になるこどもの情報があった際の情報収集及び対応 ・児童虐待防止推進月間での児童虐待防止意識の普及啓発

基本目標 4 の指標

指標(★:重点指標)		策定時	中間年 (5年後)	最終年 目標	把握方法
【健康水準の指標】	★子どもを虐待していると思う親の割合	全体::5.6% 乳児:4.1% 1歳6か月児:5.1% 3歳児:7.5% (平成 26 年度)	減少	減少	乳幼児健診(健やか親子な は)アンケート
【健康行動の指標】	ゆさぶられ症候群を知っている親の割合	乳児:85.8% (平成 26 年度)	増加	増加	乳幼児健診(健やか親子な は)アンケート
【環境整備の指標】	子育てをサポートしてくれる人がいない親の割合	9.2% (平成 25 年度乳健前期)	減少	減少	乳幼児健康診査報告書 (沖縄県小児保健協会)
【参考とする指標】	子育て支援室の児童虐待相談件数	平成 25 年度:235 件 平成 24 年度:171 件 平成 23 年度:128 件	—	—	子育て応援課 子育て支援 室(家庭児童相談実施状 況)
	こんにちは赤ちゃん訪問の件数と率 乳児家庭全戸訪問事業	2,963 件 事業実施率:85.1% (平成 25 年度)	—	—	子育て応援課



第4章

計画を着実に進めるために

第4章 計画を着実に進めるために

1. 「健やか親子なは2015」の周知

本計画は、こどもの健やかな成長や親の子育てを地域で支える計画であるため、家庭や地域、学校など地域の関係機関、関連団体などと連携を図り協働により推進していきます。

そのため、多くの市民に本計画に対する理解や認識を深めて頂く必要があります。那覇市の「広報なは 市民の友」やホームページ、乳幼児健診の会場などで計画の周知を図ります。

2. 推進体制の強化と「那覇市母子保健推進協議会」と連携した計画の推進管理

地域保健課を中心に庁内の関係課と連携をとり、進捗状況を管理するとともに、必要な調整を行い、総合的な推進を目指します。

また、保健・医療、子育て支援の関係者から構成される「那覇市母子保健推進協議会」により、年度ごとの事業進捗状況の検証等を行います。また、本計画の策定のために立ち上げた「策定作業部会」を一部連携会議として継続し、関係機関同士の情報交換を行いながら、連携した取り組みをさらに検討していきます。

■ 那覇市の母子保健の推進に関する各会議 ■

- ・ 関係課長会議
- ・ 産科医療機関との連絡会議（これまで看護職との連絡会議を実施してきましたが、今後は医師も含めた会議を実施予定。那覇市内及び近郊の産婦人科医及び看護職へ参加を求め開催。）
- ・ 思春期連携会議（仮）（策定作業部会から一部継続）

3. 国や県等との連携

本計画に位置づけた取り組みは、市が単独できるもののほかに、法律や制度などに基づく事業があります。また、事業を進めていくなかで、広域的に関係機関との連携が必要な場面がでてくる可能性もあることから、国や県との連携を深めつつ、計画を推進します。

中核市に移行したことで、県から那覇市へ移譲された母子保健の事業があります。県と密接に連携を図り、円滑な事業実施をめざします。

参 考 资 料

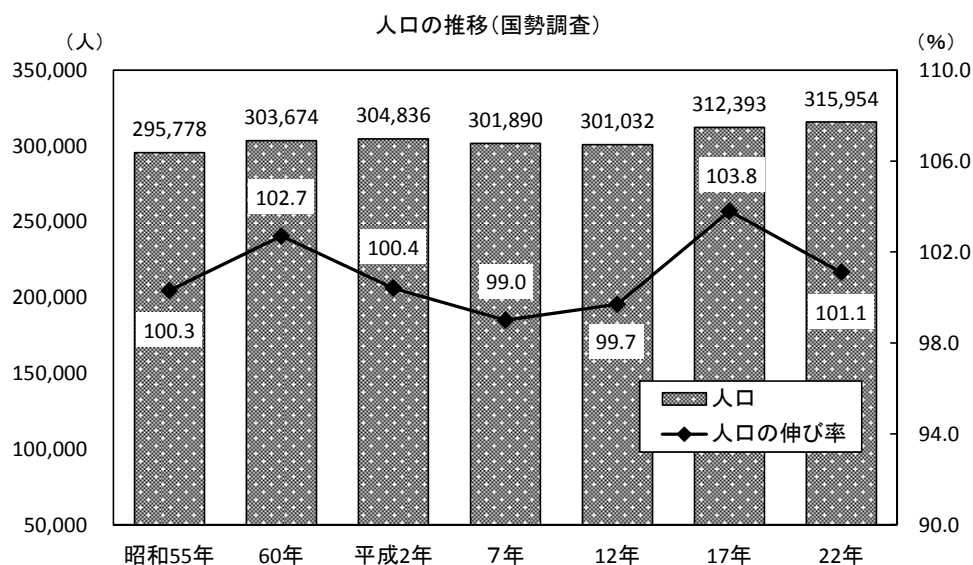
参考資料

1. 那覇市の母子等を取り巻く状況（統計データ）

(1) 人口、世帯の動向

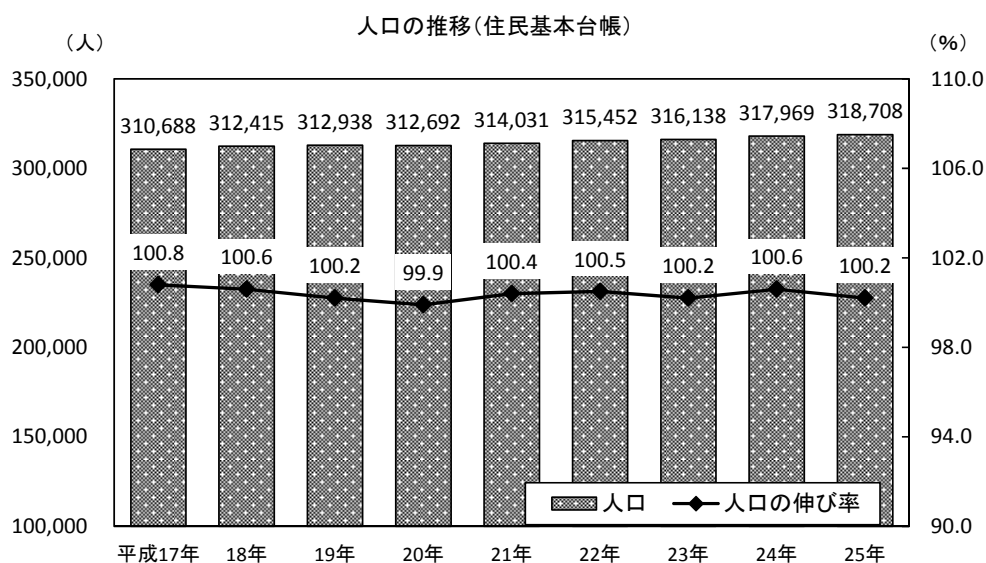
①人口の推移(市)

国勢調査における那覇市の人口は、H17年には31万人を超え、H22年には315,954人となっており、過去30年間で最も多くなっています。



資料：国勢調査

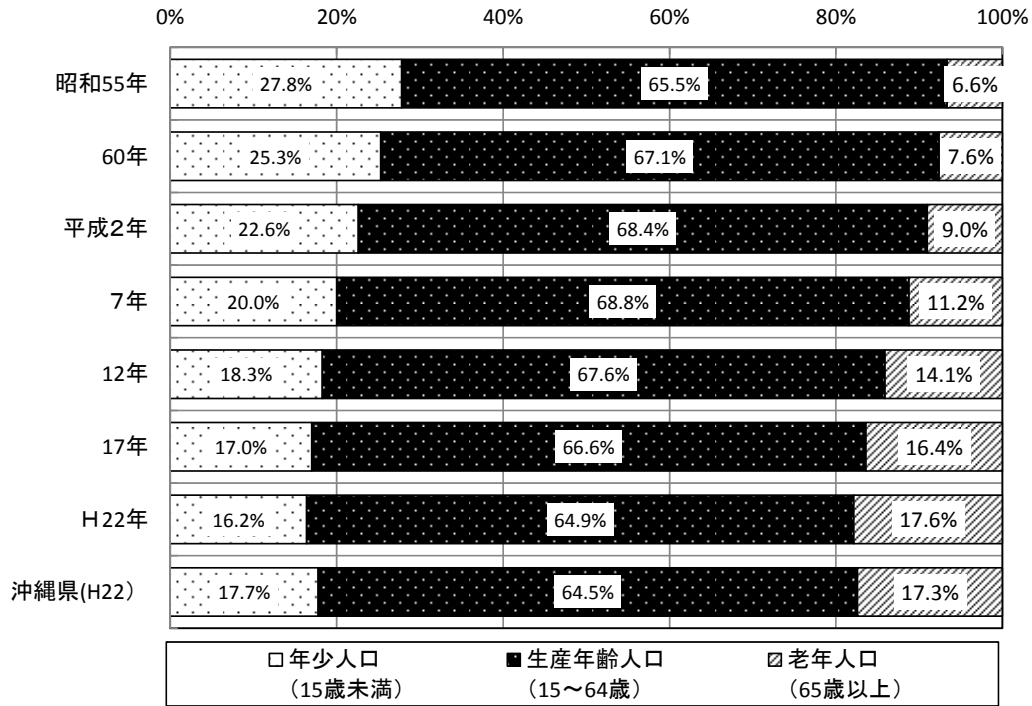
住民基本台帳をみると、H21年以降、緩やかに増加しています。



資料：住民基本台帳（各年3月末）

②年齢3区分別人口(市)

本市の年少人口、生産年齢人口は年々減少していますが、老年人口は増加しています。

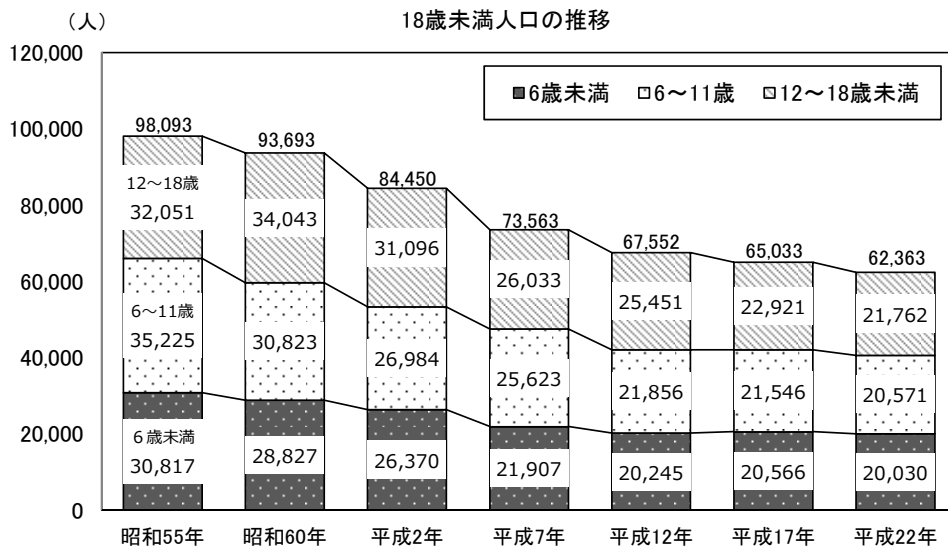


資料：国勢調査

③18歳未満人口の推移(市)

18歳未満人口はH22年現在、62,363人となっており、年々減少しています。H2年と比較しても、約2万人（26%減）少ない状況にあります。

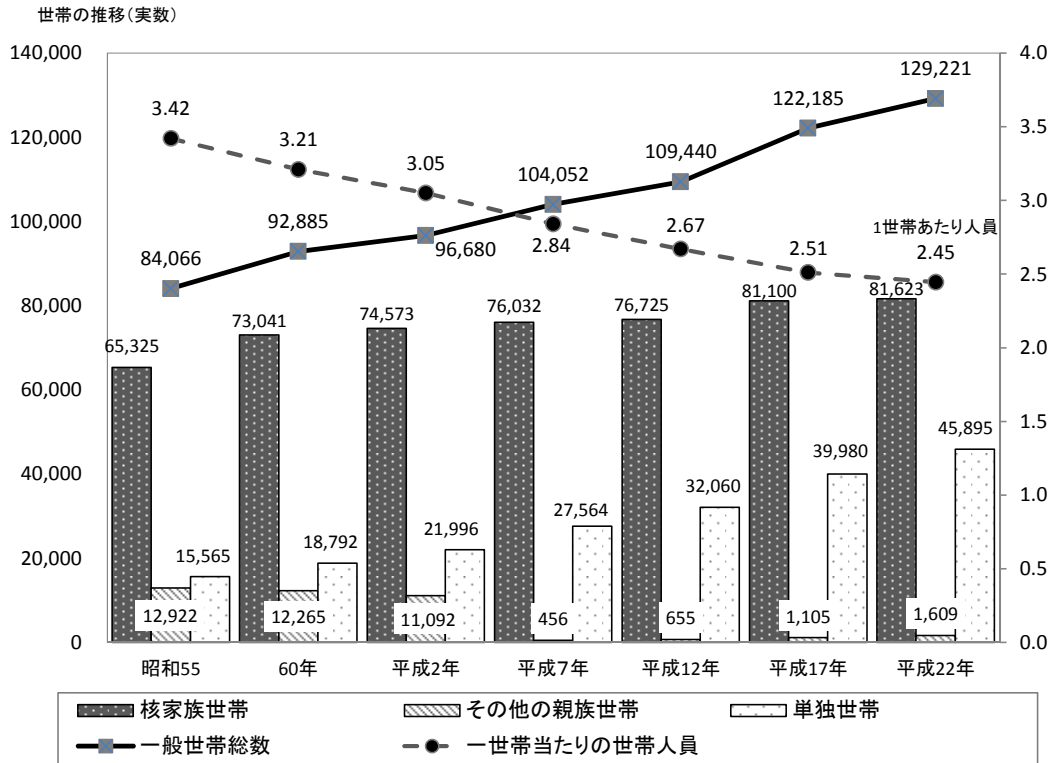
H22年の18歳未満人口を年齢別にH2年と比較してみると、12~18歳未満が9,334人減（30%減）と最も減少が大きく、次いで6歳未満が6,340人減（24%減）、6~11歳未満が6,413人減（23.8%減）となっています。



資料：国勢調査

④世帯の推移(市)

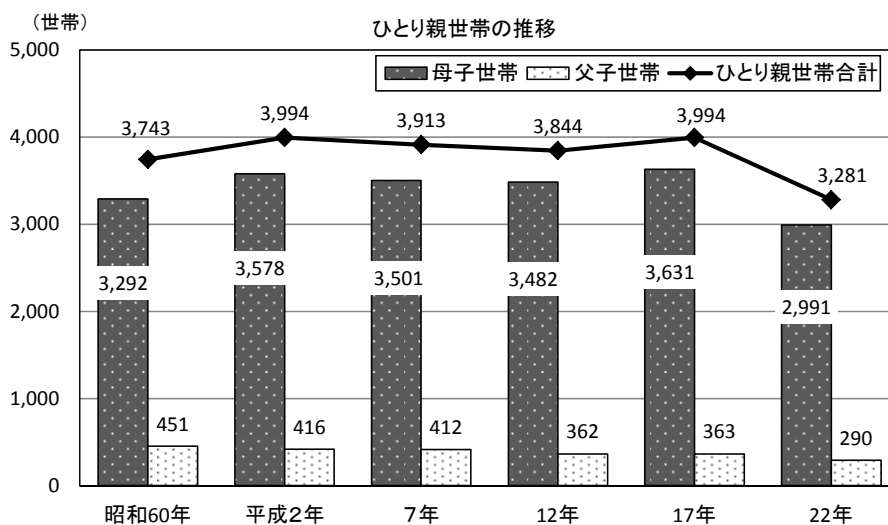
国勢調査におけるH22年の一般世帯数は129,221世帯で、増加傾向にあります。H12年以降10年間で約2万世帯の増加となっています。それに対し、1世帯あたりの人員はH22年で2.45人となり、世帯規模の縮小化が進んでいます。



資料：国勢調査

⑤ひとり親世帯の推移(市)

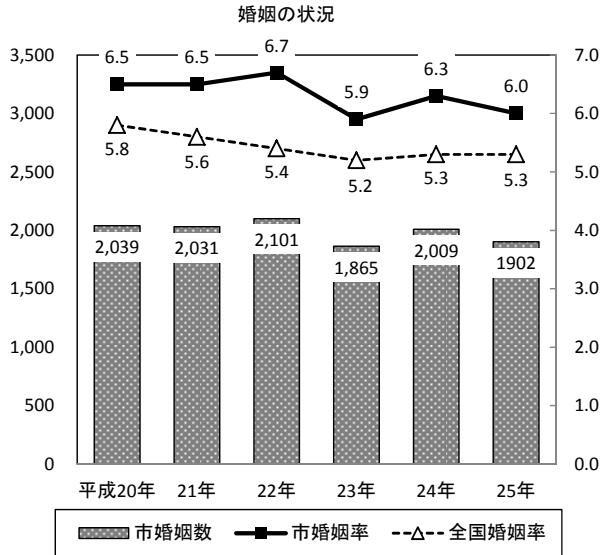
ひとり親世帯（母子・父子世帯）は、H22年現在3,281世帯で、母子2,991世帯、父子290世帯となっています。H7年からH17年までは、約4,000世帯で推移していましたが、H22年の調査では減少しています。



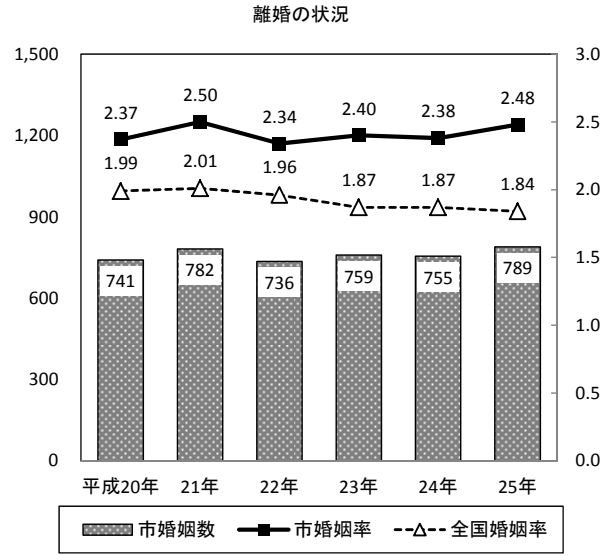
資料：国勢調査

⑤ 婚姻・離婚の状況

婚姻率（人口千対）はH25年6.0となっています。H20年以降、増減をしながら低下していますが、国と比較すると高い状況にあります。離婚率は横ばいで推移しており、国よりも高くなっています。



注) 離婚率、婚姻率：人口千対

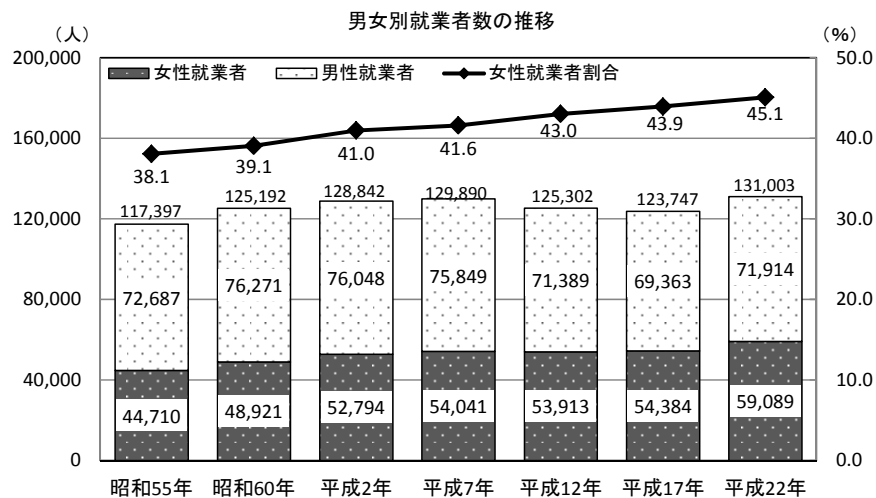


資料：人口動態統計、沖縄県福祉保健部

(2) 産業および就業状況

① 男女別就業者数の推移(市)

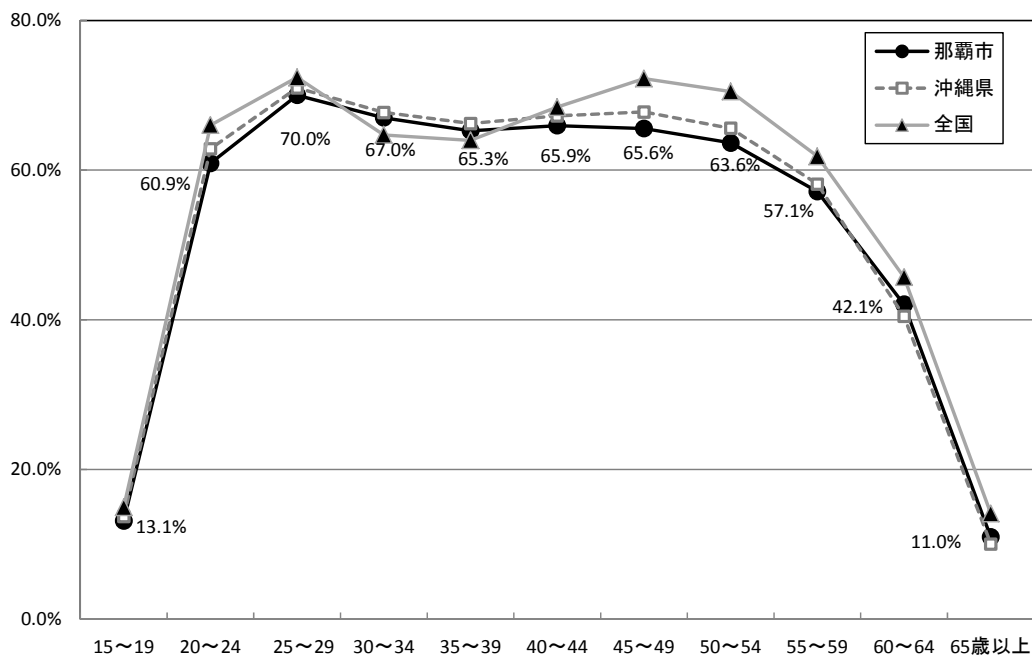
女性の就業者数は、H22年で約5万9千人と、前回調査に比べ5千人弱の増加が見られました。また、総就業者のうち女性の占める割合は、年々増加傾向にあり、H22年で45.1%と、半数に近い割合となっています。



資料：国勢調査

②女性の年齢別労働力率

本市女性の労働力率をみると、25～29歳が70.0%とピーク期となっています。その後、結婚・出産期にあたる30代に一旦低下し、育児が落ち着いた40代でわずかに上昇しています。いわゆるM字カーブと呼ばれていますが、全国の割合に比べ、M字の谷の部分の部分が浅い状況にあります。



※労働力率(%)=年齢階級別労働人口(就業者+完全失業率)÷年齢階級別の人口×100

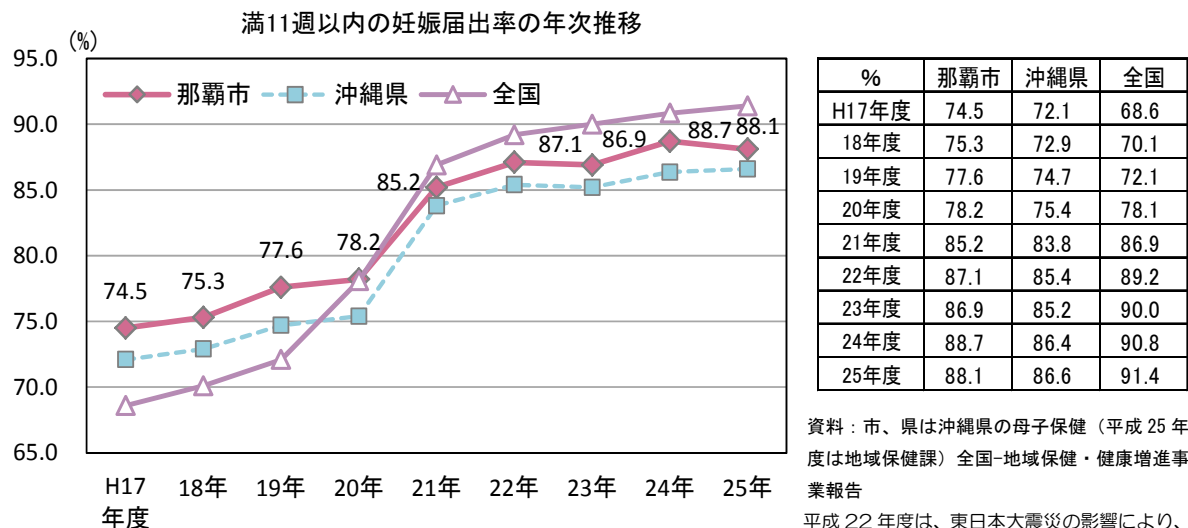
女性	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65歳以上
那覇市	13.1%	60.9%	70.0%	67.0%	65.3%	65.9%	65.6%	63.6%	57.1%	42.1%	11.0%
沖縄県	13.7%	62.9%	71.0%	67.7%	66.2%	67.3%	67.8%	65.6%	58.1%	40.5%	10.0%
全国	14.9%	66.0%	72.4%	64.7%	64.0%	68.4%	72.2%	70.5%	61.8%	45.7%	14.1%

資料：国勢調査（H22年）

(3) 母子保健の現状

①11週以内の妊娠届出状況

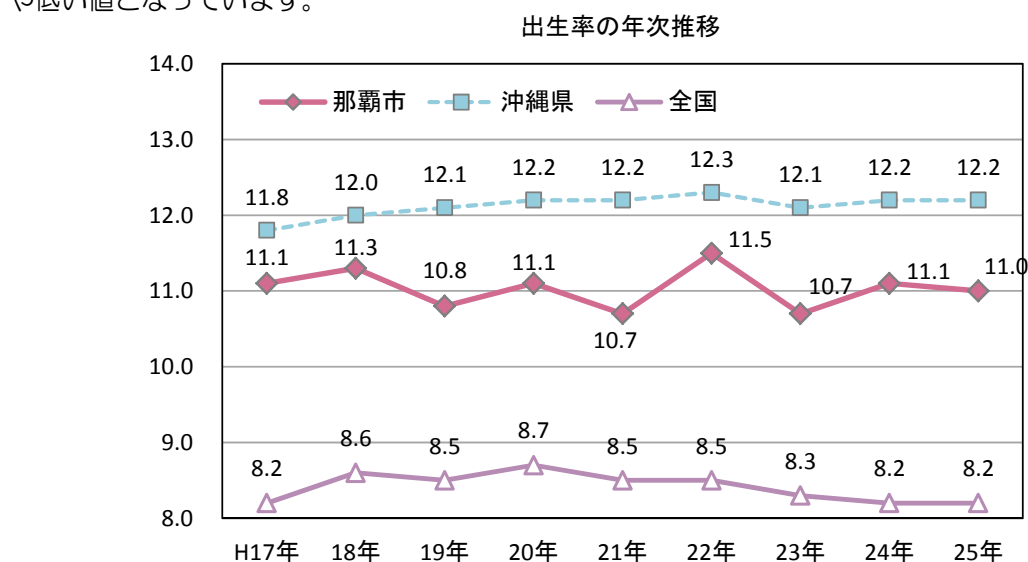
H25年年度の11週以内の妊娠届出状況をみると、9割弱（88.1%）が11週以内に届け出を済ませており、増加傾向にあります。国、県も同様に増加しており、本市は沖縄県より11週以内の届出率は高いものの、全国と比較すると3ポイントほど下回っています。



②出生の状況

<出生率の推移>

H25年の本市の出生率（人口千対）は11.0、出生数は3,495人となっています。出生率、出生数ともに経年的に増減を繰り返しながら横ばいで推移しています。沖縄県の出生率よりもやや低い値となっています。



□出生数

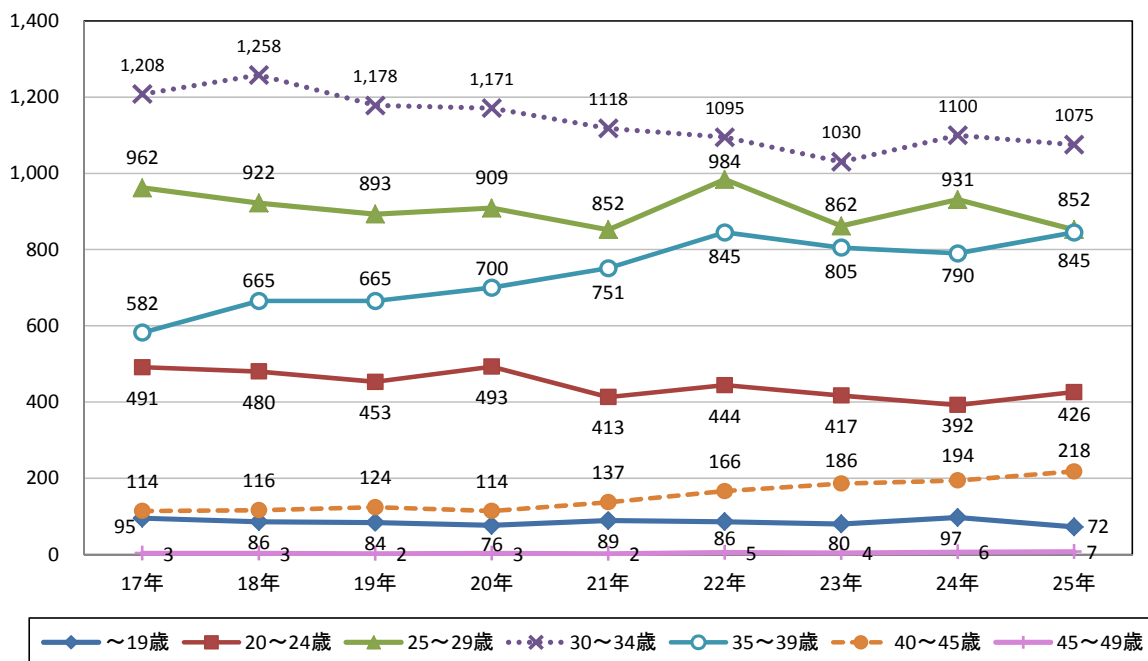
	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年
那覇市	3,455	3,530	3,399	3,466	3,362	3,625	3,386	3,510	3,495
沖縄県	16,119	16,483	16,588	16,736	16,744	17,098	16,918	17,074	17,209
全国	1,062,604	1,092,662	1,089,745	1,091,150	1,070,035	1,071,304	1,050,698	1,037,231	1,029,816

資料：人口動態統計、沖縄県福祉保健部

<母親の年齢別出生数(市)>

母親の年齢別出生数をみると、30～34歳での出生が最も多くなっていますが、H21年以降減少傾向にあります。20～24歳でも徐々に減少しています。一方、35～39歳及び40～45歳は増加傾向にあります。

母親の年齢別出生数の年次推移

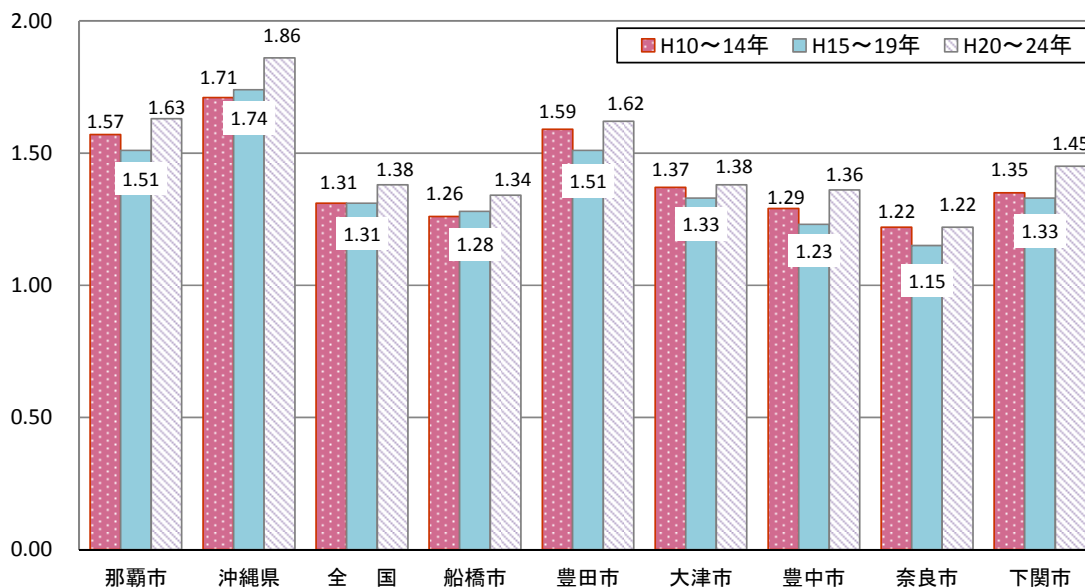


資料：厚生労働省 人口動態統計

<合計特殊出生率>

本市のH20年～24年の合計特殊出生率をみると、1.63となっており、H15年～19年の値よりも増加しています。他の中核市（人口規模等から勘案し、5地域を抜粋）と比較すると、豊田市（愛知県）の値と同様の傾向がみられました。全国的に高くなっていますが、沖縄県と比較すると、若干低い値となっています。

(出生率) 合計特殊出生率

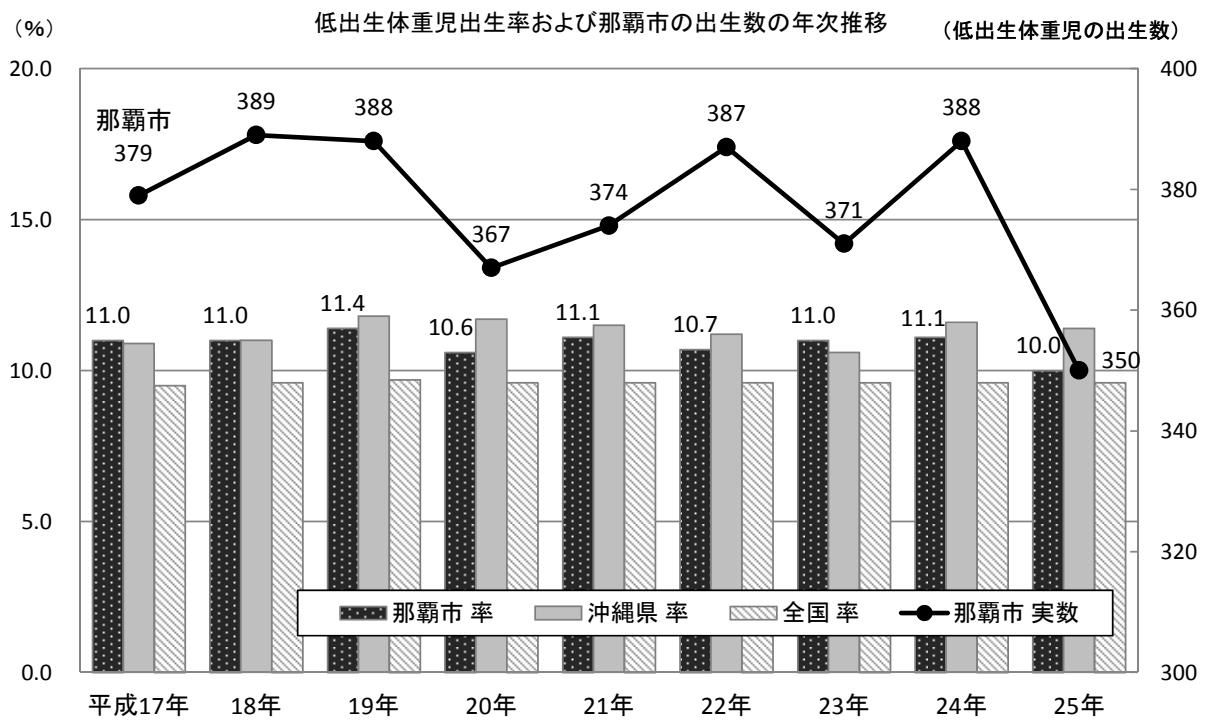


資料：厚生労働省 人口動態統計特殊報告

<低出生体重児の出生率および出生数>

本市のH25年の低出生体重児（2500g未満）の出生数は350人で、その割合は10.0%となっており、増減をしながら横ばいで推移しています。県と比較すると大きな差異はみられませんが、全国と比べると低出生体重児の出生率は高い状況が続いています。

	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年
那覇市(率)	11.0	11.0	11.4	10.6	11.1	10.7	11.0	11.1	10.0
沖縄県(率)	10.9	11.0	11.8	11.7	11.5	11.2	10.6	11.6	11.4
全国(率)	9.5	9.6	9.7	9.6	9.6	9.6	9.6	9.6	9.6
那覇市(出生数)	379	389	388	367	374	387	371	388	350



資料：地域保健・健康増進事業報告

③新生児・乳児死亡の状況

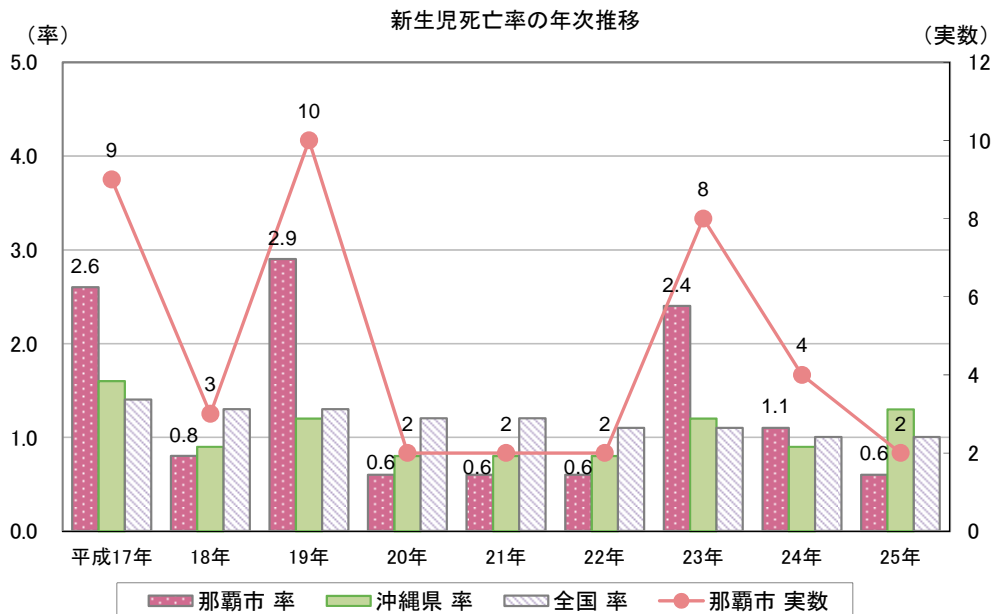
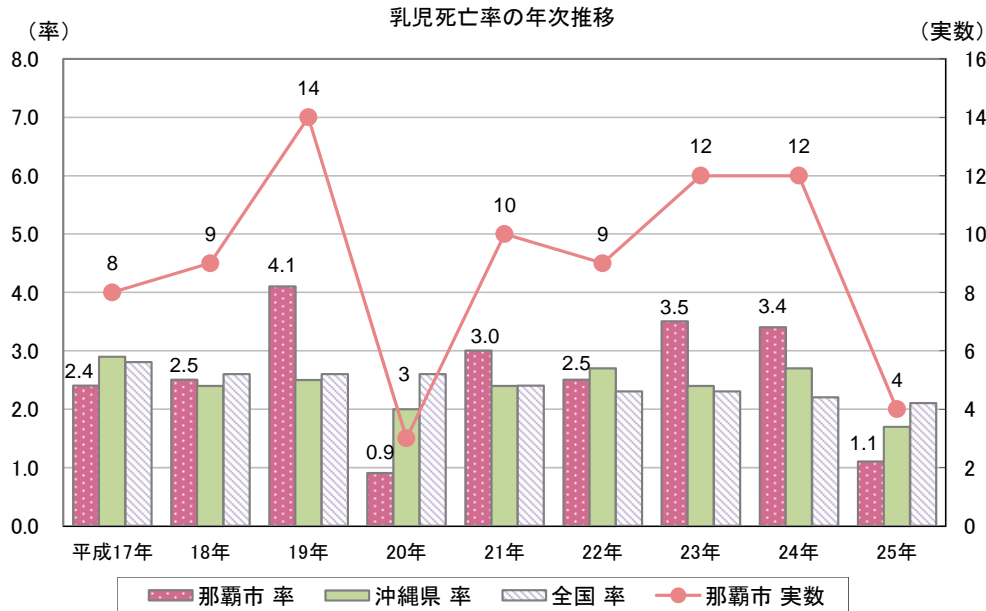
H25年は新生児死亡2件、乳児死亡4件となっており、それぞれの死亡率は県や全国の値を下回っています。しかし、死亡率の推移をみると増減を繰り返しており、国や県の値を上回る年もみられました。

＜新生児死亡の推移＞率：出産千対

	那覇市 (実数)	那覇市 (率)	沖縄県 (率)	全国 (率)
平成17年	9	2.6	1.6	1.4
平成18年	3	0.8	0.9	1.3
平成19年	10	2.9	1.2	1.3
平成20年	2	0.6	0.8	1.2
平成21年	2	0.6	0.8	1.2
平成22年	2	0.6	0.8	1.1
平成23年	8	2.4	1.2	1.1
平成24年	4	1.1	0.9	1.0
平成25年	2	0.6	1.3	1.0

＜乳児死亡の推移＞率：出産千対

	那覇市 (実数)	那覇市 (率)	沖縄県 (率)	全国 (率)
平成17年	8	2.4	2.9	2.8
平成18年	9	2.5	2.4	2.6
平成19年	14	4.1	2.5	2.6
平成20年	3	0.9	2.0	2.6
平成21年	10	3.0	2.4	2.4
平成22年	9	2.5	2.7	2.3
平成23年	12	3.5	2.4	2.3
平成24年	12	3.4	2.7	2.2
平成25年	4	1.1	1.7	2.1



④周産期死亡・死産の状況

H25年の周産期死亡率は5.1で18件となっており、H17年以降増減をしながら推移しています。ほぼ毎年、国の周産期死亡率よりも若干上回っています。

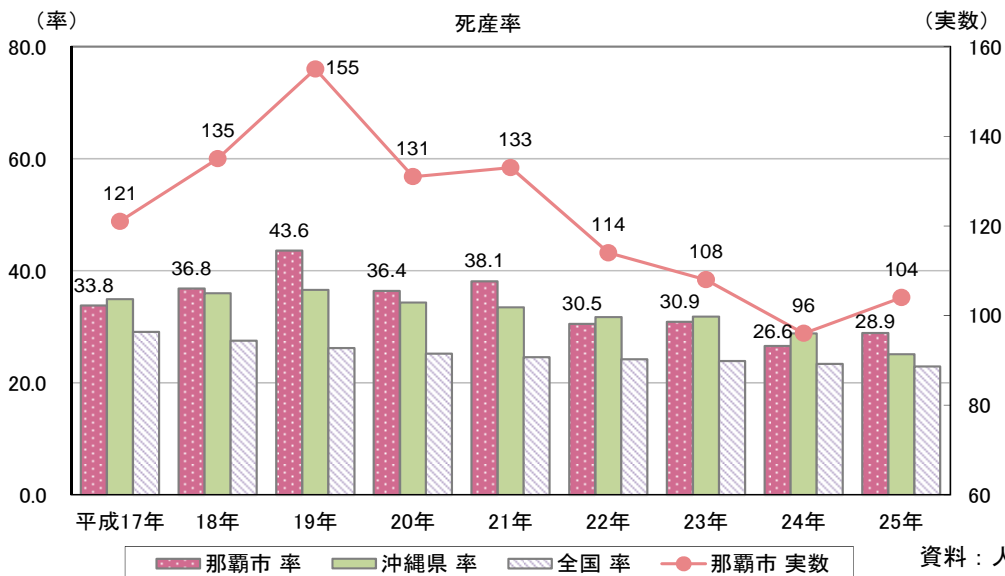
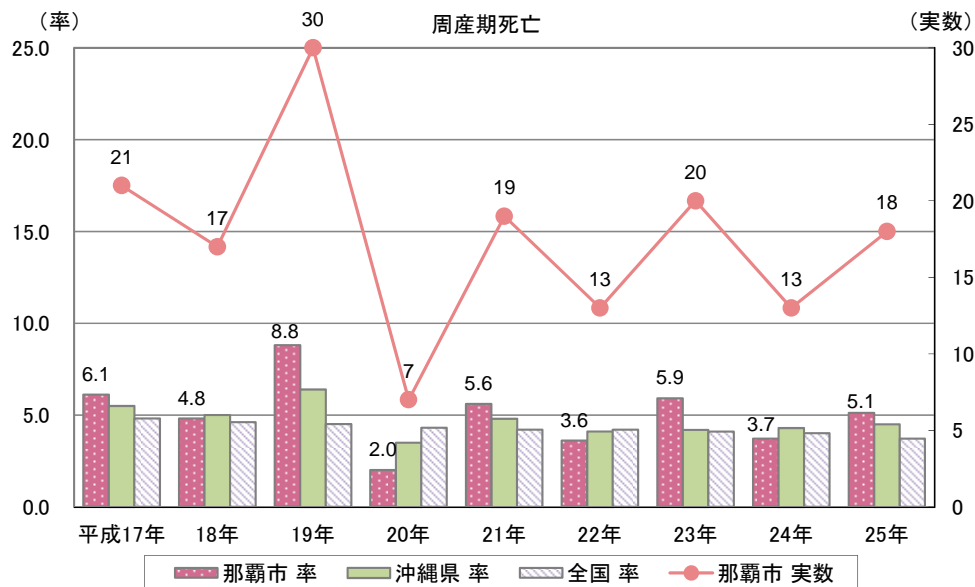
H25年の本市の死産率は28.9で、104件となっており、H19年以降増減をしながらも減少傾向にあります。国よりも高率で推移しています。

<周産期死亡の推移> 率：出産千対

	那覇市 (実数)	那覇市 (率)	沖縄県 (率)	全国 (率)
平成17年	21	6.1	5.5	4.8
平成18年	17	4.8	5.0	4.6
平成19年	30	8.8	6.4	4.5
平成20年	7	2.0	3.5	4.3
平成21年	19	5.6	4.8	4.2
平成22年	13	3.6	4.1	4.2
平成23年	20	5.9	4.2	4.1
平成24年	13	3.7	4.3	4.0
平成25年	18	5.1	4.5	3.7

<死産の推移> 率：出産千対

	那覇市 (実数)	那覇市 (率)	沖縄県 (率)	全国 (率)
平成17年	121	33.8	34.9	29.1
平成18年	135	36.8	36.0	27.5
平成19年	155	43.6	36.6	26.2
平成20年	131	36.4	34.3	25.2
平成21年	133	38.1	33.5	24.6
平成22年	114	30.5	31.7	24.2
平成23年	108	30.9	31.8	23.9
平成24年	96	26.6	28.8	23.4
平成25年	104	28.9	25.1	22.9



資料：人口動態統計

⑤ 0歳～5歳未満の乳幼児の死亡原因

那覇市	乳幼児死亡		死因順位		
	実数	1位	2位	3位	
平成17年	14	出産外傷(3)	心臓の先天奇形(2) その他の先天奇形及び変形(2)	不慮の事故(1) 妊娠期間及び胎児発育期に関連する障害(1) 心不全(1) 肺炎(1) その他循環器の奇形など(1) 染色体異常(1) その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機能障害(1) *その他(2)	
平成18年	11	交通事故(2) 肺炎(2) 周産期に特異的な感染症(2)	心臓の先天奇形(1) 乳幼児突然死症候群(1) その他の不慮の事故(1) その他の尿路感染系の疾患(1) その他循環器の奇形など(1)		
平成19年	18	妊娠期間及び胎児発育期に関連する障害(2) 心臓の先天奇形(2) その他の先天性奇形及び変形(2)	その他の心疾患(1) ヘルニア及び腸閉塞(1) 胎児及び新生児の出血性障害及び血液性障害(1) その他循環器の奇形など(1) 染色体異常その他に分類されないもの(1) *その他(7)		
平成20年	0	-	-	-	
平成21年	13	その他の循環器系の先天奇形(2) 敗血症(2)	その他の呼吸器系の疾患(1) ヘルニア及び腸閉塞(1) その他の周産期に発生した病態(1) その他の先天奇形及び変形(1) 染色体異常、他に分類されないもの(1) *その他(4)		
平成22年	13	心臓の先天奇形(4)	肺炎(1) 染色体異常、他に分類されないもの(1) 乳幼児突然死症候群(1) その他の感染症及び寄生虫症(1) 敗血症(1) *その他(4)		
平成23年	15	出産外傷(3)	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害(2) 心臓の先天奇形(2)	その他の悪性新生物(1) 中枢神経のその他の新生物(1) 周産期に特異的な感染症(1) その他の周産期に発生した病態(1) 神経系の先天奇形(1) *その他(3)	
平成24年	16	染色体異常、他に分類されないもの(3) 乳幼児突然死症候群(3)	その他の先天性奇形及び変形(2)	その他の循環器系の先天奇形(1) その他の周産期に発生した病態(1) 周産期に特異的な感染症(1) 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害(1) 皮膚及び皮下組織の疾患(1) その他の消化器系の疾患(1) 心筋症(1) その他の神経系の疾患(1)	

資料：沖縄県中央保健所「保健所活動概況」、H24年は「那覇市保健所事業概要」

⑥乳児死亡の原因

那覇市	乳児死亡		死因順位		
	実数		1位	2位	3位
平成17年	11	出産外傷(3)		心臓の先天奇形(2) その他の先天性奇形及び変形(2)	妊娠期間及び胎児発育期に関連する障害(1) 心不全(1) その他循環器の奇形など(1) 染色体異常(1)
平成18年	9	交通事故(2) 肺炎(1) 周産期に特異的な感染症(2)		心臓の先天奇形(1) 乳幼児突然死症候群(1) その他の不慮の事故(1) その他の尿路感染系の疾患(1)	
平成19年	14	妊娠期間及び胎児発育期に関連する障害(2) 心臓の先天奇形(2) その他の先天奇形及び変形(2)		その他の心疾患(1) ヘルニア及び腸閉塞(1) 胎児及び新生児の出血性障害及び血液性障害(1) その他循環器の奇形など(1) 染色体異常その他に分類されないもの(1) *その他(3)	
平成20年	3	※	※	※	※
平成21年	10	その他の循環器系の先天奇形(2)		敗血症(1) その他の呼吸器系の疾患(1) ヘルニア及び腸閉塞(1) 出産外傷(1) その他の先天奇形及び変形(1) その他の心疾患(1) *その他(2)	
平成22年	9	心臓の先天奇形(4)		その他の感染症及び寄生虫症(1) その他の消化器系の疾患(1) その他の周産期に発生した病態(1) 染色体異常、他に分類されないもの(1) 乳幼児突然死症候群(1)	
平成23年	12	出産外傷(3)		妊娠期間及び胎児発育に関連する障害(2)	周産期に特異的な感染症(1) その他の周産期に発生した病態(1) 神経系の先天奇形(1) 心臓の先天奇形(1) その他の循環器系の先天奇形(1) *その他(2)
平成24年	12	乳幼児突然症候群(3)		その他の先天性奇形及び変形(2)	その他の周産期に発生した病態(1) 周産期に特異的な感染症(1) 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害(1) その他の消化器系の疾患(1) 心筋症(1) その他の神経系の疾患(1)

資料：沖縄県中央保健所「保健所活動概況」、H24年は「那覇市保健所事業概要」

※平成20年の死因については統計なし

⑦乳児（1歳未満）の不慮の事故死について

本市の乳児の不慮の事故死については、H24年は0件となっておりますが、年によっては、数件発生しています。

	那覇市		沖縄県	
	実数	率	実数	率
H17年	1	7.1	6	11.1
H18年	3	27.3	14	29.2
H19年	0	0	10	18.5
H20年	0	0	2	4.54
H21年	0	0	2	3.7
H22年	1	7.7	6	3.7
H23年	0	0	4	6.55
H24年	0	0	1	—

資料：沖縄県 衛生統計年報、那覇市 保健所活動概況

⇒不慮の事故に分類される死因（交通事故／転倒・転落／不慮の溺死及び溺水／不慮の窒息／煙、火災への曝露／有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露／その他の不慮の事故）

⑧那覇市における乳幼児の救急搬送状況

本市の乳幼児の救急搬送の件数をみると、「一般負傷」によるものが最も多く、次いで「交通事故」となっています。「一般負傷」と「交通事故」は平成23年以降減少傾向にあります。

（件数）

	火災	水難	交通	一般負傷
H17年	2	0	44	96
H18年	2	0	51	102
H19年	0	0	44	107
H20年	0	0	34	134
H21年	2	1	31	86
H22年	1	2	48	106
H23年	0	1	48	141
H24年	0	0	31	132
H25年	2	1	25	119

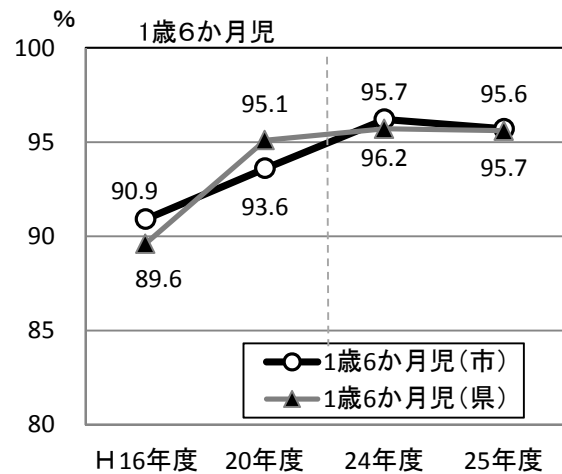
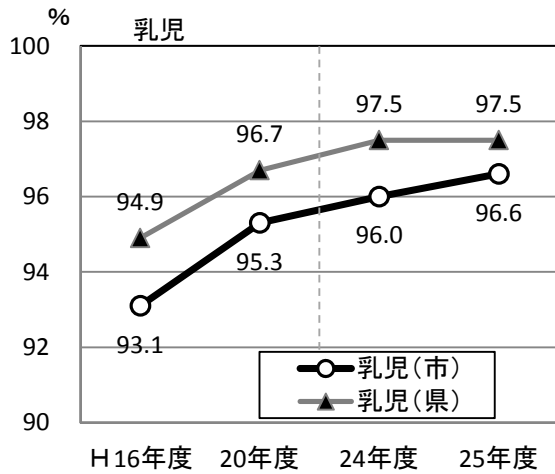
資料：那覇市消防年報

⑨車に乗る時はチャイルドシートを使用している」と答えた人の割合

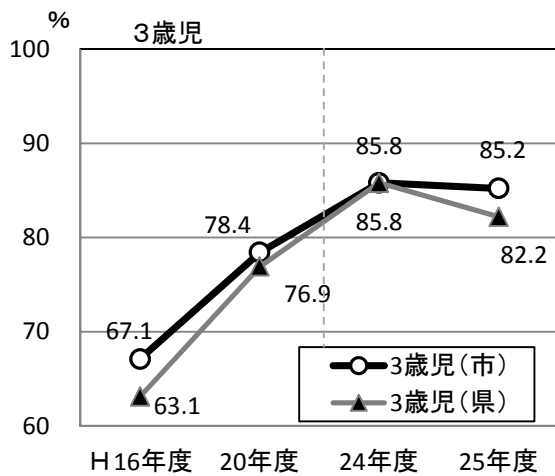
乳児・1歳6か月児・3歳児ともにチャイルドシートの使用率はそれぞれ上昇していますが、3歳児が80%台にとどまっています。

	平成16年度	平成20年度	平成24年度	平成25年度
乳児(市)	93.1	95.3	96.0	96.6
1歳6か月児(市)	90.9	93.6	96.2	95.7
3歳児(市)	67.1	78.4	85.8	85.2
乳幼児(県)	94.9	96.7	97.5	97.5
1歳6か月児(県)	89.6	95.1	95.7	95.6
3歳児(県)	63.1	76.9	85.8	82.2

資料：乳幼児健康診査報告書（沖縄県小児保健協会）



資料：乳幼児健康診査報告書（沖縄県小児保健協会）



⑩10代の人工妊娠中絶について

本市のH25年度的那覇市の10代の人工中絶件数は86件で、人工妊娠中絶実施率は9.8となっており、国や県の中絶実施率を上回っています。

※那覇市、沖縄県、全国10代の人工妊娠中絶実施率（15～19歳の女子人口千対）

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
那覇市	—	—	—	—	—	9.8（86件）
沖縄県	5.9	7.2	6.3	7.3	7.4	7.6
全国	7.6	7.3	6.9	7.1	7.0	6.6

資料：那覇市地域保健課、沖縄県と全国は衛生行政報告例（実施率の「20歳未満」は、分母に15～19歳の女子人口を用い、分子に15歳未満を含めた「人工妊娠中絶件数」を用いて計算）

平成22年度は、東日本大震災の影響により、福島県の相双保健福祉事務所管内の市町村が含まれていない

※沖縄県の件数（全中絶数に対する割合）（単位：件）

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
15歳未満	1	9	12	6	14
15歳	13	9	17	18	13
16歳	34	49	41	46	58
17歳	59	59	63	66	46
18歳	62	71	56	64	65
19歳	71	82	66	100	107
20歳未満合計	240（8.9%）	279（10.7%）	255（9.9%）	300（11.6%）	303（11.7%）
全中絶数	2,685	2,598	2,563	2,594	2,581

⑪10代の自殺について

本市の10代の自殺は、0件で推移している時期もありましたが、H21年以降、数件ずつ発生しています。

	沖縄県	那覇市
H17年	3	1
H18年	4	0
H19年	3	0
H20年	7	0
H21年	2	2
H22年	9	4
H23年	6	1
H24年	5	—

資料：衛生統計年報

(4) 妊婦健診に関する統計

妊産婦健診の結果をみると各年ともに約4割が有所見者となっています。有所見者のうち、最も多い項目は「貧血」となっています。

妊婦一般健康診査受診状況

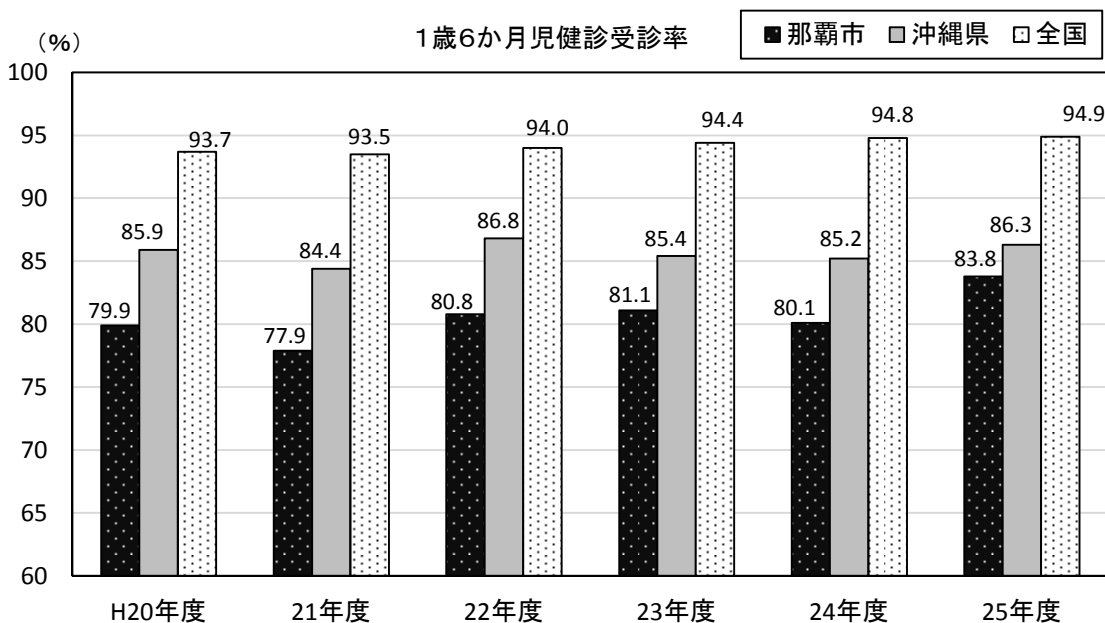
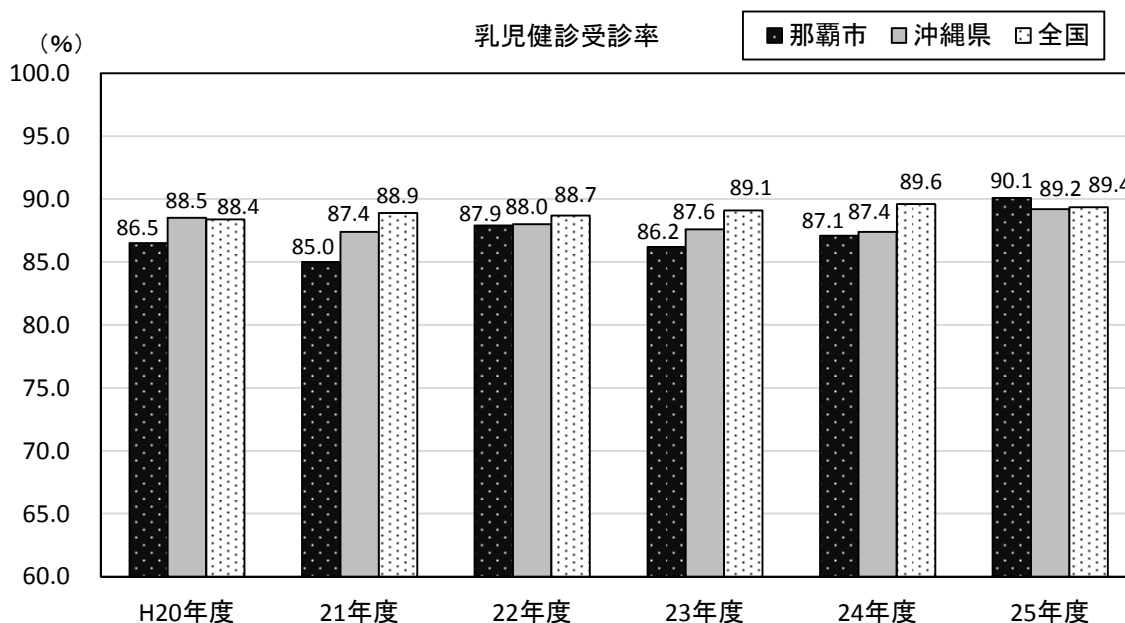
年度	項目	受診者数 (延数)	異常なし	有所見者数 (割合)		有所見者数(延数)						
						高血圧症候群	糖尿病	糖負荷検査	貧血	尿所見	その他	計
平成20年度	沖縄県	78,295	45,745	32,550	41.6	249	578	319	25,071	5,914	4,609	36,740
	那覇市	15,954	9,214	6,740	42.2	48	78	42	4,950	1,732	831	7,681
平成21年度	沖縄県	80,151	46,954	33,197	41.4	240	663	502	23,179	6,725	6,512	37,821
	那覇市	16,741	9,828	6,913	41.3	43	119	79	4,451	2,121	1,151	7,964
平成22年度	沖縄県	81,352	47,052	34,300	42.2	219	575	548	24,129	7,228	6,330	39,029
	那覇市	16,860	9,358	7,502	44.5	51	107	107	5,207	2,142	1,101	8,715
平成23年度	沖縄県	80,908	46,203	34,705	42.9	191	697	641	23,696	7,167	7,219	39,611
	那覇市	16,353	9,290	7,063	43.2	37	113	116	4,602	2,146	1,054	8,068
平成24年度	沖縄県	80,420	47,603	32,817	40.8	185	524	509	22,089	6,936	7,211	37,454
	那覇市	16,797	10,090	6,707	39.9	28	89	105	4,185	2,256	1,036	7,699

資料：沖縄県の母子保健（母子保健の主なる統計）沖縄県HP

(5) 乳幼児健診に関する統計

①乳幼児健康診査受診状況

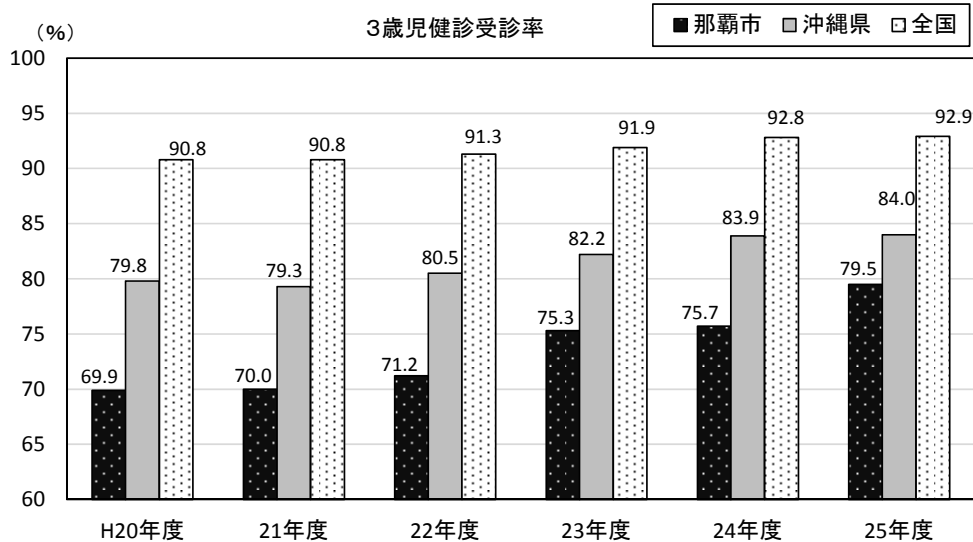
本市の乳幼児健康診査の受診率は、徐々に高くなってきていますが、県や国に比べると、低い状況にあります。特に1歳6か月児健診、3歳児健診の受診率が低い状況にあります。



資料：那覇市、県-乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)

全国-地域保健・健康増進事業報告 平成22年度は、東日本大震災の影響により、岩手県、宮城県、福島県の一部の市町村が含まれていない。

受診率=(一般健康診査受診実人員/健康診査対象人員)×100

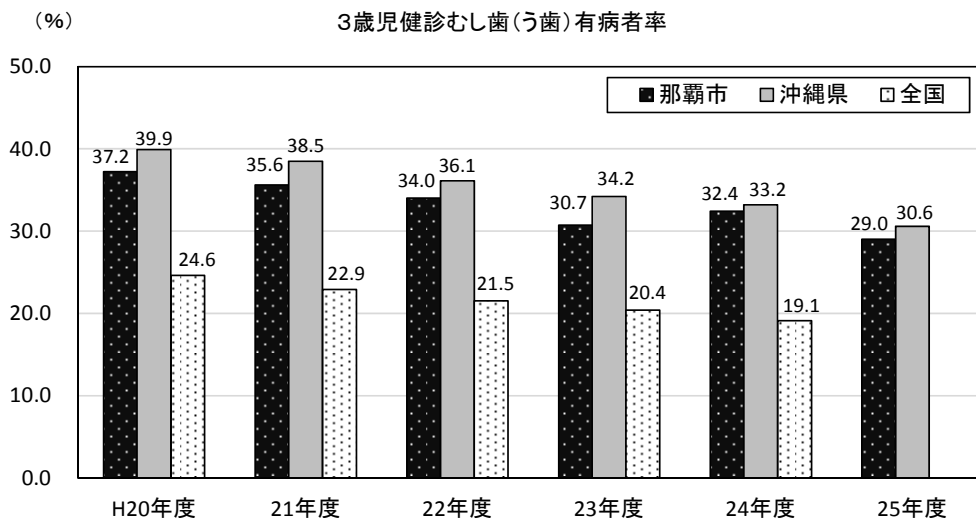
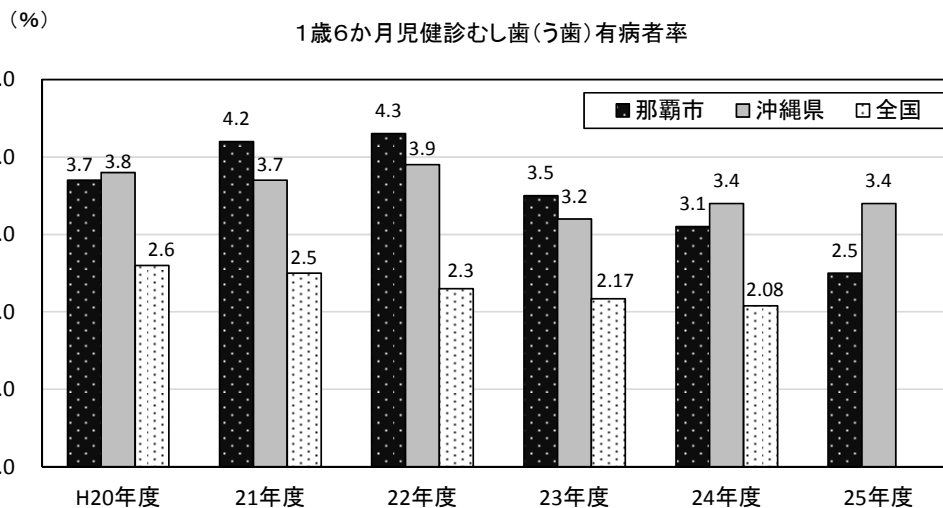


資料：那覇市、県-乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)

全国-地域保健・健康増進事業報告 平成22年度は、東日本大震災の影響により、岩手県、宮城県、福島県の一部の市町村が含まれていない。受診率=(一般健康診査受診実人員/健康診査対象人員)×100

②う歯(むし歯)有病者率

本市のH25年度の乳幼児歯科健診結果をみると、1歳6か月児で2.5%、3歳児で29.0%がむし歯となっています。徐々に減少はしているものの、全国と比較すると、高い割合で推移しています。



資料：那覇市、県-乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
全国-地域保健・健康増進事業報告

③予防接種の実施状況（1歳6か月児）

麻疹・風疹（MR）の予防接種については、流行阻止効果が期待できる接種率 95%を超え、高い接種率となっています。一方、BCG（結核）の予防接種や三種混合の予防接種については予防接種方法の変更等により接種率が低くなっています。（経年で比較する場合には注意が必要です。）

BCGの予防接種率

	H16年度	H20年度	H24年度	H25年度
那覇市	96.4	96.4※	95.8※	83.1※
沖縄県	90.7	98.3	97.2	97.3

※は那覇市市政概要より 予防接種を受ける年齢(3か月～6か月未満)

麻疹・風疹(MR)の予防接種率

	H16年度	H20年度	H24年度	H25年度
那覇市	86.4	93.0※	97.2※	96.1※
沖縄県	87.7	90.9	86.8	84.2

※は那覇市市政概要より 予防接種を受ける年齢:MR1期(1歳～2歳未満)

三種混合の予防接種率

	H16年度	H20年度	H24年度	H25年度
那覇市	65.7	91.8※	99.0※	27.4※
沖縄県	74.0	83.4	86.4	86.7

※は那覇市市政概要より 予防接種を受ける年齢(3か月～7歳6か月未満)

四種混合の予防接種率

	H25年度
	75.8※
	-

注) 三種混合については、H24年11月より不活化ポリオワクチン、四種混合ワクチンへ移行

資料：乳幼児健康診査報告書（沖縄県小児保健協会）1歳6か月児健診より

※は那覇市市政概要より(予防接種を受ける年齢:BCG(3か月～6か月未満)／麻疹・風疹(MR)1期(1歳～2歳未満)／三種混合・四種混合(3か月～7歳6か月未満)

④ 3歳児健診における肥満児の割合

3歳児の肥満の割合について、市は毎年度県平均より低く、男児では3%前後で推移しています。女児については概ね2~3%台で推移しています。

		男(%)					女(%)				
		太り気味 +15%≤ ~<20%	やや太り過 ぎ+20%≤ ~<30%	太り過ぎ +30%≤	肥満度 計	BMI18.0≤	太り気味 +15%≤ ~<20%	やや太り過 ぎ+20%≤ ~<30%	太り過ぎ +30%≤	肥満度 計	BMI18.0≤
H21年度	沖縄県	2.6	0.8	0.2	3.7	2.9	3.1	1.4	0.2	4.6	3.0
	那覇市	1.9	1.0	0.1	3.0	2.0	2.2	0.6	-	2.7	1.2
H22年度	沖縄県	2.1	1.1	0.2	3.4	2.4	2.7	1.2	0.2	4.2	2.6
	那覇市	1.5	1.0	0.3	2.8	2.1	2.1	0.8	0.1	3.0	1.7
H23年度	沖縄県	2.0	0.8	0.2	3.0	2.2	2.9	1.2	0.1	4.3	2.7
	那覇市	2.2	0.4	0.1	2.7	2.0	2.1	0.7	-	2.8	1.5
H24年度	沖縄県	2.0	0.8	0.2	3.0	2.2	2.9	1.2	0.1	4.3	2.7
	那覇市	2.2	0.4	0.1	2.7	2.0	2.1	0.7	-	2.8	1.5
H25年度	沖縄県	2.4	0.8	0.2	3.4	2.8	2.9	1.0	0.2	4.1	2.3
	那覇市	2.0	0.8	-	2.8	2.2	2.9	0.9	0.1	3.9	2.0

資料：乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)

⑤ 3歳児健診で21時台までに寝る子の割合

3歳児の21時台までに寝る子どもは、H25年度は58.1%となっており、さらに約4割の子どもが22時以降の就寝となっています。

	H16年度	H20年度	H24年度	H25年度
那覇市	32.4	59.0	57.4	58.1
沖縄県	32.7	62.9	56.1	58.0

資料：乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)

⑥ 乳児健診における血色素値 11.0 g/dl 未満の割合

貧血の目安である血色素値 11.0 g/dl 未満の乳児について、那覇市は県に比べ毎年度高率となっており、H25年度は25.3%となっています。H23年度には2割を超え、徐々に増加しています。

	10.0 未満			10.0~10.9		
	沖縄県	那覇市		沖縄県	那覇市	
		率	率		実数	率
H21年度	1.9	2.2	126	13.2	15.9	903
H22年度	2.0	2.1	127	13.1	15.4	944
H23年度	3.0	3.4	202	16.2	22.5	1,338
H24年度	3.0	3.5	211	17.4	22.7	1,353
H25年度	2.8	3.2	202	18.2	22.1	1,399

資料：乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)

⑩子育てについて

子育てに関して不安がある保護者や、身近に相談できる人がいない保護者がみられます。

ア 子育てに不安がある保護者の割合

		H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
乳児健診	那覇市	2.4	1.8	1.9	2.6
	沖縄県	1.9	1.5	1.8	2.0
1歳6か月児健診	那覇市	2.0	1.9	1.9	1.8
	沖縄県	1.6	1.4	1.5	1.7
3歳児健診	那覇市	2.5	2.2	2.2	1.9
	沖縄県	2.1	1.8	1.8	1.8

イ 子育てについて身近に相談できる人がいない保護者の割合

		H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
乳児健診	那覇市	5.8	5.0	5.2	5.2	5.3
	沖縄県	4.3	3.8	3.9	3.7	3.7
1歳6か月児健診	那覇市	4.9	4.3	4.5	4.4	4.3
	沖縄県	3.7	3.5	3.5	3.6	3.3
3歳児健診	那覇市	4.3	3.4	3.4	3.4	3.9
	沖縄県	3.9	3.0	3.1	3.1	3.2

資料：乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)

⑪保護者の喫煙について

妊娠中の母親の喫煙については、H25年度4.6%となっています。また、子育て中の保護者の喫煙について母親は1割弱、父親は4割前後で推移しています。

ア 妊娠中の喫煙状況

妊娠中の 妊婦の喫煙率	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
	7.0%	6.8%	5.3%	4.6%	4.1%	4.6%

イ 母親の喫煙率

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県
乳児健診	7.0	7.1	5.5	6.6	6.1	7.1	5.5	6.6	5.3	6.0	6.0	6.5
1歳6か月児健診	9.2	10.4	7.6	8.2	9.2	8.9	7.6	8.2	7.3	7.9	7.0	7.8
3歳児健診	9.0	9.7	8.3	9.4	9.0	9.7	8.3	9.4	9.4	9.6	7.8	8.9

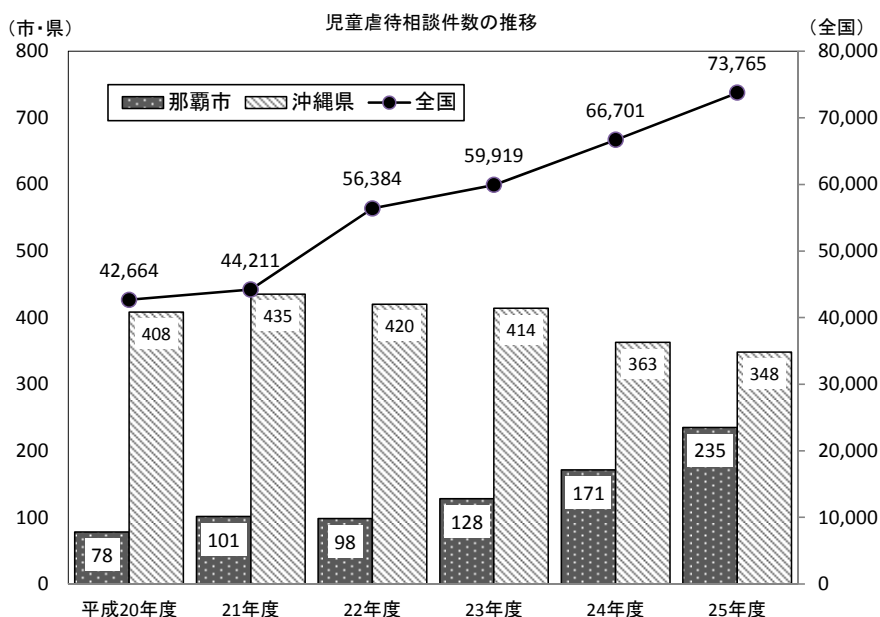
ウ 父親の喫煙率

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県
乳児健診	48.8	51.4	41.5	43.0	41.7	43.6	41.5	43.0	40.7	42.4	41.4	43.4
1歳6か月児健診	40.4	47.7	39.8	41.9	40.4	43.7	39.8	41.9	39.1	42.3	39.8	42.0
3歳児健診	40.0	42.8	38.3	42.2	40.0	42.8	38.3	42.2	38.5	42.5	37.4	40.8

資料：乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)

⑫虐待相談件数に関する統計

H25年度中に、本市子育て支援室が児童虐待相談として対応した件数は235件で、H20年度以降最大の件数となっています。沖縄県は減少傾向にありますが、全国的にも増加しています。



資料：全国、沖縄県のデータについては、厚生労働省発表「児童相談所での児童虐待相談対応件数」（平成25年度の全国・県は速報値、平成22年度の全国の件数は福島県を除く集計）那覇市のデータについては、那覇市子育て支援室

用語と比率の解説

乳児死亡：生後1年未満の死亡

新生児死亡：生後4週（28日）未満の死亡

周産期死亡：妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡（生後1週間（7日）未満の死亡）をあわせたもの

死産：妊娠満12週以後の死児の出産

合計特殊出生率：15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

$$\text{出生率} = \frac{\text{年間出生数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$$

$$\text{合計特殊出生率} = \left\{ \frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{10月1日現在年齢別女子人口}} \right\} \text{15歳から49歳までの合計}$$

$$\text{低体重児出生率} = \frac{\text{年間2,500g未満出生数}}{\text{年間出生数（体重不詳を除く）}} \times 100$$

$$\text{乳児死亡率} = \frac{\text{年間乳児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

$$\text{新生児死亡率} = \frac{\text{年間新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

$$\text{妊産婦死亡率} = \frac{\text{年間妊産婦死亡数}}{\text{年間出産数（出生数+死産数）（又は年間出生数）}} \times 100,000$$

$$\text{死産率} = \frac{\text{年間死産数（自然+人工）}}{\text{年間出産数（出生数+死産数）}} \times 1,000$$

$$\text{周産期死亡率} = \frac{\text{年間周産期死亡数}}{\text{年間出生数+妊娠満22週以後の死産数}} \times 1,000$$

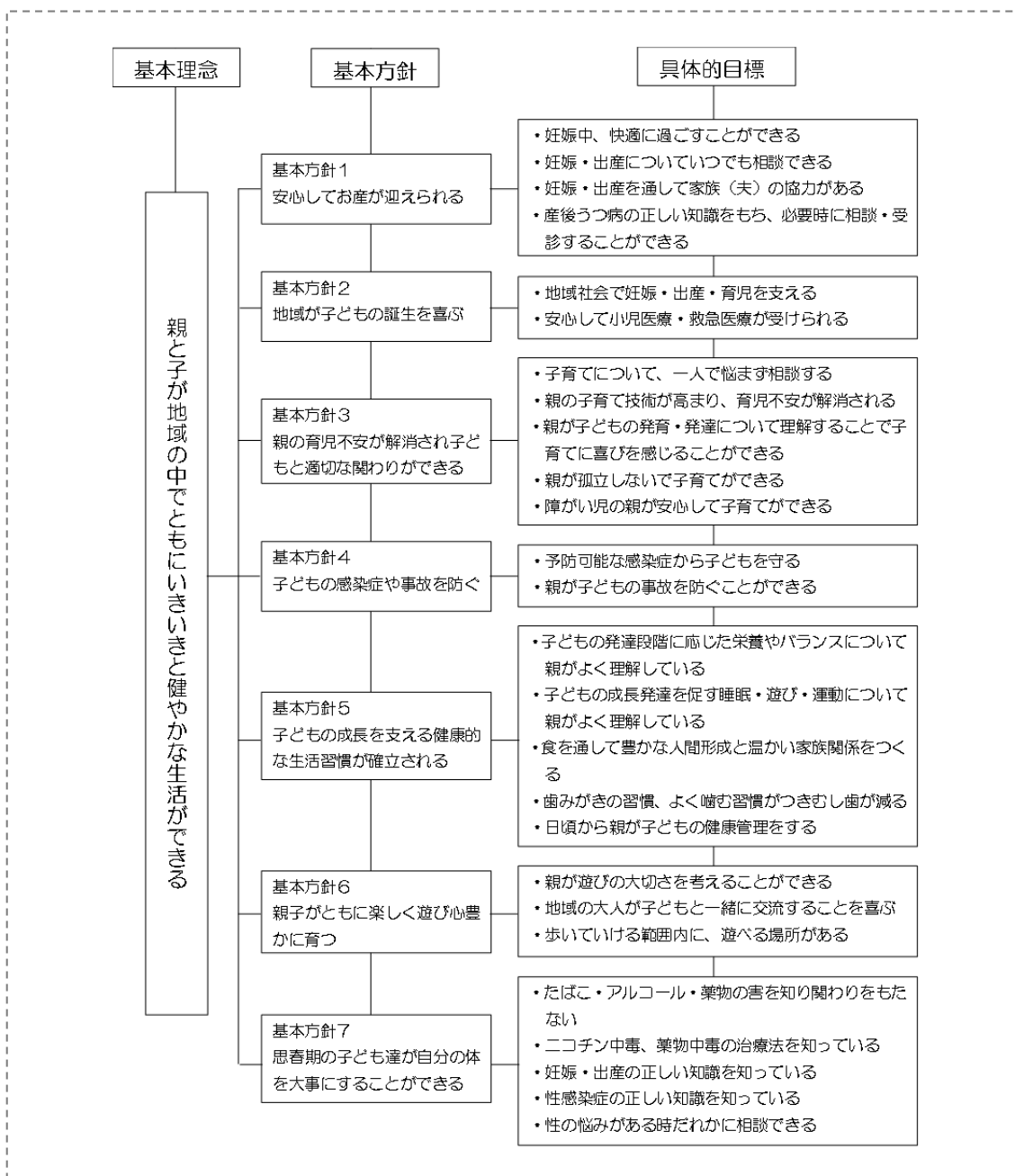
資料：沖縄県の母子保健

2. 「健やか親子なは」の総合評価と残された課題

(1) 評価の目的

「健やか親子なは」の最終評価は、H16年度に策定し、H21年度に中間評価を行った目標や指標についての達成状況や取り組みの進捗等を把握、評価するとともに、少子高齢化や晩婚化の進行、医療技術の進歩、母子保健事業等の実施現場の現状から把握した新たな課題を明らかにし、次期計画に反映させることを目的とします。

(参考) 「健やか親子なは」 体系図



(2) 評価の方法

最終評価にあたっては、指標の数値目標について、各種調査等から得られた直近のデータと策定時のデータを比較し、以下のいずれかに該当するかどうかについて総合評価を行いました。

A：目標達成（達成）	B：改善した（改善）	C：変わらない（変化なし）
D：悪くなっている（悪化）	E：評価できない（評価不可）	

しかし、そのままでは評価できない指標もあったため、考え方を整理し評価を行ったほか、必要に応じて指標名や過去の数値等について見直しを行いました。

また、策定時には設定指標が49ありましたが、その後中間評価、H24年度評価、協議会での追加・変更等を経て、最終評価時には48指標となっています。

表一 指標数の推移

	基本方針1	基本方針2	基本方針3	基本方針4	基本方針5	基本方針6	基本方針7	項目別合計
策定時	7	1	6	13	15	2	5	49
追加(代替指標)	3	4	1	3	3	3	2	19
削除	4	1	3	4	5	2	1	20
計	6	4	4	12	13	3	6	48

(3) 結果の概要

最終評価では48指標について、計画策定時や中間評価等、活用可能な値と最終評価の値を比較し、総合評価を行いました。その結果、改善した項目は29項目（目標を達成した：10項目、20.8%、目標を達成していないが改善した19項目：39.6%）で全体の60.4%を占めています。

また、変わらない項目は5項目（10.4%）、悪くなっている項目は1項目（2.1%）、評価できないが13項目（27.1%）となっています。

表一 最終評価における具体的目標別の達成状況

		基本方針1	基本方針2	基本方針3	基本方針4	基本方針5	基本方針6	基本方針7	項目別合計
改善した	目標を達成した	2		1	1	1	2	3	10 20.8%
	目標を達成していないが改善した	3	3		1	9	1	2	19 39.6%
変わらない		1		3		1			5 10.4%
悪くなっている								1	1 2.1%
比較困難	評価できない		1		10	2			13 27.1%
計		6	4	4	12	13	3	6	48

また、活動主体別でみると「改善した（達成した＋達成していないが改善した）」項目は、『保健水準の指標』で8項目中4項目、『住民自らの行動指標』では、31項目中18項目、『行政・関係団体等の取組みの指標』では9項目中すべての項目が「改善した」となっています。保健水準の指標で、悪化した項目も1項目みられます。

表一最終評価における活動主体別の達成状況

		保健水準の指標 8項目	住民自らの行動の 指標 31項目	行政・関係団体等の 取組みの指標 9項目	項目別合計 48項目
改善 した	目標を達成した	0	4	6	10
	目標を達成していないが改善した	4	14	3	21
変わらない		3	2	0	5
悪くなっている		1	0	0	1
比較 困難	評価できない	0	11	0	11
計		8	31	9	48

目標指標の達成状況

<基本方針1：安心してお産が迎えられる>

目標指標	策定時 H16	現状 H25	最終 目標	達成 状況
①代替指標：「妊娠中や出産・育児について相談、協力できる人がいる」と答えた妊婦の割合	98.1% ※H23年度	99.4%	増加	達成
②「妊娠中は定期的に妊婦健診を受けていた」と答えた妊婦の割合	93.4%	94.6% ※H26年度	99%	変化なし
③妊娠中の妊婦の喫煙率	12.4%	4.6%	0%	改善
④妊娠中の妊婦の夫の喫煙率	56.3%	41.3%	28%	改善
⑤追加指標A：11週以内の妊娠届出率	74.7%	88.1%	90%	改善
⑥追加指標B：妊婦健診受診率	73.8% (10.3回) ※H21年度	82.0% (11.5回)	増加	達成

<基本方針2：地域が子どもの誕生を喜ぶ>

目標指標	策定時 H16	現状 H25	最終 目標	達成 状況	
①「近所の人といつもあいさつを交わす」と答えた人の割合	38.4%	未調査	増加	評価不可	
②追加指標A：「かかりつけ医を持っている」と答えた人の割合	乳児健診	80.0%	89.4%	100%	改善
	1歳6か月健診	93.7%	96.7%		
	3歳児健診	93.1% ※H20年度	95.4%		
③追加指標B：「子育て支援センターの数及び利用人数」	数：5 利用人数： 36,150 ※H20年度	数：7 利用人数： 52,135	増加	改善	
④追加指標C：「つどいの広場の数及び利用人数」	数：7 利用人数： 25,290 ※H20年度	数：10 利用人数： 26,970	増加	改善	

<基本方針 3：親の育児不安が解消され子どもと適切な関わりができる>

目標指標	策定時 H16	現状 H25	最終 目標	達成 状況
①乳児健診で「身近に相談できる人がいる」と答えた人の割合	94.0%	94.6%	97%（付帯 条件として受 診率を下げな い）	変化なし
②1歳6か月児健診で「身近に相談できる人がいる」と答えた人の割合	94.5%	95.4%		変化なし
③3歳児健診で「身近に相談できる人がいる」と答えた人の割合	95.8%	95.9%		変化なし
④追加指標 A：障がい児が利用できる施設数 （児童デイサービス事業所数）	15	142	増加	達成

<基本方針 4：子どもの感染症や事故を防ぐ>

目標指標	策定時 H16	現状 H25	最終 目標	達成 状況
①、②代替指標：麻疹・風疹（MR）の予防接種率	86.4%	96.1%	95%以上	達成
③BCGの予防接種率（1歳6か月児健診）	96.4%	※83.1% 接種方法変更	95%以上	評価不可
④代替指標：DPTの予防接種率 1期の3回接種済 （1歳6か月児健診）	65.7%	※27.4% 接種方法変更	95%以上	評価不可
⑤ポリオ予防接種率2回接種済（3歳児健診） （※H24.9～不活化ポリオ開始。H24.11～4種混合開始） 単純比較出来ないため評価出来ず	95.8%	※70.8% 不活化ポリオ 1期3回 接種済み →4.8%	95%以上	評価不可
⑥子どもの事故防止として、「遊んでいる時の安全確認をしている」と答えた人の割合	84.2%	※94.2% 参考値	90%以上	評価不可
⑦子どもの事故防止として、「熱いものは手の届かない所へ置いている」と答えた人の割合	82.9%	※93.2% 参考値	90%以上	評価不可
⑧子どもの事故防止として、「葉等、ハサミは手の届かない所へ置いている」と答えた人の割合	65.3%	※79.7% 参考値	90%以上	評価不可
⑨子どもの事故防止として「階段・段差で落ちないように配慮している」と答えた割合	46.8%	※36.1% 参考値	50%以上	評価不可
⑩子どもの事故防止として、「浴槽の水を貯めない」と答えた人の割合	43.0%	未調査	50%以上	評価不可
⑪子どもの事故防止として「浴室のドアをきちんとしめる」と答えた人の割合	24.6%	※33.1% 参考値	50%以上	評価不可
⑫子どもの事故防止として、「自動車の中にひとりしめない」と答えた人割合	67.7%	※92.2% 参考値	100%	評価不可
⑬「車に乗る時はチャイルドシートを使用している」と答えた人の割合	乳児健診	93.1%	100%	改善
	1歳6か月健診	90.9%		
	3歳児健診	67.1%		

<基本方針 5：子どもの成長を支える健康的な生活習慣が確立される>

目標指標	策定時 H16	現状 H25	最終 目標	達成 状況
①代替指標：1歳6か月児健診で「朝食は毎日食べている」と答えた人の割合	統計なし	1歳6か月健診 ⇒96.8% 3歳児健診 ⇒95.6%	(増加)	変化なし
②1歳6か月児健診で「三食きちんと食べさせることに気をつけている」と答えた人の割合	59.8%	未調査	増加	評価不可
③3歳児健診で「三食きちんと食べさせることに気をつけている」と答えた人の割合	72.6%	未調査	増加	評価不可
④代替指標：1歳6か月児健診で「食事やおやつ時間は決まっている」と答えた人の割合	統計なし	84.8%	(増加)	改善
⑤代替指標：3歳児健診で「食事やおやつ時間は決まっている」と答えた人の割合	統計なし	84.8%	(増加)	改善
⑥父親の喫煙率	乳児健診	56.2%	減少	改善
	1歳6か月健診	52.9%		
	3歳児健診	52.6%		

目標指標		策定時 H16	現状 H25	最終 目標	達成 状況
⑦母親の喫煙率	乳児健診	11.4%	6.6%	減少	改善
	1歳6か月健診	12.4%	7.0%		
	3歳児健診	12.0%	7.8%		
⑧乳児健診の受診率		82.1%	90.1%	88.5% (H20年度 県平均)	達成
⑨1歳6か月児健診の受診率		76.4%	83.8%	87.9% (H20年度 県平均値)	改善
⑩3歳児健診の受診率		69.4%	79.5%	79.8% (H20年度 県平均値)	改善
⑪1歳6か月児健診でむし歯になっている子の割合（う歯有病者率）		6.5%	2.5%	減少	改善
⑫3歳児健診でむし歯になっている子の割合（う歯有病者率）		37.7%	29.0%	20.0%	改善
⑬3歳児健診で21時台までに寝る子の割合		29.4%	58.1%	60.0%	改善

<基本方針6：親子がともに楽しく遊び心豊かに育つ>

目標指標	策定時 H16	現状 H25	最終 目標	達成 状況
①追加指標A：ブックスタートの実施率	統計なし	87.1%	増加	達成
②追加指標B：子育て支援センターの数及び利用人数	統計なし	数：7 利用人数： 52,135	増加	達成
③追加指標C：つどいの広場の数及び利用人数	統計なし	数：8 利用人数： 2,6970	増加	改善

<基本方針7：思春期の子ども達が自分の体を大事にすることができる>

目標指標	策定時 H16	現状 H25	最終 目標	達成 状況
①中高生の喫煙経験率	12.9%	6.4%	0%	改善
②「酒を飲んだことがある」と答えた中高生の割合	37.9%	20.5%	0%	改善
③「避妊方法を知っている」と答えた中高生の割合	46.6%	56.0%	増加	達成
④「性感染症（STD）について学習したことがある」と答えた中高生の割合	59.5%	84.8%	増加	達成
追加指標A：思春期教室（性に関する授業）の開催回数	統計なし	小学校4 中学校14 その他1	増加	達成
追加指標B：10代の人工妊娠中絶率（15～49歳女子人口千対）	全国10.5 沖縄7.2	全国6.6 沖縄7.6	6.5 (全国目標)	悪化

(4) 基本方針ごとの総合評価と課題

基本方針1：安心してお産が迎えられる

1) 総合評価

①妊娠・出産・育児についての相談体制

- ・妊娠・出産・育児についての相談体制は、指標①「妊娠中や出産・育児について相談・協力できる人がいる」と回答している妊婦の割合が、H25年度には99.4%に達し、高い値であることから充実してきていると考えられる。その背景として、H17年度より実施している親子健康手帳交付時における保健師等による面接相談・保健指導の導入や、H21年度より実施している妊産婦栄養相談、産婦人科等医療機関における、マタニティー教室や助産師外来等の取り組みが行われたことがあげられる。また、子育て支援センター等では、妊婦を対象に育児イメージを持ってもらえるようプレママとしての受け入れも進んでおり、各機関が連携を意識した取り組みを推進している。

②妊婦の健康管理

- ・妊婦の健康管理に関しては、指標②「妊娠中の妊婦の喫煙率」、指標③「妊娠中の妊婦の夫の喫煙率」、指標④「11週以内の妊娠届出率」が、経年的に改善してきているものの、目標値に達していない状況にあるため、母体や胎児の健康管理、低出生体重児の予防の点では、引き続き取り組みが必要である。特に、10代妊婦の喫煙率が高いことや、低出生体重児の割合が、全国平均より高い（H25年：全国9.58%、沖縄県11.4%、本市10.0%）ことから、妊婦の健康管理については、妊婦健診の結果や、H25年度に市町村移譲業務となった「低出生体重児の届出」の分析と、妊婦食習慣調査（H25年度）や妊婦歯科健診（H26年度）等の関連した対策を継続しながら、取り組みを工夫する必要がある。
- ・指標⑤「妊婦健診受診率」は、H25年度82%（11.5回）で、公費負担の回数が14回になったH21年度から経年的にみても増加している。妊婦の受診に関する経済的負担の軽減は図られてきているが、妊娠届出を妊娠20週以降に出される方が、届出者の約2%いることから、十分な健康管理がされるための早期の妊娠届出に対する周知は、今後も必要である。

③産後の体調やメンタル面の管理

- ・産後うつ病の早期発見と予防について、指標は設定していないものの、親子健康手帳交付時には、マタニティブルーや産後うつ病の周知や、医療機関の支援依頼等で個別の産婦支援を実施している。実際の産後うつ病のり患状況等の把握がされていないため、今後の検討が必要である。メンタル面の健康管理では、精神科等との連携のもと、支援の工夫が必要である。

2) 残された課題

① 出産・育児についての相談体制

- ・「妊娠・出産・育児について相談・協力できる方がいない妊婦」が少なからずいることに関しては、特に初産婦、転入者等個々の状況に対応できるように、保健指導や支援を工夫する必要がある。
- ・また、妊娠届出が12週以降、特に20週以降の妊婦の中で、「産むか迷った」等望まない妊娠に関しては、産後の育児に向けても、こども部門との連携（特定妊婦）を行いながら、切れ目のない支援体制を組む必要がある。
- ・妊娠中や育児での協力（者）に関しては、核家族化に伴い、社会資源の活用も増えてきているため、社会資源の活用に関する周知を工夫する必要がある。
- ・女性が自身のライフステージにあわせて、妊娠について相談できる場、知識を得る機会等が、十分周知されていない。また、本市の女性の健康づくり事業もH25年度より実施したところであり、さらに充実させる必要がある。

課題ポイント：20週以降の妊娠届出者への相談を充実。

望まない妊娠、経済面等個々の環境に応じた、育児への切れ目のない支援

② 妊婦の喫煙、その夫の喫煙

- ・平成25年度妊婦の喫煙率が4.6%、その夫の喫煙率が41.3%となっており、各目標値に至らないことを踏まえ、今後の課題として取り組む必要がある。
- ・妊娠中は、母体や胎児への影響を考え、妊娠を機に喫煙をやめた方が約12%いることから、個人に応じた妊娠中に活用できる禁煙外来等の情報提供や、産後も引き続き禁煙できるよう保健指導が十分に行われる必要がある。
- ・10代妊婦の喫煙率をみると、年齢ごとにばらつきがみられるが、H25年度の10代妊婦の喫煙率は8.2%となっており、全妊婦の喫煙率4.6%の約2倍となっていることから、思春期保健や健康づくり事業等との対策と連携して取り組みを行う必要がある。
- ・夫の喫煙に関しては、直接的に助言・保健指導できる機会が少ないため、健康づくり事業の壮年期対策との連携を意識して取り組む必要がある。

課題ポイント：妊娠中の喫煙対策、妊娠中に禁煙できてもその後の喫煙に移行しない指導

10代妊婦の喫煙率、思春期保健対策との連携

妊婦の夫、家族の喫煙率、健康づくり事業との連携

③ 妊婦の健康管理

- ・「11週以内の妊娠届出」について、H25年度は88.1%と経年的に増加傾向であるが、20週以降の妊娠届出者が約2%おり、その理由の分析を行い、相談体制や周知をさらに工夫する必要がある。
- ・妊婦健診受診率に関しては、H25年現在82.0%（11.5回）であり、増加傾向にあるものの、その健診結果に基づく妊婦への保健指導は、医療機関に任せている現状である。妊娠性高血圧症候群

や妊娠糖尿病が、母体へ影響するだけでなく、早産や低出生体重児等の要因となることから、健診結果の分析を行い、医療機関と連携して予防対策を検討する必要がある。

- 低出生体重児は、H25年の国9.58%に対し、本市10.0%と、経年的にも10%~11%で推移し、改善が見られないことに関しては、40歳以上の高齢出産の割合が多くなってきているなどがその要因の1つと考えられる。今後、予防対策を検討する基礎資料として、H25年度より市町村業務として移譲された「低出生体重児の届出」や「未熟児養育医療」の分析、H25年度に実施した妊婦の食生活調査の結果についても分析を行う必要がある。加えて、H26年度実施の妊婦歯科健診による口腔ケアは、低出生体重児の予防対策の一つであるため、それらの事業も並行して取り組んでいく必要がある。

課題ポイント：妊婦健診受診状況把握、健診結果などからのフォローの充実

④産後の健康管理

- マタニティブルーや産後うつ病に関しては、り患状況の把握を行い、産婦人科や精神科・心療内科との連携がスムーズにされるような対策が必要である。
- 産後うつ病の他に、産後にメンタル面に課題のある産婦に関しても、心療内科等との連携、育児面では、社会資源の活用が拡大される取り組みが必要である。

課題ポイント：マタニティブルーや産後うつ病等の把握不足と対策不足、関係機関との連携不足

基本方針2：地域が子どもの誕生を喜ぶ

1) 総合評価

- 具体的目標の一つである、「地域社会で妊娠・出産・育児を支える」ために、親子が生活の拠点である地域に関心やつながりが持て、必要な社会資源が活用できるような働きかけや様々な取り組みがされてきた。
- 指標として設定した「近所の人といつもあいさつを交わすと答えた人の割合」は、調査の質問方法が異なることから評価できないが、H26年度の調査結果をみると、「お互い助け合える関係」11.3%、「あいさつを交わす程度」74.5%と、交流の程度は異なるものの、約8割の人が地域の人と何らかの繋がりを持っていることがわかった。しかし、「お互い助け合える関係」を築いていると回答した保護者は、1割程度となっている。
- 一方、「安心して小児医療・救急医療が受けられる」ことに対する指標とした、乳幼児健診時に「かかりつけ医を持っていると答えた人の割合」は、中間評価時からの比較をみると、乳児、1歳6カ月児、3歳児と、どの健診時点でも増加しており改善していると評価できる。
- 母子保健推進員が、乳幼児健診や母子保健事業等にも関わっており、地域で様々な取り組みを展開しているが、人材の確保が課題となっている。
- 那覇市立病院が「24時間365日子どもの事故・疾病の治療ができる小児救急医療体制の充実」に取り組んでいることで、子育て中の親が安心して小児医療・救急医療に繋がっていると思われる。

2) 残された課題

- 地域の中で、妊産婦や乳幼児の保護者が孤立せず、隣近所で声をかけあう環境づくりや必要な時に対応ができるよう、かかりつけ医を含めた見守り体制等の検討が今後必要である。
- 地域に根差した取り組みを行う母子保健推進員等の確保とさらなる質の向上のための取り組みの充実が引き続き求められる。

基本方針3：親の育児不安が解消され子どもと適切な関わりが出来る

1) 総合評価

- 育児に対する相談としては、乳幼児健診会場や保健師等による電話・来所相談や訪問相談等を実施している。
- 地域では、子育て支援センターや児童館、つどいの広場等も親子が利用し、相談できる場となっており、保育園や幼稚園においても子育て家庭へ、園庭を開放し交流や育児相談等の充実を図りながら対応をしている。また、障がい児に対しては、療育センター等で専門家による相談を実施している。
- このような中、乳幼児健診時の回答では、身近に相談できる人がいると答えた人の割合が95%前後となっており、大部分の方は、相談できる人がいることがうかがえた。反面、相談できない人がおよそ5%前後いることから、引き続き、子育て中の親と子どもが地域の中で孤立しないための、支援の検討が必要である。
- 妊娠中・産後の育児不安に対する支援に関しては、関係機関や医療機関等より、ハイリスク支援依頼を通して、把握するシステムができているが、都市化、核家族化の進行に伴い今後も増加する事が予想されることから、関係機関等との連携の強化が求められる。

2) 残された課題

- 母子保健事業は妊娠期や乳幼児期まで展開しており、不安を抱える親とその子どもを速やかに把握し、どのような育児不安があるのか、またその中で発達障がい等をはじめとする育てにくさを感じる親へ早期支援等の検討を行う必要がある。
- 育児不安等をもつ親を孤立させないような地域の見守り体制や虐待の防止、早期発見、関係課と連携した支援体制等の検討が必要である。
- 障がい児等に対しては、H25年度より、中核市として慢性疾患をもつ子どもへの支援も開始した事により、保育園や幼稚園等、関係各課が連携して切れ目のない支援が受けられる体制づくりが必要である。

基本方針4：子どもの感染症や事故を防ぐ

1) 総合評価

①予防接種について

- ・予防接種率は一部について増加している。種類ごとにみると、
 - ◇麻疹・風疹（MR）の予防接種率（1歳児）は、策定時（86.4%）、H25年度（96.1%）と目標を達成している。
 - ◇結核（BCG）の予防接種率は、策定時（96.4%）、H25年度（83.1%）と低くなっているが、接種方法等の変更があり評価できない。
 - ◇ジフテリア・百日せき・破傷風（DPT）の予防接種率は、策定時（65.7%）、H25年度（27.4%）と大きく低下しているが、接種方法等の変更があり評価できない。
 - ◇小児まひ（ポリオ）予防接種率は、策定時（95.8%）、H25年度（75.8%）となっている。H24.11月より、不活化ポリオワクチン及び、4種混合ワクチンに移行したため比較ができない。
- ・麻疹・風疹の予防接種が改善された理由として、関係機関の普及啓発の成果や、集団接種から個別接種へ移行し受けやすい環境ができたことや、予防接種への関心が高まったことがあげられる。特に麻疹・風疹（MR）に関しては、H13年より「麻疹ゼロプロジェクト」として全県あげて取り組んだことが改善の大きな要因と考えられる。

②事故予防について

- ・子どもの事故予防の意識啓発の取り組みが必要。
 - 具体的な目標「親が子どもの事故を防ぐことができる」に対し、現時点で評価できる指標は、「指標⑤：車に乗る時はチャイルドシートを使用していると答えた人の割合（乳児健診、1歳6カ月児健診、3歳児健診）＜目標：100%＞」となっている。
- ・策定時は、乳児健診 93.1%、1歳6カ月健診 90.9%、3歳児健診 67.1%となっており、H25年度の集計をみると、乳児健診 96.6%、1歳6カ月健診 95.7%、3歳児健診 85.2%と、どの健診においても改善している。
- ・改善の理由として、保健師等による訪問時、保健所窓口での相談時、乳幼児健診時等による普及啓発や関係機関の普及啓発の成果等があげられる。
- ・その他の要因としては、「那覇市健やか親子なは」後期の重点課題の1つとして「子どもの事故予防」について取り上げて取り組んだことがあげられる。

2) 残された課題

①予防接種について

- ・集団として流行阻止効果が期待できる接種率95%以上を目指して引き続き啓発、対策を検討する必要がある。
- ・「日本脳炎」、「Hib」「肺炎球菌」「水痘」「流行性耳下腺炎」「B肝」「ロタ」について、定期接種に関しては、指標として追加し、接種勧奨に取り組む必要がある。

②事故予防について

- チャイルドシートの正しい使用の徹底を図るとともに、H26 年度に実施した乳幼児健診アンケート調査から、予防対策の配慮がされていない項目（うつぶせ寝をさせない／浴室のドアの工夫／階段・段差への対応）がみられることから、引き続き、健診会場等での保護者に対する効果的な啓発活動の推進が求められる。
- 事故予防の指標項目の検討が必要である。
- 本市の乳幼児の不慮の事故による死亡数は、策定時（H17年）1件、H18年3件、H19年0件、H20年0件、H23年0件と、近年、不慮による死亡事故が発生していないことから、引き続き、事故を未然に防ぐ対策の周知が求められる。
今後も「健やか親子パンフレット」等を用い、事故予防に必要な対策の確認や普及啓発の継続が必要である。

基本方針5：子どもの成長発達を支える健康的な生活習慣が確立される

1) 総合評価

- 乳幼児健診の受診状況は、各種健診ともに受診率は増加しており、これまでのハガキ再通知や未受診者訪問、保育施設との連携、健診会場での待ち時間の解消などの取り組みが大きく影響したといえる。しかし、年齢を重ねる毎に受診率の低下がみられ、また全国や沖縄県の受診率には届いていない状況である。今後も保護者や保育施設等への周知徹底、未受診者分析を含めた対策が必要である。
- う歯有病率は、1歳6か月児健診、3歳児健診ともに減少しており改善を認める。1歳6か月児健診、3歳児健診でのフッ素塗布導入、2歳児歯科健診、乳児後期健診で歯科衛生士を配置するなど、早い時期から保護者の意識付けを行っている。また、健診会場では、栄養士による栄養相談や、歯科医院への紹介状発行などを行い、保護者への普及啓発を積極的に行っている。関係機関においては、歯科医師会主催によるデンタルフェアの実施（市民への普及啓発）や、各歯科医院での健診紹介状発行者への対応、歯科かかりつけ医、親子健康手帳の活用促進などの取り組みがあげられる。しかし、3歳児う歯有病率は全国平均と比較すると29.0%と依然高く、歯科のかかりつけ医を推奨するためにも継続した歯科保健の取り組み強化が求められる。参考指標として「歯科かかりつけ医」「仕上げみがき」の実施率などと併せた評価が必要である。また、沖縄県の市町村乳幼児健康診査縦断データ分析（小児保健協会）によると、むし歯のり患率と「毎日仕上げみがきをする」「性別」「出生順位」「おやつ時間の規則性」などが関連することがわかってきており、それらの要因に的を絞った取り組みの展開が必要である。
- 乳幼児の食に関しては、朝食の摂取や食事摂取の規則性について、8、9割の保護者が行動できており、各種健診や保健事業での知識の普及啓発、さらには各保育施設や子育て支援センター等で行われている講話や研修会の取り組みが大きく影響したといえる。また、指標にはあがっていないが、

乳児の貧血が増加している傾向にあるため、今後も知識の普及啓発の取り組みの更なる充実が求められる。

- 生活習慣（睡眠）については「3歳児健診で21時台までに寝る子の割合」は、計画策定時30%以下だった数値が、現在は58.1%となり改善がみられているが、依然として3歳児の就寝時間22時以降の割合が約4割となっており、首都圏における同指標の割合28.7%と比較すると那覇市は約1.5倍の高さである。また、外食産業（居酒屋や24時間ファーストフード等）が多い沖縄県は、夜遅くまで飲食店等で親子づれ等の姿も見られる等の夜型社会であるため、保護者の意識改革、改善が必要である。正しい生活習慣の知識、それらが発育・発達に及ぼす影響等について保護者へ情報発信の強化が求められる。
- 保護者の喫煙については、母親、父親ともに経年で減少している。これは、H15年のタバコ増税やH20年たスポカードの導入といった社会環境の変化の影響も大きいと示唆される。しかし、受動喫煙によるタバコの害は、SIDS、低出生体重児、呼吸器疾患、中耳炎、むし歯等が示唆されており、分煙を行ってもその後の呼気中や髪、衣服などに有害物質が付着しているという報告もあることから、完全な禁煙を勧めていく必要がある。

2) 残された課題

- 健診受診率の向上に向けた取り組み、及び未受診者の実態把握が必要である。
- 歯科保健の充実、健診会場での情報発信（むし歯り患と関係する生活習慣、要因等）が求められる。
- 正しい生活習慣（食生活・栄養・生活リズム）についての知識の普及啓発が必要である。
- タバコの害・受動喫煙について保護者への普及啓発が必要である。

基本方針6：親子がともに楽しく遊び心豊かに育つ

1) 総合評価

- 関係機関、各課において取り組みの評価は「十分できた」「ほぼできた」となり、総合的に各目的は達成できたと考える。
- 子育て支援センターやつどいの広場で育児サークル支援、交流保育、子育て相談などを実施し、親子で遊べる場の提供や子育て中の親子が気軽に集い交流できる場が提供されている。
- また前期乳児健診で実施しているブックスタート事業は、99.7%の方が「ブックスタートを受けて良かった」と回答し、絵本の読み聞かせのきっかけとなり、親子の触れ合いや関わりに繋がっている。
- 地域保健課に置いては健診会場、各種相談、ケース支援など、各保健師が個別対応時に発達過程に応じた遊びの大切さを啓発しているが、まだ発育発達カレンダーの活用の見直しは必要である。

2) 残された課題

- ブックスタート事業を受けた方が、日常的に絵本の読み聞かせを行っているか把握することも、評価に繋がると考えるが、現時点では実態を把握する機会はなく、評価にいたっていない。
- 乳児健診会場に来られない未熟児、障がいのある児など、ブックスタート事業を受けられなかった未受診者への対応も必要である。
- 子育て支援センターの立地には地域に偏りがあるため、主幹課の動向を確認しながら、保健分野から支援センターの紹介や繋がりをどのように行うか検討する必要がある。
- 近年、子どもとの触れあい方、あやし方がわからない、子どもとの関係が希薄な保護者もみられ、そのような保護者に対し、親子の触れ合いの大切さや遊び方などの情報提供が必要である。

基本方針7：思春期の子ども達が自分の体を大事にすることができる

(1) 総合評価

- 現在、学校現場で、小中高校生の保健体育や特別活動の授業等において、タバコの害や受動喫煙の害について、薬物乱用防止教育を行っている（中学校においては県警の協力あり）。関係課においても小中学生や専門学校生に対して行う、タバコ講演会や思春期教室の開催回数が、年々増加傾向にあり、子どもたちがタバコやアルコール、薬物に関する学習をする機会は増えている。
- 喫煙に関しては、H20年からは、タバコの自動販売機にICカード方式成人識別装置（タスポ）が導入されたことで規制が強化され、店舗販売でも対面による販売が徹底されてきており、未成年者が容易に購入できないよう環境が整備された。また保護者、地域、行政等で夜間パトロール等を定期的実施するなど、未成年者の深夜徘徊や非行予防対策を強化した成果から、中高生の喫煙経験率・飲酒経験率が策定当初より減少がみられていることが示唆される。今後も関係機関の連携のもと、パトロールの実施や声かけを行うなど、子どもたちへ対する地域の見守り体制が必要である。
- 性に関する授業も、各分野で多く実施されており、子どもたちが性に関することを学ぶ機会は増え、学校現場での性に関する授業の需要も高まっている。しかし、性に関する情報が氾らんする中、アンケート結果からは、避妊方法を知っている中高生の割合が46.6%→60.5%→56%と中間評価時からは減少している。沖縄県における10代人工妊娠中絶実施率は、H23年以降全国値を上回り、10代の出産割合をみても全国より高い数値が続いており、沖縄県は10代の妊娠が多いことがわかる。
- 性感染症について学習したことがあると答えた中高生の割合は59.5%→70.0%→84.8%と増加しているが、10代の妊娠が多い現状をみると性感染症のり患の可能性も高く、性感染症の正しい知識を知っているとは評価し難い。
各課や各関係機関において、性に関する授業が増えており、子どもたちに情報発信する機会が増えているにも関わらず、避妊方法を知っている中高生の割合が低下していることや10代の人工妊娠

中絶実施率や出産割合に減少がみられないのは、性に関する情報が子どもたちの理解度と直接結びついていないことが示唆され、関係課や関係機関と連携し性教育の体系や取り組みの検討、相談体制の充実を図る必要がある。

(2) 残された課題

- 喫煙経験率や飲酒経験率、避妊方法・性感染症の知識の有無に関しては、小中高生が対象のため、今後も現状把握には関係課や関係機関、地域と連携し、取り組みを検討する必要がある。
- 地域の見守りの強化のためにも、地域の教育力向上を狙い、また継続して活動を実施できるよう育成者及び指導者の確保と養成が課題となっている。
- 喫煙・飲酒は、非行の始まりとも捉えられる。非行の進行が10代の望まない妊娠に繋がる可能性も考え、非行予防の一連の対策が必要。非行の裏に隠れる心の問題にも焦点をあて、対応策を考えなければならない。(健康なは21と協議予定)
- 10代の人工妊娠中絶実施率や出産割合をみたとき、沖縄県全体の数値のため、那覇市だけの現状がみえづらい。(H25年度から中核市となり那覇市保健所になったため、H25年度からは那覇市だけの数値を出すことができることから、検証を行う必要がある。H25年度的那覇市10代出産件数86件、10代人工妊娠中絶率は9.8)
- 妊娠・中絶に関する相談内容やその対応について、相談先等を体制化する必要がある。
- 望まない妊娠への対策について、産婦人科や関係機関との連携が必要である。中絶手術実施機関や緊急ピル処方機関等の情報公開についても情報を整理する必要がある。

3. 策定作業部会からの現状と課題

母子保健に関わる活動からの意見や課題、提案を求めるために作業部会（3部会）を設置し、現状や課題について出していただいた意見は以下のようになっています。

（1）周産期部会より

①妊娠期の健康管理が必要

- ・有所見のある妊婦への指導・支援体制（妊娠中の高血糖や高血圧、貧血等）
- ・母親となる1人1人の健康管理への意識の向上が必要

②低出生体重児が多くみられる

- ・妊婦、その夫の喫煙がみられる
- ・切迫早産の予防が求められる

③情報提供や支援の不足

- ・妊娠に気づかずそのまま出産にいたってしまう人がいる
- ・身近に相談できる人がいない方や初産の方への支援などが必要

④メンタル面のサポート

- ・メンタル面で健康管理が必要な妊産婦への精神科、産婦人科との連携について（訪問看護を入れるなどの工夫ができないか）
- ・産後うつへの対応が必要（精神科と産婦人科との連携について）

⑤望まない妊娠への対応

- ・望まない妊娠、産むか迷った方への対応が不十分
- ・相談窓口が誰にでもわかるように明らかにする必要がある。
- ・（一人で悩んで週数を重ねて出産をむかえれば様々なリスクがおこりえると考えられる）

⑥虐待防止

- ・妊婦健診や乳幼児健診の未受診者への対策
- ・育てにくいと感じているお子さんなどへの支援
- ・保護者が発達過程が分からず対応している

（2）乳幼児期部会より

①子育てや健康に関する（正しい）情報の提供が必要（情報も氾濫しすぎている）

- ・情報化社会でいろいろな情報にふりまわされている
- ・こどもの年齢に応じた成長や発達過程を理解していない保護者がみられる
- ・市などからのチラシ（情報）が何種類もあり、活用できていない
- ・読み手が何を見ればよいのか分かりづらい

②子育ての不安解消、親への子育て支援

- ・初めての子育てで、対応がわからない親への、子育てスキルを伝えるプログラム等が必要である
- ・夫（お父さん）の子育てや家事などへの積極的な協力が求められる

③交流の場の周知や機会の充実

- ・親同士が集うだけでなく、安心して話し合ったり交流する場が少ない⇒つなぐ人が必要

- ・親子教室の充実（身近で気軽に使える場が必要）
 - ・発達障がい児がいると周りには言いづらいのが親の心境である。他人と関わりにくい状況がある
 - ・多世代交流も必要
- ④発達障がいや障がいの早期発見と、市民、社会全体の発達障がいに対する正しい知識や理解が必要
- ・自閉症スペクトラム障がい、ADHD など、それぞれによって対応がかわってくるため、発達障がいへの理解が求められる
 - ・発達障がいということに気づいていないため、虐待につながることもある
 - ・クラスに数%いるといわれる気になる子について、保育や教育に携わる先生などの研修も増えていると思うが、実際に担任となった場合、適切な対応をとることができるような研修の充実が必要である。
- ⑤関係機関などの子育てのネットワークづくり
- ・子育てのネットワークが出来ておらず、どこに聞いてよいかわからない
 - ・関係機関同士の繋ぎや連携の強化が必要
- ⑥乳幼児健診の受診率向上
- ・受診の大切さを伝える必要がある
 - ・乳幼児健診の「場」の工夫が求められる（受診率UPにつながる）。呼び出す人数を少なくし、待ち時間も少なく、パーツに分けてゆったりと相談できる等などの工夫が必要である
 - ・発達障がいがあると、健診会場に連れて行きにくい。個別での健診の実施など検討が必要である
- ⑦未受診の親子に寄り添う支援
- ・未受診の親子は何らかの問題を抱えていて、孤立している可能性が高いことから、そのような親子に寄りそう支援の充実、未受診者対策の充実が求められる
- ⑨予防接種に関する情報発信
- ・予防接種の大切さ、情報を伝える必要がある
- ⑩事故予防
- ・乳幼児期の事故防止のために、親への教育・勉強会の機会の充実が必要である（乳幼児突然死症候群（SIDS）など危険予防）

（3）学童期・思春期部会より

- ①子どもの生活習慣の改善
- ・朝は朝練（部活）、夜は塾通いで、子どもたちはなかなか心身共に休めていない。そのような現状のまま「早寝・早起き・朝ごはん」をすすめることは厳しい
 - ・夜型社会でテレビを見たり、スマートフォン、携帯電話を使う等、夜遅くまで起きている
 - ・低学年では遅刻したり、朝食の欠食、高学年は非行問題につながる可能性もある
 - ・地域や学校、保護者、警察などによる夜間パトロールは行っている（しかしそのパトロールが終わった後に徘徊をしている子どももいる）
- ②子どもの肥満・痩せの予防、子どもの栄養・食生活
- ・肥満傾向児はまだ多いが、痩身傾向のこどももみられるようになっている
 - ・経済的な面から食事が十分にとれないこどもがいる（子どもの健康格差の広がり）

- 朝食の摂取率は上がっているが、クッキー1枚、菓子パンだけ、スープだけでもこどもは朝食を食べたと答える。食事内容（メニュー・質）は評価されていない
 - 発信したい相手に情報を届けることができない（食育イベント、授業参観日の展示、親子料理教室、講演会）
- ③子どものむし歯対策（歯肉炎になっている子どももみられる）
- 口腔環境や生活習慣（歯みがきをしない、歯みがきの仕方が悪い等）が悪いと治療してもむし歯になる。
 - フッ素塗布だけでなく、歯肉炎等もあるので、定期的に歯科医に見てもらうことが必要
 - 何回も呼びかけをする必要がある
 - 那覇市では乳幼児のフッ素塗布や歯みがき等に取り組んでいる
- ④子どもを取り巻く SNS 関連の課題
- SNS や LINE 等による子どもたち間のトラブル、仲間外れやいじめをはじめ、携帯電話を使用することで睡眠不足になったり、夜更かしのための遅刻、欠席、学校に行かない等の問題がある
 - 携帯電話依存やスマートフォン依存、ネット依存の相談が増えてきている印象がある
 - SNS 等を使用している子どもの親がその現状を知らない
- ⑤未成年の喫煙、飲酒予防の取り組みの強化
- 身近な大人の副流煙が子どもの間接喫煙となる
 - こどもにはタバコの害の周知はしているが、親や大人への啓発は弱い（タスポを譲る大人もいる）
 - タバコをやめたいのにやめられない子がいる。また、禁煙外来へいくにもお金がかかる。パッチを買えない状況もある
 - 高校卒業後新しい環境で喫煙をスタートしている子どももみられる。（断ることが重要）
 - こどもの喫煙、飲酒で以前は男子が多かったが、最近は女子の増加も問題となっている。
- ⑥性に関すること
- 10代の妊娠が多い。相談先として地域の保健所の役割は大きい。（子どもたちの身近な相談ができる場所として）
 - 子ども達の間で間違った避妊方法がたくさん出回っている
 - 性感染症の正確な発生件数は把握できない
 - 性非行の低年齢化が進んでいる
- ⑧精神保健に関する相談を受ける中で、これまでの経過や生活歴などを確認すると、思春期時代の生活に問題があることが多い
- ⑨成長を見守り育む地域づくり、学校・PTAと関係機関との連携
- 地域の組織、自治会、青年会、子ども会などの組織の減少
 - 特定健診を受ける年齢になって健診を受けた場合、有所見率は8割で、若い世代からの取り組みが必要である



4. 課題の集約

(1) 安心、安全な妊娠・出産のための支援充実

- 健やかな妊娠出産期を迎えるために、正しい知識のもと妊娠前から健康管理に取り組むことができるよう、相談や学ぶ場の充実が求められます。
- 飲酒や喫煙が妊婦や胎児に与える影響を理解するため、女性だけでなく、家族などの周囲の市民に対しても正しい知識を普及する必要があります。
- 妊婦期の健康管理のサポートの充実や、妊娠に伴う疾病を早期発見し治療へつなげるため、親子健康手帳の活用促進や健診の受診勧奨を行うとともに、産婦人科等との連携を強化する必要があります。
- 妊婦健診有所見者への支援体制の充実を図る必要があります。
- 産後の健康管理や精神面のケアの充実については関係機関との連携が求められます。
- 不妊に関する相談支援の充実が求められます。

(2) 乳幼児の健やかな発育と子育て中の親に寄り添う支援の充実

- こどもの健やかな発育や、疾病や障がい等の早期発見ができるよう、乳幼児健診の受診勧奨を行う必要があります。
- 規則正しい生活習慣を身につけ、将来にわたり健康づくり活動が行えるよう、親子が健康について学ぶ機会の充実が必要です。
- 安心して子育てが行えるよう、相談窓口の充実や適切な情報提供が求められます。発育や発達等こどもの成長過程を学ぶことのできる場の充実が必要です。
- こどもの感染症や事故を未然に防ぐため、医療機関との連携強化や予防接種の周知を図る必要があります。
- 育てにくさを感じる親に寄り添う支援が求められます。
- 疾病や障がいがあっても健やかに発育ができるよう、関係機関との連携の強化が必要です。
- 乳幼児期からのむし歯予防のため、保護者への予防の方法等についての情報提供やかかりつけ歯科医を持つことの働きかけが必要です。
- 受動喫煙防止のため、受動喫煙が健康へ与える影響など、保護者をはじめ市民へ広く周知する必要があります。

(3) 思春期のころとからだの健康づくり

- 自ら健康管理ができるよう、ころとからだの健康について正しく学ぶ場の充実が求められます。
- いのちの大切さを知り、自分や他者を大切にす意識の醸成が求められます。
- 規則正しい生活習慣を身につけるための、取り組みの充実が必要であり、こどもだけでなく、保護者の意識づくりも必要です。
(栄養、食生活で朝食をしっかりと食べる。口腔ケアなど)
- 飲酒や喫煙の未然防止や禁煙への相談支援の充実が求められます。

(4) 妊娠期からの虐待防止

- 望まない妊娠への相談支援や育児不安の軽減など、妊娠期からの虐待防止に取り組む必要があります。
- 虐待しているのではないかと思う親への支援が必要です。

5. 乳幼児健診（健やか親子なは）アンケート調査結果

（1）調査の目的

「健やか親子なは（那覇市母子保健計画）」は、親と子が地域の中でいきいきと健やかな生活ができることを基本理念として、親子の健康と子育てしやすい環境づくりを進めるものです。そのため、H27年度から、新たに始まる10年計画の策定にあたり、親子の健康等に関する現状を把握し、今後の最適な母子保健サービスを検討する基礎資料として、アンケート調査を実施しました。

（2）調査の実施概要

1) 調査対象者

- ・乳幼児健診を受けている0歳、1歳6か月児、3歳児の保護者（父母）

2) 調査の実施方法

- ・乳幼児健診会場で調査員による直接配布・回収（回収：直接回収以外に会場内に設置した回収箱への投函、返信用封筒による回収）

3) 調査期間

H26年9月9日～11月11日

4) 調査票の配布・回収数など

		配布数	有効回収数 (件)	無効件数 (件)	有効回収率 (%)
全体		1,049	1,031	0	98.3%
年 齢	乳児	347	344	0	99.1%
	1歳6か月児	323	316	0	97.8%
	3歳児	379	371	0	97.9%

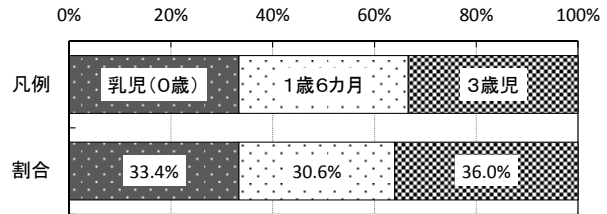
（3）集計にあたって

- ・回答結果の割合について、回答率は小数点第2位以下を四捨五入しているため、単数回答であっても、合計値が100%にならない場合があります。
- ・複数回答の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、割合を出しています。そのため、比率を合計すると100%を超える場合があります。
- ・表や図中で、選択肢の文章が長いものは省略して載せている場合があります。また、「N」は集計の対象者数（設問の限定条件に該当する人の数）を表しています。

(4) アンケート結果

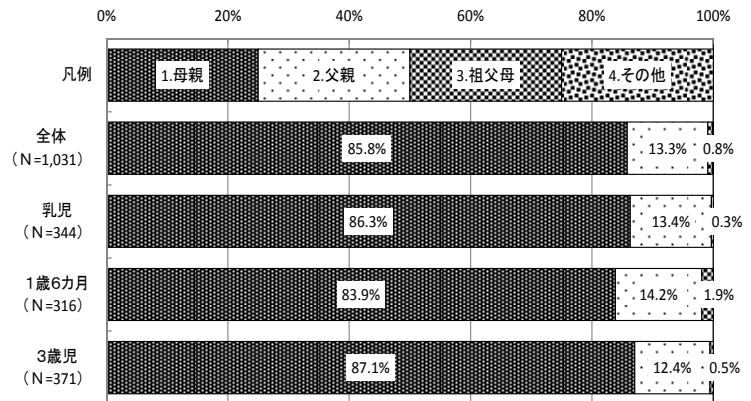
■ 年齢

- 調査票の回収数は 1,031 人で、年齢別内訳をみると、乳児が 344 人 (33.4%)、1 歳 6 か月が 316 人 (30.6%)、3 歳が 371 人 (36.0%)。



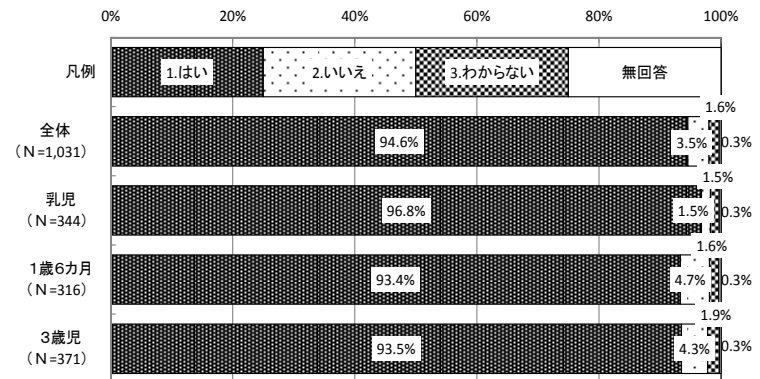
■ 問 1. このアンケート票へ記入される方はどなたですか。

- 調査票への記入は、「母親」が 9 割弱 (85.8%) と最も高く、どの年齢においても 80% 台を占めており、父親は 1 割程度。



■ 問 2. 本日健診のお子さんを妊娠中、定期的に妊婦健診を受けていましたか。(○は 1 つ)

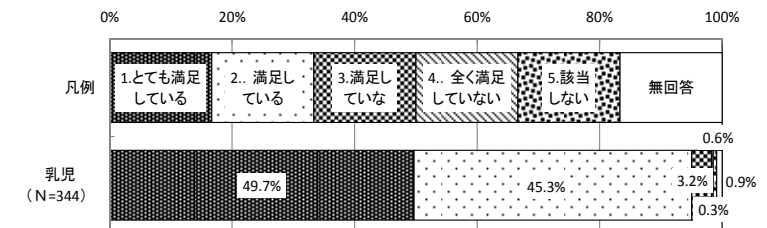
- 妊婦健診を定期的に受けていたとする回答が全体で 94.6%、一方、「いいえ」が 3.5% (36 人)。



■ 【乳児 (0 歳児) のみの質問 (N=344)】

問 3. 健診を受けられているお子さんの妊娠時期、出産を振り返られていかがでしたか。

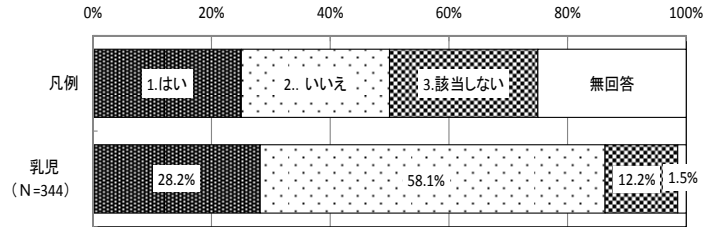
- 95.1% が『満足』であったと感じている。一方、「3. 満足していない」は 3.2% (11 人)、「4. 全く満足していない」が 0.3% (1 人) とわずかに『満足していない』回答がみられました。



■【乳児（0歳児）のみの質問（N=344）】

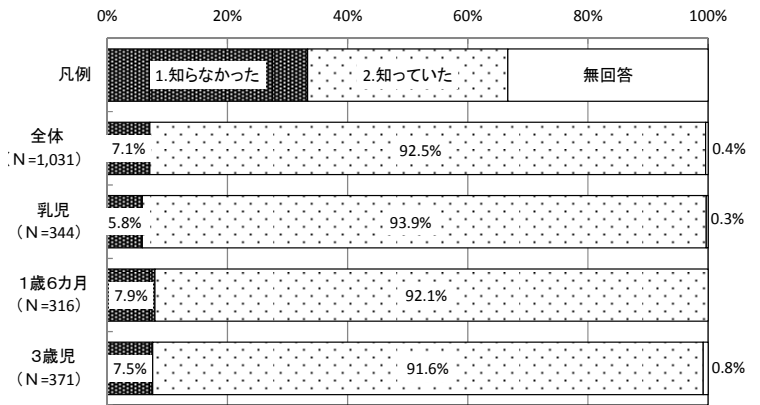
問4. お母さんは今までに産後2週間以上にわたり下記のような思いをしたことがありますか。（○は1つ）（何もやる気がしない・気分が落ち込む・食欲がない・頭痛・眠れない・だめな親だと思うなど）

- 「2. いいえ」と回答している割合は6割弱（58.1%）。
- 一方で、「1. はい」が3割弱（28.2%）を占め、そのような思いをしたことがある保護者は少なくないことがうかがえます。



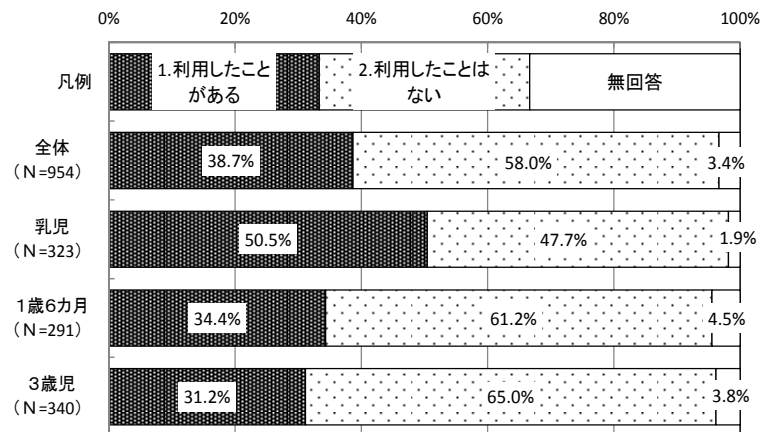
■問5. マタニティマークを知っていますか。（○は1つ）

- 全体の92.5%が「2. 知っていた」と回答。
- 一方で、「知らなかった」とする保護者も1割弱（7.1%）となっており、周知が求められます。



◇5-1 「2. 知っていた」と答えた方で、妊娠中、マタニティマークを身につけるなどして利用したことがありますか。（○は1つ）

- 「2. 利用したことはない」が6割弱（58.0%）。「1. 利用したことがある」は4割弱（38.7%）。

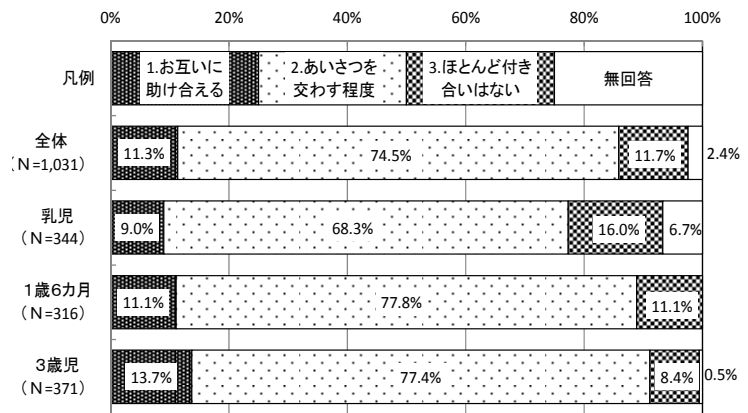


■問6. 近所の人とどの程度の交流がありますか。(〇は1つ)

1. お互いに助け合える関係 2. 近所の人とあいさつを交わす程度 3. ほとんど付き合いはない

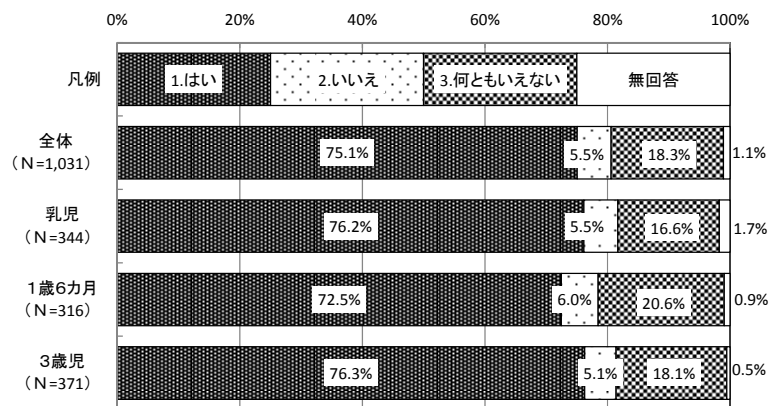
・「2. 近所の人とあいさつを交わす程度」が7割強(74.5%)と多く、「3. ほとんど付き合いはない」(11.7%)と、「1. お互いに助け合える関係」(11.3%)がそれぞれ1割程度。

・子どもが大きくなるにつれ、「3. ほとんど付き合いはない」とする割合が少なくなっており、何らかの交流が出てきている様子が見えます。



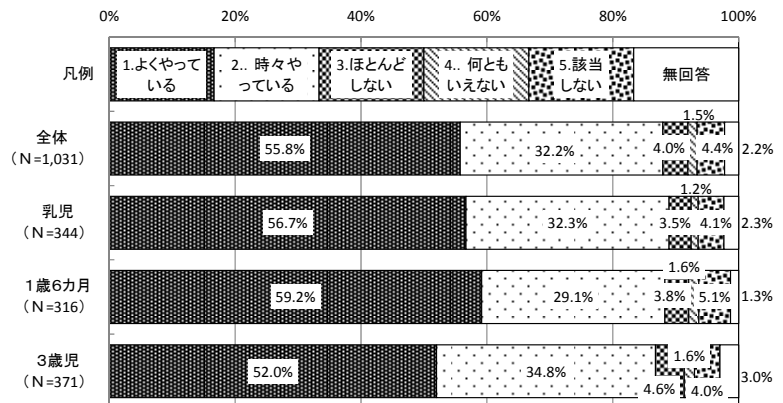
■問7. 今後もお住まいの地域で子育てをしたいとお考えですか。(〇は1つ)

・全体の8割弱(75.1%)が「1. はい」と回答。次いで「3. 何ともいえない」が2割弱(18.3%)、「2. いいえ」が5.5%。



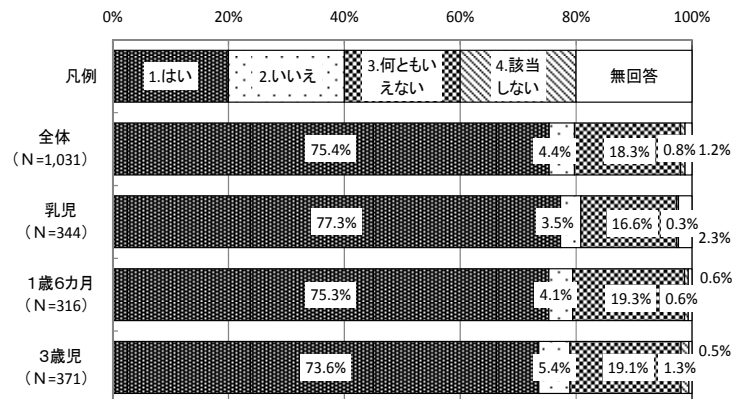
■問8. お父さんは積極的に育児をしていますか。(〇は1つ)

・全体の6割弱(55.8%)が「1. よくやっている」と回答。次いで「2. 時々やっている」(32.2%)、「3. ほとんどしない」(4.0%)、「4. 何ともいえない」(1.5%)となっています。



■問9. お母さんはゆったりとした気分でお子さんと過ごせる時間がありますか。 (○は1つ)

- 全体の8割弱 (75.4%) が「1. はい」と回答。一方、「2. いいえ」が4.4%。
- 「3. 何ともいえない」が2割弱(18.3%)を占めており、『ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある』と感じていない(「いいえ」4.4%)、もしくは何ともいえない母親(「何ともいえない」18.3%)が、2割強(22.7%)。年齢に関わらず、このような傾向がみられます。



(参考)

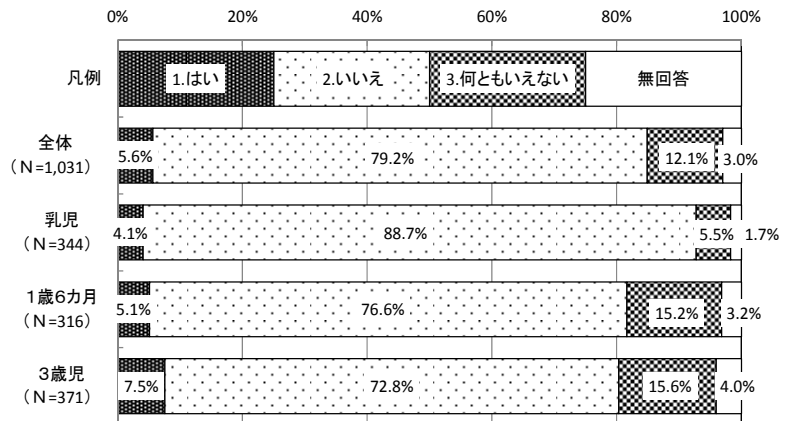
- 母親がゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間の有無と、父親の育児参加状況をみると、ゆったりとした気分で子どもと過ごせる「はい」と回答した、父親の育児は「①よくやっている」が60.5%と高い割合を示しています。

問8 お父さんの積極的育児参加×問9 お母さんがゆったりと過ごせる時間 (単数回答)

	合計	問8 お父さんの積極的育児参加						
		①よくやっている	②時々やっている	③ほとんどしない	④何ともいえない	⑤該当しない	無回答	
の有無 お母さんが お子さんと ゆったりと 過ごせる 時間	全体	1,031	575	332	41	15	45	23
		100.0%	55.8%	32.2%	4.0%	1.5%	4.4%	2.2%
	1. はい	777	470	228	25	9	31	14
		100.0%	60.5%	29.3%	3.2%	1.2%	4.0%	1.8%
	2. いいえ	45	13	20	8	1	3	0
		100.0%	28.9%	44.4%	17.8%	2.2%	6.7%	0.0%
3. 何ともいえない	189	83	79	8	5	11	3	
	100.0%	43.9%	41.8%	4.2%	2.6%	5.8%	1.6%	
4. 該当しない	8	6	2	0	0	0	0	
	100.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
無回答	12	3	3	0	0	0	6	
	100.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	

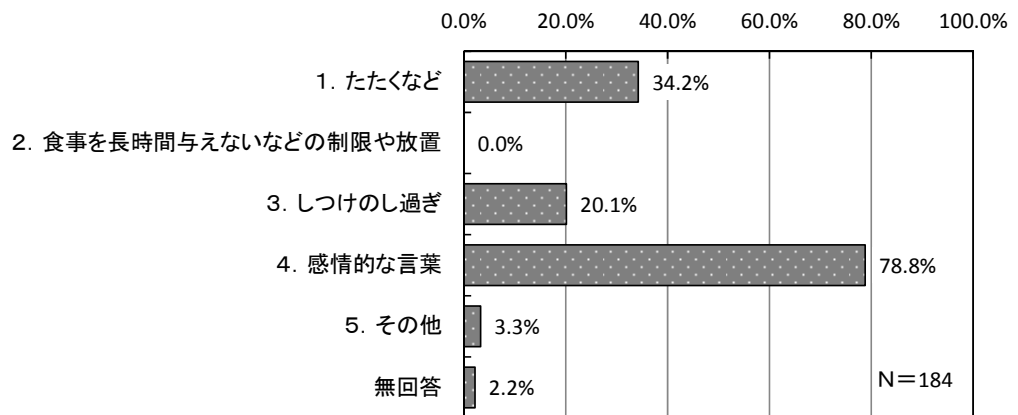
■問 10. あなたは、子どもを虐待しているのではないかと思うことがありますか。

- 子どもを虐待しているのではと思う
「1. はい」と回答した保護者は、
全体で 5.6%。一方、「2. いいえ」
が約 8割(79.2%)であった。また、
虐待について明確に回答できない、
「3. 何ともいえない」が 1割強
(12.1%)。



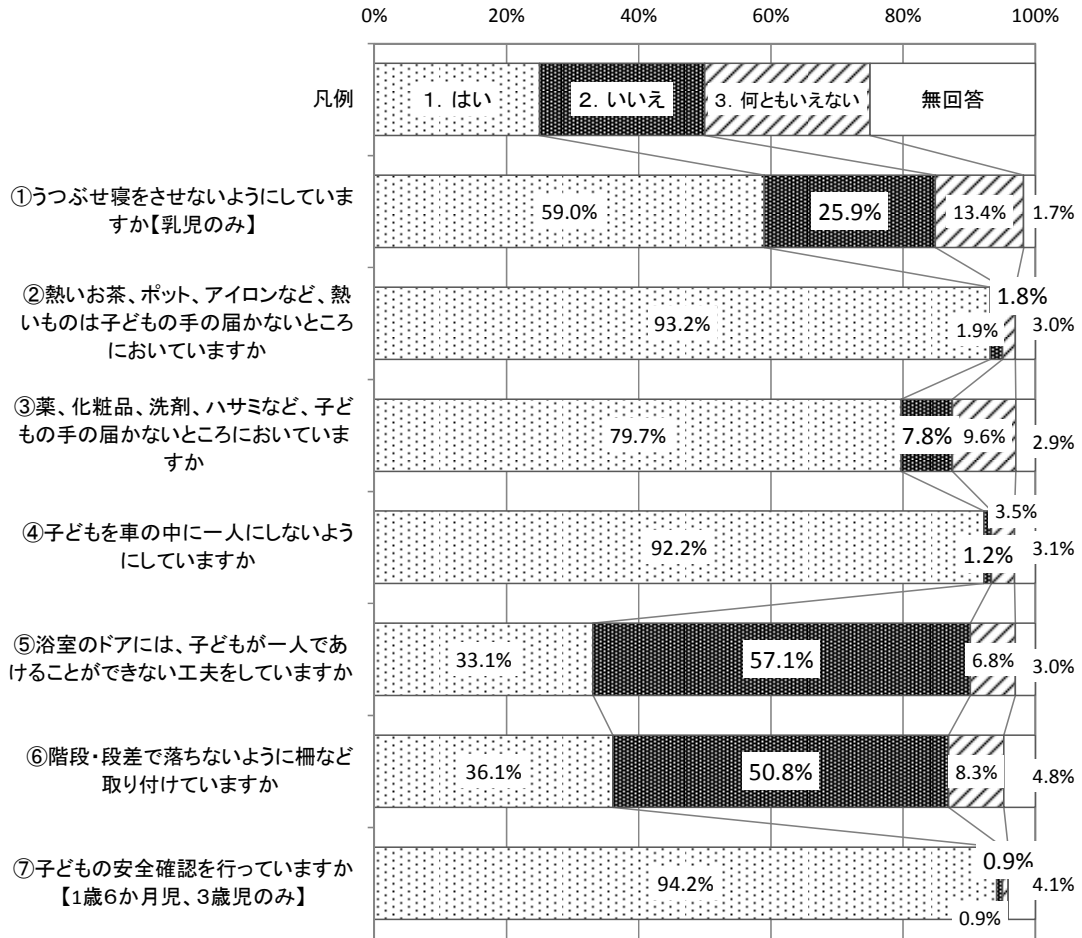
◇10-1 「1. はい」あるいは「3. 何ともいえない」と答えられた方へ それはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- 虐待をしていると思われる、また何ともいえないと回答した保護者へその内容をたずねると、「4. 感情的な言葉」が 8割弱 (78.8%) と最も多く、次いで「1. たたくなど」が 3割強 (34.2%)、「3. しつけのし過ぎ」が約 2割 (20.1%) となっています。



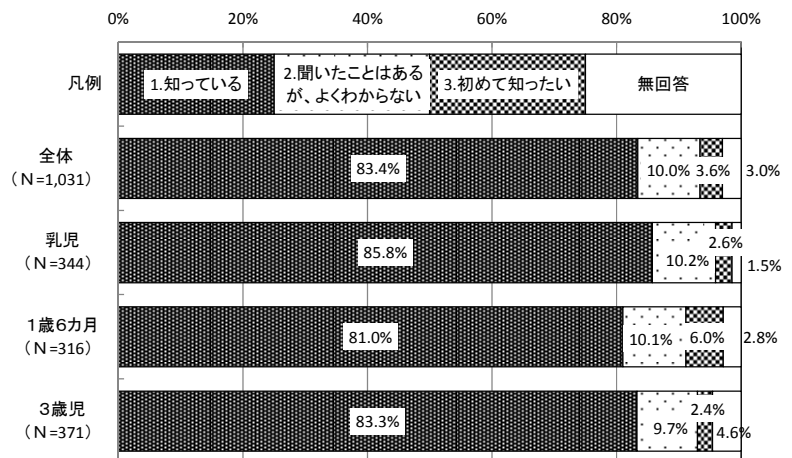
■問 11. 子どもの事故防止についておたずねします。(それぞれあてはまるもの1つに○)

- うつぶせ寝にさせない、浴室ドアの開閉の工夫、階段や段差への柵などの設置については対策をしていないとする「いいえ」の割合が高くなっています。



■問 12. 乳幼児揺さぶられ症候群を知っていますか。(下の説明文を読んでお答えください)

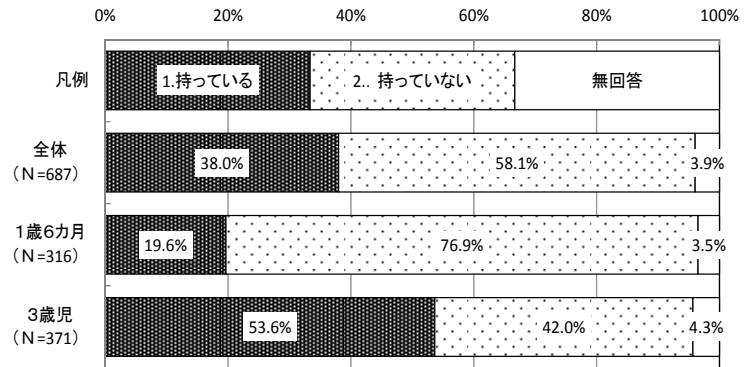
- 「1. 知っている」が8割強 (83.4%)、「2. 聞いたことはあるが、よくわからない」とする割合が1割 (10.0%) と少ないものの「3. 初めて知った」とする回答も 3.6% (37人) 見られました。



■【1歳6カ月児（N=316）と3歳児（N=371）のみ】

問 13. お子さんの**歯科**のかかりつけ医を持っていますか。（〇は1つ）

- かかりつけの歯科医については、「1. 持っている」が4割弱（38.0%）、「2. 持っていない」が6割弱（58.1%）。
- 年齢別についてみると、『1歳6か月』で約2割（19.6%）。『3歳児』は5割強（53.6%）にとどまっており、この年齢は『3歳児』は乳歯が生えそろった時期でもあるため、むし歯予防のためにもかかりつけ歯科医の大切さなど、さらなる周知が求められます。



6. 「健康なは 21」に関するアンケート調査結果

1 調査の目的と実施概要

(1) 調査の目的

「健康なは 21 (第2次)」計画策定にあたり、「健康なは 21」計画 (H17 年度～H26 年度)、(以下、第1次計画という。)の目標指標の達成状況評価・分析のため、既存データの無い指標についての実態調査を行い、第1次計画との比較評価を行う。また、第2次計画策定のため、既存資料の無い分野についての実態調査も併せて行い、第2次計画の基礎資料とする。また、性に関する調査項目については、「健やか親子なは (第2次)」が同時期に策定 (那覇市地域保健課) 予定となっており、効率的に実施するため、本調査と合わせて調査し、基礎資料とする。

1) 調査対象者

- ①那覇市内の中学校 (市内 18 校) の各学年から 1 クラス
- ②那覇市内の高等学校 (県立 9 校) の各学年から 1 クラス

2) 調査の実施方法

市内中学校、高等学校の各学年から 1 クラスの生徒にアンケート調査票と回収封筒を配付した。記入した調査票は回収封筒に入れ封をしてもらい、学校側で生徒から回収を行った。

3) 調査期間 : H26 年 8 月 25 日～9 月 25 日

4) 調査票の配布・回収数など

	配布数	回収件数 (件)	無効件数 (件)	有効回収件 数 (件)	有効回収率 (%)
全体	2,703	2,701	10	2,691	99.6%
中学校	1,684	1,683	9	1,674	99.5%
高校	1,019	1,018	1	1,017	99.9%

(2) 調査項目

分野	調査項目 (第 1 次計画の指標及び実態把握のための項目)	基礎資料として参考にする計画
タバコ	①タバコを吸った経験 (喫煙経験) 及びきっかけ ②現在の喫煙状況 ③禁煙の意思 ④家族にタバコを吸う人はいるか	「健康なは 21」 (第 2 次)
アルコール	①お酒を飲んだ経験 (飲酒経験) 及びきっかけ ②現在の飲酒状況	
性の知識	①避妊方法を知っていますか ②性感染症について学んだことがあるか	「健やか親子な は 2015」

2 調査の結果

(1) 回答者の属性

	件数	(全体)
総数	2,691	100.0%
1. 中学生	1,674	62.2%
2. 高校生	1,017	37.8%

	合計	1年生	2年生	3年生
全体	2,691 100.0%	853 31.7%	925 34.4%	913 33.9%
中学生	1,674 100.0%	515 30.8%	583 34.8%	576 34.4%
高校生	1,017 100.0%	338 33.2%	342 33.6%	337 33.1%

上段:実数 下段: %		合計	男子	女子	無回答
全体		2,691 100.0	1,371 50.9	1,319 49.0	1 0.0
中 学 生	合計	1,674 100.0	845 50.5	828 49.5	1 0.1
	1年生	515 100.0	256 49.7	259 50.3	0 0.0
	2年生	583 100.0	292 50.1	291 49.9	0 0.0
	3年生	576 100.0	297 51.6	278 48.3	1 0.2
	合計	1,017 100.0	526 51.7	491 48.3	0 0.0
	1年生	338 100.0	168 49.7	170 50.3	0 0.0
高 校 生	2年生	342 100.0	179 52.3	163 47.7	0 0.0
	3年生	337 100.0	179 53.1	158 46.9	0 0.0

(2) タバコについて

問2 あなたは今までに1回でも「タバコ」を吸った経験がありますか。(○は1つ)

1 ある	2 ない
------	------

- 今までに1回でも「タバコ」を吸ったことがある生徒の割合は、6.4%（172人）で、中学生5.0%（84人）、高校生8.7%（88人）。
- 性別にみると、中学生では男子が6.2%（52人）、女子が3.9%（32人）、高校生では男子が12.9%（68人）、女子4.1%（20人）であり、男子の割合が高い。
- 学年があがるにつれ、喫煙経験の割合も増加。

上段:実数 下段: %		合計	ある	ない	無回答
全体		2,691	172	2,517	2
		100.0	6.4	93.5	0.1
性別	中学生	1,674	84	1,589	1
		100.0	5.0	94.9	0.1
	男子	845	52	793	0
		100.0	6.2	93.8	0.0
	女子	828	32	795	1
		100.0	3.9	96.0	0.1
	無回答	1	0	1	0
		100.0	0.0	100.0	0.0
	高校生	1,017	88	928	1
		100.0	8.7	91.2	0.1
学年	男子	526	68	458	0
		100.0	12.9	87.1	0.0
	女子	491	20	470	1
		100.0	4.1	95.7	0.2
	中学生	1,674	84	1,589	1
		100.0	5.0	94.9	0.1
	1年生	515	12	502	1
		100.0	2.3	97.5	0.2
	2年生	583	36	547	0
		100.0	6.2	93.8	0.0
	3年生	576	36	540	0
		100.0	6.3	93.8	0.0
高校生	1,017	88	928	1	
	100.0	8.7	91.2	0.1	
1年生	338	26	311	1	
	100.0	7.7	92.0	0.3	
2年生	342	26	316	0	
	100.0	7.6	92.4	0.0	
3年生	337	36	301	0	
	100.0	10.7	89.3	0.0	

上段:実数 下段: %	男子				女子				
	合計	ある	ない	無回答	合計	1 ある	2 ない	無回答	
全体	1,371	120	1,251	0	1,319	52	1,265	2	
	100.0	8.8	91.2	0.0	100.0	3.9	95.9	0.2	
中学生	合計	845	52	793	0	828	32	795	1
		100.0	6.2	93.8	0.0	100.0	3.9	96.0	0.1
	1年生	256	4	252	0	259	8	250	1
		100.0	1.6	98.4	0.0	100.0	3.1	96.5	0.4
	2年生	292	25	267	0	291	11	280	0
		100.0	8.6	91.4	0.0	100.0	3.8	96.2	0.0
	3年生	297	23	274	0	278	13	265	0
	100.0	7.7	92.3	0.0	100.0	4.7	95.3	0.0	
高校生	合計	526	68	458	0	491	20	470	1
		100.0	12.9	87.1	0.0	100.0	4.1	95.7	0.2
	1年生	168	20	148	0	170	6	163	1
		100.0	11.9	88.1	0.0	100.0	3.5	95.9	0.6
	2年生	179	21	158	0	163	5	158	0
		100.0	11.7	88.3	0.0	100.0	3.1	96.9	0.0
	3年生	179	27	152	0	158	9	149	0
	100.0	15.1	84.9	0.0	100.0	5.7	94.3	0.0	

問3 「タバコ」を吸ったきっかけはなんですか。(主なものに○)

1 友達に勧められて	2 先輩に勧められて	3 興味があった
4 好奇心で	5 なんとなく	6 その他 ()

- ・「タバコ」を吸ったきっかけは、「好奇心で」が28.5% (49人)、次いで「友だちの勧め」が24.4% (42人)、「なんとなく」が21.5% (37人) となっている。
- ・中学生では「好奇心」(26.2%) が最も多く、次いで「なんとなく」(25.0%)、「友だちの勧め」(20.2%) となっている。高校生では「好奇心で」が30.7%と最も多く、次いで「友だちの勧め」、「なんとなく」の順になっている。中高校生ともに男子は「好奇心で」、女子は「なんとなく」が最も多い理由となっている。

上段:実数 下段: %		合計	1 友達に 勧められて	2 先輩に 勧められて	3 興味があ った	4 好奇心 で	5 なんと なく	6 その他	無回答
全体		172	42	11	17	49	37	13	3
		100.0	24.4	6.4	9.9	28.5	21.5	7.6	1.7
性別	中学生	84	17	5	10	22	21	7	2
		100.0	20.2	6.0	11.9	26.2	25.0	8.3	2.4
	男子	52	11	2	7	15	11	6	0
		100.0	21.2	3.8	13.5	28.8	21.2	11.5	0.0
	女子	32	6	3	3	7	10	1	2
		100.0	18.8	9.4	9.4	21.9	31.3	3.1	6.3
	高校生	88	25	6	7	27	16	6	1
		100.0	28.4	6.8	8.0	30.7	18.2	6.8	1.1
学年	男子	68	21	6	5	23	10	3	0
		100.0	30.9	8.8	7.4	33.8	14.7	4.4	0.0
	女子	20	4	0	2	4	6	3	1
		100.0	20.0	0.0	10.0	20.0	30.0	15.0	5.0
	中学生	84	17	5	10	22	21	7	2
		100.0	20.2	6.0	11.9	26.2	25.0	8.3	2.4
	1年生	12	2	2	0	4	3	1	0
		100.0	16.7	16.7	0.0	33.3	25.0	8.3	0.0
	2年生	36	6	1	7	8	8	5	1
		100.0	16.7	2.8	19.4	22.2	22.2	13.9	2.8
	3年生	36	9	2	3	10	10	1	1
		100.0	25.0	5.6	8.3	27.8	27.8	2.8	2.8
高校生	88	25	6	7	27	16	6	1	
	100.0	28.4	6.8	8.0	30.7	18.2	6.8	1.1	
1年生	26	9	0	5	6	4	1	1	
	100.0	34.6	0.0	19.2	23.1	15.4	3.8	3.8	
2年生	26	10	2	2	5	5	2	0	
	100.0	38.5	7.7	7.7	19.2	19.2	7.7	0.0	
3年生	36	6	4	0	16	7	3	0	
	100.0	16.7	11.1	0.0	44.4	19.4	8.3	0.0	

上段:実数 下段: %		男 子							無回答
		合計	1 友達に 勧められ て	2 先輩に 勧められ て	3 興味が あった	4 好奇心 で	5 なんと なく	6 その他	
全体	合計	120	32	8	12	38	21	9	0
		100.0	26.7	6.7	10.0	31.7	17.5	7.5	0.0
中学生	合計	52	11	2	7	15	11	6	0
		100.0	21.2	3.8	13.5	28.8	21.2	11.5	0.0
	1年生	4	1	0	0	1	1	1	0
		100.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0
	2年生	25	4	1	5	7	4	4	0
		100.0	16.0	4.0	20.0	28.0	16.0	16.0	0.0
	3年生	23	6	1	2	7	6	1	0
100.0		26.1	4.3	8.7	30.4	26.1	4.3	0.0	
高校生	合計	68	21	6	5	23	10	3	0
		100.0	30.9	8.8	7.4	33.8	14.7	4.4	0.0
	1年生	20	8	0	3	6	2	1	0
		100.0	40.0	0.0	15.0	30.0	10.0	5.0	0.0
	2年生	21	8	2	2	5	3	1	0
		100.0	38.1	9.5	9.5	23.8	14.3	4.8	0.0
	3年生	27	5	4	0	12	5	1	0
100.0		18.5	14.8	0.0	44.4	18.5	3.7	0.0	
上段:実数 下段: %		女 子							無回答
		合計	1 友達に 勧められ て	2 先輩に 勧められ て	3 興味が あった	4 好奇心 で	5 なんと なく	6 その他	
全体	合計	52	10	3	5	11	16	4	3
		100.0	19.2	5.8	9.6	21.2	30.8	7.7	5.8
中学生	合計	32	6	3	3	7	10	1	2
		100.0	18.8	9.4	9.4	21.9	31.3	3.1	6.3
	1年生	8	1	2	0	3	2	0	0
		100.0	12.5	25.0	0.0	37.5	25.0	0.0	0.0
	2年生	11	2	0	2	1	4	1	1
		100.0	18.2	0.0	18.2	9.1	36.4	9.1	9.1
	3年生	13	3	1	1	3	4	0	1
100.0		23.1	7.7	7.7	23.1	30.8	0.0	7.7	
高校生	合計	20	4	0	2	4	6	3	1
		100.0	20.0	0.0	10.0	20.0	30.0	15.0	5.0
	1年生	6	1	0	2	0	2	0	1
		100.0	16.7	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	16.7
	2年生	5	2	0	0	0	2	1	0
		100.0	40.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	0.0
	3年生	9	1	0	0	4	2	2	0
100.0		11.1	0.0	0.0	44.4	22.2	22.2	0.0	

問4 この1か月にあなたは「タバコ」を吸っていますか？（○は1つ）

1 はい	2 いいえ
------	-------

- この1ヶ月間に喫煙した生徒は、全体の1.6%（43人）となっている。中学生は1.2%（20人）、高校生は2.3%（23人）であり、常習化が懸念される。
- 性別での内訳をみると、中学生では、男子1.1%（9人）、女子1.3%（11人）と女子が男子よりも多くなっている。高校生では、男子3.2%（17人）、女子1.2%（6人）と男子が女子よりも多くなっている。

上段:実数 下段: %	合計	はい	いいえ	無回答	非該当	
全体	2,691 100.0	43 1.6	127 4.7	2 0.1	2,519 93.6	
性別	中学生	1,674 100.0	20 1.2	63 3.8	1 0.1	1,590 95.0
	男子	854 100.0	9 1.1	42 4.9	1 0.1	802 93.9
	女子	828 100.0	11 1.3	21 2.5	0 0.0	796 96.1
	高校生	1,017 100.0	23 2.3	64 6.3	1 0.1	929 91.3
	男子	526 100.0	17 3.2	51 9.7	0 0.0	458 87.1
	女子	491 100.0	6 1.2	13 2.6	1 0.2	471 95.9
学年	中学生	1,674 100.0	20 1.2	63 3.8	1 0.1	1,590 95.0
	1年生	515 100.0	1 0.2	11 2.1	0 0.0	503 97.7
	2年生	583 100.0	9 1.5	26 4.5	1 0.2	547 93.8
	3年生	576 100.0	10 1.7	26 4.5	0 0.0	540 93.8
	高校生	1,017 100.0	23 2.3	64 6.3	1 0.1	929 91.3
	1年生	338 100.0	7 2.1	18 5.3	1 0.3	312 92.3
	2年生	342 100.0	7 2.0	19 5.6	0 0.0	316 92.4
	3年生	337 100.0	9 2.7	27 8.0	0 0.0	301 89.3

※非該当：喫煙経験のない生徒

上段:実数 下段: %	男子					女子					
	合計	1 はい	2 いいえ	無回答	非該当	合計	1 はい	2 いいえ	無回答	非該当	
全体	1,371 100.0	26 1.9	93 6.8	1 0.1	1,251 91.2	1,319 100.0	17 1.3	34 2.6	1 0.1	1,267 96.1	
中学生	合計	845 100.0	9 1.1	42 5.0	1 0.1	793 93.8	828 100.0	11 1.3	21 2.5	0 0.0	796 96.1
	1年生	156 100.0	0 0.0	4 2.6	0 0.0	152 97.4	259 100.0	1 0.4	7 2.7	0 0.0	251 96.9
	2年生	292 100.0	5 1.7	19 6.5	1 0.3	267 91.4	291 100.0	4 1.4	7 2.4	0 0.0	280 96.2
	3年生	297 100.0	4 1.3	19 6.4	0 0.0	274 92.3	278 100.0	6 2.2	7 2.5	0 0.0	265 95.3
	高校生	526 100.0	17 3.2	51 9.7	0 0.0	458 87.1	491 100.0	6 1.2	13 2.6	1 0.2	471 95.9
高校生	1年生	168 100.0	5 3.0	15 8.9	0 0.0	148 88.1	170 100.0	2 1.2	3 1.8	1 0.6	164 96.5
	2年生	179 100.0	7 3.9	14 7.8	0 0.0	158 88.3	163 100.0	0 0.0	5 3.1	0 0.0	158 96.9
	3年生	179 100.0	5 2.8	22 12.3	0 0.0	152 84.9	158 100.0	4 2.5	5 3.2	0 0.0	149 94.3

問5（問4で「はい」と答えた方へ）「タバコ」をやめたいと思いますか？（○は1つ）

・この1か月の間に喫煙をした生徒のうち、76.7%（33人）が「タバコ」をやめたいと回答している。

・一方、やめないとする回答も20.9%（9人）みられる。

	件数	(全体)
総数	43	100.0%
1 はい	33	76.7%
2 いいえ	9	20.9%
無回答	1	2.3%

問6（問2で「ある」と答えた方へ）家族に「タバコ」を吸う人はいますか？（○は1つ）

・喫煙経験のある生徒のうち、67.4%（116人）が家族の中に喫煙者がいると回答している。

	件数	(全体)
総数	172	100.0%
1 いる	116	67.4%
2 いない	49	28.5%
無回答	7	4.1%

問7（問6で「いる」と答えた方へ）

家族のなかで「タバコ」を吸っているのは誰ですか？（当てはまる人すべてに○）

・父親が58.6%（68人）、母親が53.4%（62人）、兄弟姉妹29.3%（34人）の順となっている。

	件数	(全体)
総数	116	100.0%
1 父	68	58.6%
2 母	62	53.4%
3 祖父母	10	8.6%
4 兄弟姉妹	34	29.3%
5 その他	2	1.7%

		合計	1 父	2 母	3 祖父母	4 兄弟姉妹	5 その他
全体		116	68	62	10	34	2
		100.0	58.6	53.4	8.6	29.3	1.7
性別	1 男子	77	49	40	7	18	2
		100.0	63.6	51.9	9.1	23.4	2.6
性別	2 女子	39	19	22	3	16	0
		100.0	48.7	56.4	7.7	41.0	0.0

(2) 飲酒について

問8 あなたは今までに1回でも「お酒」(ビールや泡盛、ウイスキー等)を飲んだ経験がありますか。(○は1つ)

- 今までに1回でも「お酒」を飲んだことのある生徒の割合は、20.5% (552人)で、中学生18.4%、高校生24.0%であった。
- 中学生では男子が18.2% (154人)、女子が18.6% (154人)で、男子と女子がほぼ同じ割合となっている。高校生では男子が28.5% (244人)、女子19.1% (94人)であり、高校生の男子は3割弱が飲酒の経験があるとしている。
- 中学生、高校生ともに、学年があがるにつれ、飲酒経験の割合も高くなっている。

		上段:実数 下段: %	合計	ある	ない	無回答
全体			2,691 100.0	552 20.5	2,102 78.1	37 1.4
性別	中学生		1,674 100.0	308 18.4	1,337 79.9	29 1.7
	男子		845 100.0	154 18.2	677 80.1	14 1.7
	女子		828 100.0	154 18.6	659 79.6	15 1.8
	無回答		1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	高校生		1,017 100.0	244 24.0	765 75.2	8 0.8
	男子		526 100.0	150 28.5	372 70.7	4 0.8
	女子		491 100.0	94 19.1	393 80.0	4 0.8
	学年	中学生		1,674 100.0	308 18.4	1,337 79.9
	1年生		515 100.0	87 16.9	414 80.4	14 2.7
	2年生		583 100.0	108 18.5	467 80.1	8 1.4
	3年生		576 100.0	113 19.6	456 79.2	7 1.2
	高校生		1,017 100.0	244 24.0	765 75.2	8 0.8
	1年生		338 100.0	69 20.4	266 78.7	3 0.9
	2年生		342 100.0	83 24.3	256 74.9	3 0.9
	3年生		337 100.0	92 27.3	243 72.1	2 0.6

上段:実数 下段: %	男子				女子				
	合計	1 ある	2 ない	無回答	合計	1 ある	2 ない	無回答	
全体	1,371 100.0	304 22.2	1,049 76.5	18 1.3	1,319 100.0	248 18.8	1,052 79.8	19 1.4	
中学生	合計	845 100.0	154 18.2	677 80.1	14 1.7	828 100.0	154 18.6	659 79.6	15 1.8
	1年生	256 100.0	46 18.0	202 78.9	8 3.1	259 100.0	41 15.8	212 81.9	6 2.3
	2年生	292 100.0	51 17.5	238 81.5	3 1.0	291 100.0	57 19.6	229 78.7	5 1.7
	3年生	297 100.0	57 19.2	237 79.8	3 1.0	278 100.0	56 20.1	218 78.4	4 1.4
高校生	合計	526 100.0	150 28.5	372 70.7	4 0.8	491 100.0	94 19.1	393 80.0	4 0.8
	1年生	168 100.0	42 25.0	124 73.8	2 1.2	170 100.0	27 15.9	142 83.5	1 0.6
	2年生	179 100.0	49 27.4	129 72.1	1 0.6	163 100.0	34 20.9	127 77.9	2 1.2
	3年生	179 100.0	59 33.0	119 66.5	1 0.6	158 100.0	33 20.9	124 78.5	1 0.6

問9（問8で「ある」と答えた方へ）

「お酒」を飲んだきっかけは、なんですか？（主なものに○）

1 友達に勧められて	2 先輩に勧められて	3 興味があった
4 好奇心で	5 なんとなく	6 その他（ ）

- 「お酒」を飲んだきっかけは、「5. なんとなく」が23.4%（129人）、次いで「4. 好奇心で」が20.5%（113人）となっている。「なんとなく」理由もなく飲酒をしている割合も高い。
- 中学生のうち「5. なんとなく」が最も多いが、高校生になると、「4. 好奇心で」と回答する割合が高くなっている。特に高校生男子は「4. 好奇心で」が3割弱（27.3%）となっている。
- 学年があがるにつれて、「1. 友だちに勧められて」とする割合も高くなっている。

上段:実数 下段: %		合計	1 友達に勧め(すす)められて	2 先輩に勧め(すす)められて	3 興味(きょうみ)があった	4 好奇心で	5 なんとなく	6 その他	無回答
全体		552 100.0	30 5.4	8 1.4	60 10.9	113 20.5	129 23.4	206 37.3	6 1.1
性別	中学生	308 100.0	12 3.9	1 0.3	27 8.8	48 15.6	67 21.8	148 48.1	5 1.6
	男子	154 100.0	5 3.2	0 0.0	17 11.0	22 14.3	31 20.1	78 50.6	1 0.6
	女子	154 100.0	7 4.5	1 0.6	10 6.5	26 16.9	36 23.4	70 45.5	4 2.6
	高校生	244 100.0	18 7.4	7 2.9	33 13.5	65 26.6	62 25.4	58 23.8	1 0.4
	男子	150 100.0	12 8.0	6 4.0	21 14.0	41 27.3	35 23.3	34 22.7	1 0.7
	女子	94 100.0	6 6.4	1 1.1	12 12.8	24 25.5	27 28.7	24 25.5	0 0.0
学年	中学生	308 100.0	12 3.9	1 0.3	27 8.8	48 15.6	67 21.8	148 48.1	5 1.6
	1年生	87 100.0	3 3.4	0 0.0	9 10.3	11 12.6	13 14.9	51 58.6	0 0.0
	2年生	108 100.0	6 5.6	0 0.0	6 5.6	20 18.5	21 19.4	52 48.1	3 2.8
	3年生	113 100.0	3 2.7	1 0.9	12 10.6	17 15.0	33 29.2	45 39.8	2 1.8
	高校生	244 100.0	18 7.4	7 2.9	33 13.5	65 26.6	62 25.4	58 23.8	1 0.4
	1年生	69 100.0	3 4.3	1 1.4	11 15.9	16 23.2	15 21.7	22 31.9	1 1.4
	2年生	83 100.0	4 4.8	2 2.4	10 12.0	14 16.9	29 34.9	24 28.9	0 0.0
	3年生	92 100.0	11 12.0	4 4.3	12 13.0	35 38.0	18 19.6	12 13.0	0 0.0

上段:実数 下段: %		男 子							無回答
		合計	1 友達 に勧めら れて	2 先輩 に勧めら れて	3 興味 があった	4 好奇 心で	5 なんと なく	6 その 他	
全体		304	17	6	38	63	66	112	2
		100.0	5.6	2.0	12.5	20.7	21.7	36.8	0.7
中 学 生	合計	154	5	0	17	22	31	78	1
		100.0	3.2	0.0	11.0	14.3	20.1	50.6	0.6
	1年生	46	1	0	7	7	4	27	0
		100.0	2.2	0.0	15.2	15.2	8.7	58.7	0.0
	2年生	51	3	0	3	8	12	25	0
100.0		5.9	0.0	5.9	15.7	23.5	49.0	0.0	
3年生	57	1	0	7	7	15	26	1	
	100.0	1.8	0.0	12.3	12.3	26.3	45.6	1.8	
高 校 生	合計	150	12	6	21	41	35	34	1
		100.0	8.0	4.0	14.0	27.3	23.3	22.7	0.7
	1年生	42	2	0	7	11	8	13	1
		100.0	4.8	0.0	16.7	26.2	19.0	31.0	2.4
	2年生	49	3	2	7	9	15	13	0
100.0		6.1	4.1	14.3	18.4	30.6	26.5	0.0	
3年生	59	7	4	7	21	12	8	0	
	100.0	11.9	6.8	11.9	35.6	20.3	13.6	0.0	
上段:実数 下段: %		女 子							無回答
		合計	1 友達 に勧めら れて	2 先輩 に勧めら れて	3 興味 があった	4 好奇 心で	5 なんと なく	6 その 他	
全体		248	13	2	22	50	63	94	4
		100.0	5.2	0.8	8.9	20.2	25.4	37.9	1.6
中 学 生	合計	154	7	1	10	26	36	70	4
		100.0	4.5	0.6	6.5	16.9	23.4	45.5	2.6
	1年生	41	2	0	2	4	9	24	0
		100.0	4.9	0.0	4.9	9.8	22.0	58.5	0.0
	2年生	57	3	0	3	12	9	27	3
100.0		5.3	0.0	5.3	21.1	15.8	47.4	5.3	
3年生	56	2	1	5	10	18	19	1	
	100.0	3.6	1.8	8.9	17.9	32.1	33.9	1.8	
高 校 生	合計	94	6	1	12	24	27	24	0
		100.0	6.4	1.1	12.8	25.5	28.7	25.5	0.0
	1年生	27	1	1	4	5	7	9	0
		100.0	3.7	3.7	14.8	18.5	25.9	33.3	0.0
	2年生	34	1	0	3	5	14	11	0
100.0		2.9	0.0	8.8	14.7	41.2	32.4	0.0	
3年生	33	4	0	5	14	6	4	0	
	100.0	12.1	0.0	15.2	42.4	18.2	12.1	0.0	

問 10 この1ヶ月の間にあなたはお酒を飲んでいますか？ (○は1つ)

•この1ヶ月間にも飲酒をした生徒は、全体の3.6%(97人)で、中学生2.4%、高校生5.6%であった。

•性別での内訳をみると、中学生では男子が1.9%(16人)、女子が2.9%(24人)、高校生では男子が7.6%(40人)、女子3.5%(17人)となっている。中学生では女子の割合が男子よりも若干高く、高校生は男子が女子よりも若干高い結果となっている。

		合計	1 はい	2 いいえ	無回答	非該当
上段:実数 下段: %						
全体		2,691	97	439	16	2,139
		100.0	3.6	16.3	0.6	79.5
性別	中学生	1,674	40	255	13	1,366
		100.0	2.4	15.2	0.8	81.6
	男子	854	16	130	8	700
		100.0	1.9	15.2	0.9	82.0
	女子	828	24	125	5	674
		100.0	2.9	15.1	0.6	81.4
	高校生	1,017	57	184	3	773
		100.0	5.6	18.1	0.3	76.0
	男子	526	40	108	2	376
		100.0	7.6	20.5	0.4	71.5
	女子	491	17	76	1	397
		100.0	3.5	15.5	0.2	80.9
学年	中学生	1,674	40	255	13	1,366
		100.0	2.4	15.2	0.8	81.6
	1年生	515	11	73	3	428
		100.0	2.1	14.2	0.6	83.1
	2年生	583	12	91	5	475
		100.0	2.1	15.6	0.9	81.5
	3年生	576	17	91	5	463
		100.0	3.0	15.8	0.9	80.4
	高校生	1,017	57	184	3	773
		100.0	5.6	18.1	0.3	76.0
	1年生	338	11	56	2	269
		100.0	3.3	16.6	0.6	79.6
2年生	342	20	63	0	259	
	100.0	5.8	18.4	0.0	75.7	
3年生	337	26	65	1	245	
	100.0	7.7	19.3	0.3	72.7	

※非該当：飲酒経験のない生徒

上段:実数 下段: %	男 子					女 子					
	合計	1 はい	2 いいえ	無回答	非該当	合計	1 はい	2 いいえ	無回答	非該当	
全体	1,371	56	238	10	1,067	1,319	41	201	6	1,071	
	100.0	4.1	17.4	0.7	77.8	100.0	3.1	15.2	0.5	81.2	
中学生	合計	845	16	130	8	691	828	24	125	5	674
		100.0	1.9	15.4	0.9	81.8	119.8	2.9	15.1	0.6	81.4
	1年生	156	8	36	2	110	259	3	37	1	218
		100.0	5.1	23.1	1.3	70.5	100.0	1.2	14.3	0.4	84.2
	2年生	292	3	46	2	241	291	9	45	3	234
		100.0	1.0	15.8	0.7	82.5	100.0	3.1	15.5	1.0	80.4
3年生	297	5	48	4	240	278	12	43	1	222	
	100.0	1.7	16.2	1.3	80.8	100.0	4.3	15.5	0.4	79.9	
高校生	合計	526	40	108	2	376	491	17	76	1	397
		100.0	7.6	20.5	0.4	71.5	100.0	3.5	15.5	0.2	80.9
	1年生	168	7	33	2	126	170	4	23	0	143
		100.0	4.2	19.6	1.2	75.0	100.0	2.4	13.5	0.0	84.1
	2年生	179	13	36	0	130	163	7	27	0	129
		100.0	7.3	20.1	0.0	72.6	100.0	4.3	16.6	0.0	79.1
3年生	179	20	39	0	120	158	6	26	1	125	
	100.0	11.2	21.8	0.0	67.0	100.0	3.8	16.5	0.6	79.1	

(3) 性の知識について

問 11 あなたは避妊の方法を知っていますか？ (○は1つ)

- 避妊方法を知っている生徒の割合は、56.0%となっている。中学生が38.4%、高校生が84.9%となっている。
- 中学生では男子が36.6%、女子が40.3%、高校生では男子が83.3%、女子が86.6%「知っている」と回答している。
- 学年が高くなるにつれて、避妊法を知っている割合も高くなっているが、避妊について学んでいると思われる高校2～3年生においても「知らない」とする割合が1割前後みられる。

上段:実数 下段: %		合計	1 はい	2 いいえ	無回答	
全体		2,691 100.0	1,506 56.0	1,160 43.1	25 0.9	
性別	中学生	1,674 100.0	643 38.4	1,011 60.4	20 1.2	
	男子	845 100.0	309 36.6	525 62.1	11 1.3	
	女子	828 100.0	334 40.3	485 58.6	9 1.1	
	無回答	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	
	高校生	1,017 100.0	863 84.9	149 14.7	5 0.5	
	男子	526 100.0	438 83.3	84 16.0	4 0.8	
	女子	491 100.0	425 86.6	65 13.2	1 0.2	
	学年	中学生	1,674 100.0	643 38.4	1,011 60.4	20 1.2
		1年生	515 100.0	128 24.9	378 73.4	9 1.7
		2年生	583 100.0	214 36.7	363 62.3	6 1.0
3年生		576 100.0	301 52.3	270 46.9	5 0.9	
高校生		1,017 100.0	863 84.9	149 14.7	5 0.5	
1年生		338 100.0	248 73.4	89 26.3	1 0.3	
2年生		342 100.0	303 88.6	37 10.8	2 0.6	
3年生		337 100.0	312 92.6	23 6.8	2 0.6	

上段:実数 下段: %	男 子				女 子				
	合計	1 はい	2 いいえ	無回答	合計	1 はい	2 いいえ	無回答	
全体	1,371 100.0	747 54.5	609 44.4	15 1.1	1,319 100.0	759 57.5	550 41.7	10 0.8	
中学生	合計	845 100.0	309 36.6	525 62.1	11 1.3	828 100.0	334 40.3	485 58.6	9 1.1
	1年生	256 100.0	59 23.0	192 75.0	5 2.0	259 100.0	69 26.6	186 71.8	4 1.5
	2年生	292 100.0	95 32.5	194 66.4	3 1.0	291 100.0	119 40.9	169 58.1	3 1.0
	3年生	297 100.0	155 52.2	139 46.8	3 1.0	278 100.0	146 52.5	130 46.8	2 0.7
	高校生	526 100.0	438 83.3	84 16.0	4 0.8	491 100.0	425 86.6	65 13.2	1 0.2
高校生	合計	526 100.0	438 83.3	84 16.0	4 0.8	491 100.0	425 86.6	65 13.2	1 0.2
	1年生	168 100.0	121 72.0	46 27.4	1 0.6	170 100.0	127 74.7	43 25.3	0 0.0
	2年生	179 100.0	155 86.6	22 12.3	2 1.1	163 100.0	148 90.8	15 9.2	0 0.0
	3年生	179 100.0	162 90.5	16 8.9	1 0.6	158 100.0	150 94.9	7 4.4	1 0.6

問 12 あなたは性感染症（クラミジア、梅毒、エイズ等）について、今まで学習したことがありますか（○は1つ）

- 性感染症について学習したことがある生徒の割合は、全体で 84.8%となっている。中学生が 79.9%、高校生が 92.9%となっている。
- 性別での大きな差はなく、学年が高くなるにつれ、学習した生徒の割合も高くなっている。

		上段:実数 下段: %	合計	1 はい	2 いいえ	無回答
全体			2,691 100.0	2,282 84.8	397 14.8	12 0.4
性別	中学生		1,674 100.0	1,337 79.9	330 19.7	7 0.4
	男子		845 100.0	668 79.1	173 20.5	4 0.5
	女子		828 100.0	669 80.8	156 18.8	3 0.4
	無回答		1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	高校生		1,017 100.0	945 92.9	67 6.6	5 0.5
	男子		526 100.0	479 91.1	44 8.4	3 0.6
	女子		491 100.0	466 94.9	23 4.7	2 0.4
	学年	中学生		1,674 100.0	1,337 79.9	330 19.7
	1年生		515 100.0	409 79.4	103 20.0	3 0.6
	2年生		583 100.0	458 78.6	123 21.1	2 0.3
	3年生		576 100.0	470 81.6	104 18.1	2 0.3
	高校生		1,017 100.0	945 92.9	67 6.6	5 0.5
	1年生		338 100.0	304 89.9	34 10.1	0 0.0
	2年生		342 100.0	323 94.4	17 5.0	2 0.6
	3年生		337 100.0	318 94.4	16 4.7	3 0.9

上段:実数 下段: %	男 子				女 子				
	合計	1 はい	2 いいえ	無回答	合計	1 はい	2 いいえ	無回答	
全体	1,371 100.0	1,147 83.7	217 15.8	7 0.5	1,319 100.0	1,135 86.1	179 13.6	5 0.4	
中学生	合計	845 100.0	668 79.1	173 20.5	4 0.5	828 100.0	669 80.8	156 18.8	3 0.4
	1年生	256 100.0	198 77.3	58 22.7	0 0.0	259 100.0	211 81.5	45 17.4	3 1.2
	2年生	292 100.0	226 77.4	64 21.9	2 0.7	291 100.0	232 79.7	59 20.3	0 0.0
	3年生	297 100.0	244 82.2	51 17.2	2 0.7	278 100.0	226 81.3	52 18.7	0 0.0
	高校生	合計	526 100.0	479 91.1	44 8.4	3 0.6	491 100.0	466 94.9	23 4.7
	1年生	168 100.0	143 85.1	25 14.9	0 0.0	170 100.0	161 94.7	9 5.3	0 0.0
	2年生	179 100.0	166 92.7	11 6.1	2 1.1	163 100.0	157 96.3	6 3.7	0 0.0
	3年生	179 100.0	170 95.0	8 4.5	1 0.6	158 100.0	148 93.7	8 5.1	2 1.3

7. 那覇市母子保健推進協議会規則など

那覇市母子保健推進協議会規則

平成15年7月2日

規則第63号

改正 平成26年2月3日規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、那覇市附属機関の設置に関する条例(昭和52年那覇市条例第2号)第3条の規定に基づき、那覇市母子保健推進協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(担当事務)

第2条 協議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 母子保健計画の策定及び推進に関すること。
- (2) 母子保健事業における保健、医療、福祉、教育等関係施策との連携に関すること。
- (3) 母子保健事業における医療費助成の決定に対する不服申立てに関すること。
- (4) その他母子保健の推進に関すること。

(組織)

第3条 協議会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 本市を除く関係行政機関の職員
- (3) 関係団体の役員及び職員
- (4) 市民

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選でこれを定める。

- 2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会の会議は、会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- 4 前項の場合においては、会長は、委員として議決に加わる権利を有しない。

(部会)

第7条 第2条第3号の事項を調査審議させるため、協議会に部会を置くものとする。

- 2 部会に属すべき委員は、協議会の委員のうちから会長が指名する。
- 3 第3条第1項の規定にかかわらず、特に専門的な事項を調査審議させるため必要があると認めるときは、部会に臨時委員を置くことができる。

- 4 臨時委員は、特に専門的な事項について学識経験を有する者のうちから市長が委嘱する。
- 5 臨時委員の任期は、前項の事項に係る調査審議が終了するまでの間とする。
- 6 協議会においてあらかじめ議決を経た諮問事項については、部会の決議をもって協議会の決議とすることができる。
- 7 前2条、次条及び第9条の規定は、部会について準用する。

(関係者の出席)

第8条 協議会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(委任)

第9条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

付 則

この規則は、公布の日から施行する。

付 則(平成26年2月3日規則第1号)

この規則は、公布の日から施行する。

■名簿

那覇市母子保健推進協議会委員名簿

(平成27年3月現在)

	代表区分	氏名	所属	備考
1	関係団体 (小児科医)	ぐし かずお 具志 一男	沖縄県 小児科医会	会長
2	学識経験者	とうやま ゆうこ 當山 裕子	琉球大学医学部保健学科地域看護学	副会長
3	関係行政機関	くによし えつこ 国吉 悦子	沖縄県 保健医療部 健康長寿課 母子保健班	
4	関係団体 (産婦人科医)	とかしき みどり 渡嘉敷 みどり	沖縄県産婦人科医会	
5	関係団体 (歯科医)	いしはら はじめ 石原 一	(社)南部地区歯科医師会	
6	関係団体 (小児神経科医)	しろま なおひで 城間 直秀	医療法人愛燦会発達神経クリニックプロップ	
7	関係団体 (母子保健推進員)	ぐしけん けいこ 具志堅 恵子	那覇市母子保健推進員協議会	
8	関係団体・市民 (子育て支援)	たいら ひろこ 平良 博子	NPO法人ファミリーサポート愛さん会	
9	関係団体・市民 (子育て支援)	つちや ゆみこ 土屋 由美子	子育て応援キャラバン隊はぐくみ	

「健やか親子なは」計画策定作業部会設置要綱

(設置)

第1条 平成27年度から平成36年度までの「健やか親子なは」を策定するため、「健やか親子なは」計画策定作業部会(以下「部会」という。)を設置する。

(目的)

第2条 部会は、計画策定にあたり、住民代表、関係団体・組織、専門家、行政担当者等が担当する分野の課題を共有し、各々の取り組みや連携した取り組みなど対策の検討を行うことを目的とする。

(部会の構成及び所掌事務)

第3条 部会をより円滑に運営するため、次のグループを設置し、それぞれの事項を所掌する。

- (1) 周産期部会を設置し、「健やか親子なは」における周産期に関する事項を協議及び検討する。
- (2) 乳幼児部会を設置し、「健やか親子なは」における乳幼児期に関する事項を協議及び検討する。
- (3) 学童・思春期部会を設置し、「健やか親子なは」における学童期・思春期に関する事項を協議及び検討する。

(組織)

第4条 部会員は、「別表」のとおりとする。

- 2 部会に会長及び副会長を置き、委員の互選でこれを定める。
- 3 会長は、部会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 部会の会議は、会長が招集する。ただし、初回の会議は母子保健推進協議会長が招集する。

- 2 部会において、必要があると認めるときは、関係者に出席を求め、意見及び説明を聴くことができる。

(庶務)

第6条 部会の庶務は、健康部地域保健課が行う。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が部会に諮って定める。

付 則

この要綱は、平成26年10月17日から施行する。

■別表 <「健やか親子なは」策定作業部会>

	No	メンバー	所属など
①周産期部会 外部委員4人 庁内委員4人 事務局2人 計 10人	1	玉城 和美	沖縄協同病院 小児・産婦人科病棟師長
	2	宮里 玲子	沖縄県栄養士会 地域活動栄養士
	3	上原 仁美	妊産婦・新生児訪問助産師
	4	山城 章	那覇市社会福祉協議会 地域福祉課 課長
	5	嘉手納 一彦	健康増進課 歯科医師
	6	濱川 ルミ	子育て応援課 子育て支援室
	7	高良 瑠利子	こどもみらい課 子育て支援センター
	8	玉木 宏尚	地域保健課 助産師訪問担当保健師
	9	崎 辰子	事務局 地域保健課
	10	佐平 千佳	事務局 地域保健課
②乳幼児期部会 外部委員4人 庁内委員5人 事務局3人 計 12人	1	森脇 千夏	沖縄県自閉症協会 会長
	2	山城 初枝	那覇市母子保健推進員協議会母子保健推進員
	3	平良 博子	愛さん会(育児サポート団体)
	4	三木 元子	あじゃ保育園 認可保育園園長会代表
	5	金城 まみ	健康増進課 栄養士
	6	上地 敦子	こども政策課 あめくみらい幼保園
	7	佐久川 博美	こどもみらい課 療育センター心理士
	8	島袋 盛敦	障がい福祉課 発達障害担当
	9	屋嘉比 勝	消防局救急課 主幹
	10	崎原 真由美	事務局 地域保健課
	11	知念 則枝	事務局 地域保健課
	12	瑞慶山 躍司	事務局 地域保健課
③思春期部会 外部委員7人 庁内委員4人 事務局2人 計 13人	1	崎原 京子	那覇地区養護教諭研究会 養護教諭
	2	新垣 稚子	那覇地区養護教諭研究会 養護教諭
	3	宜保 律子	学校栄養士会 学校栄養士
	4	百名 奈保	思春期保健相談士 助産師
	5	具志堅 恵子	那覇市母子保健推進員協議会母子保健推進員
	6	吉田 洋史	那覇市PTA連合会 副会長
	7	島尻 和子	那覇市民生委員児童委員連合会 主任児童委員
	8	砂川 昌太	健康増進課 感染症班 保健師
	9	新垣 八十恵	健康増進課健康づくり班 保健師
	10	町田 久乃	教育相談課 教育相談主査
	11	宮浦 美佳	地域保健課 自殺予防担当保健師
	12	上原 周子	事務局 地域保健課
	13	當銘 なつ季	事務局 地域保健課

8. 策定の経緯

年 月 日	内容など
平成 26 年 9 月 ～11 月	・乳幼児健診（健やか親子なは）アンケート調査の実施
平成 26 年 10 月	
1 日（水） 19 時～	第 1 回那覇市母子保健推進協議会 ・計画策定の諮問 ・「健やか親子なは」の評価について
30 日（木） 14 時～17 時	第 1 回「健やか親子なは」計画策定作業部会 ・「健やか親子なは」の概要、課題の共有、重点テーマの検討
平成 26 年 11 月	
13 日（木） 14 時～17 時	第 2 回「健やか親子なは」計画策定作業部会 ・課題への対策検討、各組織の取り組みの報告及び意見交換
平成 26 年 12 月	
19 日（水） 19 時～	第 2 回那覇市母子保健推進協議会 ・「健やか親子なは」評価のまとめ（那覇市の母子保健の課題）の確認 ・新計画の方針（骨子）案等の確認
平成 27 年 1 月	
14 日（水） 14 時～17 時	第 3 回「健やか親子なは」計画策定作業部会 ・対策の検討、連携する取り組み等の検討
28 日（水） 19 時～17 時	第 3 回那覇市母子保健推進協議会 ・新計画の施策事業、目標指標等について
平成 27 年 2 月	
2 月 20 日（金） ～3 月 6 日（金）	・パブリックコメントの実施
平成 27 年 3 月	
18 日（水）	市長への答申

健やか親子なは2015

那覇市母子保健計画

平成27年3月

発行：那覇市 健康部 那覇市保健所 地域保健課
〒902-0076
沖縄県那覇市与儀1丁目3番21号
電話：098-853-7962
